

玉名市文化財調査報告 第40集

塚原遺跡Ⅱ

## 塚原遺跡Ⅱ

市道岱明玉名線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

玉名市文化財調査報告

第40集

平成  
30  
年  
3月

玉名市教育委員会

平成30(2018)年3月

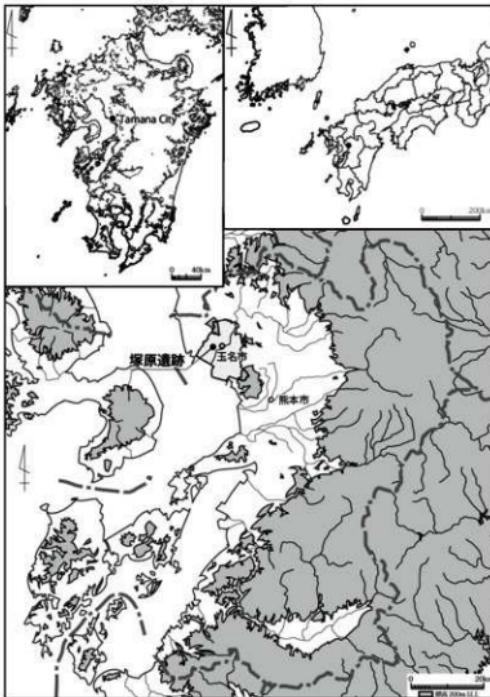
玉名市教育委員会





# 塚原遺跡Ⅱ

市道岱明玉名線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書



平成30（2018）年3月

玉名市教育委員会



# 序文

玉名市は、旧石器時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。九州新幹線の開業後、県北部における政治経済・教育文化・観光の中心都市としてさらなる発展を続けています。

このような中、玉名市教育委員会では、さまざまな開発事業との調整を図り、発掘調査等の円滑な遂行に努めております。公共及び民間のさまざまな事業に対応するため、常に玉名市内に所在する文化財の状況把握に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しているところあります。また、その成果の公開・活用を通じて、広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、市道岱明玉名線道路改良工事に先立ち、玉名市教育委員会が平成24年度に実施した、塚原遺跡調査2区の発掘調査報告書です。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、また、学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査、報告書作成にあたって各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼申し上げます。

平成30年3月22日

玉名市教育委員会  
教育長 池田 誠一

# 例言

1. 本書は、市道岱明玉名線道路改良工事に先立ち、平成 24 年度に玉名市岱明町野口字塚原にて実施した塚原遺跡調査 2 区の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査は、玉名市教育委員会を主体とし、その管理・監督のもと、株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店への委託業務として実施した。
3. 調査地の空中写真撮影は、九州航空株式会社熊本営業所に委託した。
4. 遺物の整理及び報告書作成作業は、平成 25 年度から平成 29 年度にかけて実施した。
5. 遺物の実測は、古閑敬士が行い、一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
6. 遺構図の製図は、江見恵留が行った。
7. 遺物実測図の製図は、菊池直樹、江見が行った。
8. 掃図に使用している座標値は、世界測地系の第 2 座標系に基づいており、方位は座標北を示す。
9. 土層及び遺物の色調は、「新版標準土色帖」（日本色研事業株式会社発行）に基づいている。
10. 本書の執筆・編集は、田中康雄、古閑、江見が行った。
11. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。

# 本文目次

序文

例言

本文目次

挿図目次

図版目次

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査にいたる経緯と組織

(1) 調査経緯	1
(2) 調査区の設定	1
(3) 調査組織	1

第2節 調査の方法 2

第Ⅱ章 地理的環境・歴史的環境

第1節 地理的環境 4

第2節 歴史的環境 4

第Ⅲ章 調査成果

第1節 調査概要 8

第2節 稲序 8

第3節 縄文時代の遺物 10

第4節 弥生時代の遺構・遺物 12

(1) 弥生時代中期	
1. 大型建物	13
2. 竪穴遺構	13
3. 土坑	30

(2) 弥生時代後期	
1. 竪穴住居・竪穴遺構	50
2. 土坑	57
3. 溝	61

第5節 その他の遺構・遺物 62

1. 土坑	62
2. 溝	65

第Ⅴ章 まとめ 71

報告書抄録

奥付

## 挿図目次

第1図	塚原遺跡調査区位置図	3	第41図	S100 実測図・出土遺物実測図	40
第2図	玉名市全図	5	第42図	S103 実測図	41
第3図	塚原遺跡周辺遺跡分布図	6	第43図	S109 実測図・出土遺物実測図	41
第4図	基本土層図	8	第44図	S113 実測図	41
第5図	塚原遺跡 2区遺構配置図(全体)	9	第45図	S120 実測図・出土遺物実測図 1	42
第6図	縄文時代の出土遺物	11	第46図	S120 出土遺物実測図	43
第7図	塚原遺跡 2区遺構配置図(弥生時代)	12	第47図	S132 実測図	44
第8図	S115 実測図	14	第48図	S135 実測図・出土遺物実測図	44
第9図	S115 出土遺物実測図	15	第49図	S139 実測図	44
第10図	S117 実測図	16	第50図	S142 実測図・出土遺物実測図	45
第11図	S117 出土遺物実測図 1	17	第51図	S149 実測図	45
第12図	S117 出土遺物実測図 2	18	第52図	S174 実測図・出土遺物実測図	46
第13図	S10 実測図	18	第53図	S176 実測図	47
第14図	S11 実測図	19	第54図	S178 実測図	47
第15図	S36 実測図・出土遺物実測図 1	21	第55図	S185 実測図・出土遺物実測図	47
第16図	S36 実測図・出土遺物実測図 2	22	第56図	S192 実測図	48
第17図	S43 実測図・出土遺物実測図	23	第57図	S193 実測図	48
第18図	S68 実測図・出土遺物実測図	24	第58図	S204 実測図	49
第19図	S93 実測図	25	第59図	S206 実測図	49
第20図	S98 実測図・出土遺物実測図	26	第60図	S209 実測図	49
第21図	S182 実測図・出土遺物実測図	27	第61図	S201 実測図	50
第22図	S183 実測図・出土遺物実測図	28	第62図	S53 実測図・出土遺物実測図	51
第23図	S190 実測図・出土遺物実測図	29	第63図	S105 実測図・出土遺物実測図 1	52
第24図	S12 実測図・出土遺物実測図	30	第64図	S105 出土遺物実測図 2	53
第25図	S40 実測図・出土遺物実測図	31	第65図	S110 実測図・出土遺物実測図	54
第26図	S42 実測図・出土遺物実測図	31	第66図	S187 実測図・出土遺物実測図 1	55
第27図	S47 実測図・出土遺物実測図	32	第67図	S187 出土遺物実測図 2	56
第28図	S52 実測図・出土遺物実測図	32	第68図	S2 実測図・出土遺物実測図	57
第29図	S57 実測図・出土遺物実測図	33	第69図	S177 実測図・出土遺物実測図	58
第30図	S70 実測図	33	第70図	S35 実測図・出土遺物実測図	59
第31図	S71 実測図	33	第71図	S111 実測図	59
第32図	S72 実測図・出土遺物実測図 1	35	第72図	S125 実測図	59
第33図	S72 出土遺物実測図 2	36	第73図	S186 実測図・出土遺物実測図	60
第34図	S72 出土遺物実測図 3	37	第74図	S211 実測図・出土遺物実測図	60
第35図	S81 実測図・出土遺物実測図	37	第75図	S162 実測図・出土遺物実測図	61
第36図	S85 実測図	38	第76図	塚原遺跡 2区遺構配置図(時期不明)	62
第37図	S86 実測図・出土遺物実測図	38	第77図	塚原遺跡 1・2区遺構配置図	63
第38図	S87 実測図	38	第78図	S50 実測図	65
第39図	S88 実測図・出土遺物実測図	39	第79図	S1 実測図・出土遺物実測図	66
第40図	S96・97 実測図・S97 出土遺物実測図	39	第80図	S4 実測図	67

第81図	S5実測図	68
第82図	S23・94実測図およびS23出土遺物実測図	69
第83図	S161実測	70

## 表目次

第1表	周辺遺跡一覧	6	第4表	出土遺物觀察表	
第2表	出土遺物觀察表 〔土器・土製品〕	73～82		〔鉄器・鐵製品〕	84
第3表	出土遺物觀察表 〔石器・石製品〕	82・83	第5表	出土遺物觀察表 〔玉類〕	84

## 図版目次

図版 1	塚原遺跡調査2区全景	S70 完堀（東から）
	塚原遺跡調査1・2区全景（合成）	S71 完堀（北から）
図版 2	塚原遺跡遠景（北から）	図版 10 S72 完堀（東から）
	塚原遺跡遠景（南から）	S81 完堀（東から）
図版 3	S115 完堀（東から）	S85 完堀（東から）
	S117 完堀（東から）	図版 11 S86 完堀（南から）
図版 4	S10 完堀（東から）	S88 完堀（西から）
	S11 完堀（東から）	S97 遺物出土状況（南から）
	S36 完堀（東から）	図版 12 S100 完堀（南から）
図版 5	S43 完堀（東から）	S103 完堀（東から）
	S68 完堀（東から）	S109 完堀（東から）
	S93 完堀（東から）	図版 13 S113 完堀（東から）
図版 6	S98 完堀（東から）	S120 完堀（東から）
	S182 完堀（東から）	S132 完堀（南から）
	S183 完堀（東から）	図版 14 S135 遺物出土状況（東から）
図版 7	S190 完堀（東から）	S135 完堀（南から）
	S12 完堀（西から）	S139 完堀（東から）
	S40 完堀（東から）	図版 15 S142 完堀（東から）
図版 8	S42 完堀（東から）	S174 遺物出土状況（南から）
	S47 完堀（東から）	S174 完堀（南から）
	S52 完堀（北から）	図版 16 S176 完堀（東から）
図版 9	S57 完堀（東から）	S185 遺物出土状況（西から）

	S185 完堀（北から）	S187 完堀（南から）
図版 17	S192 完堀（東から）	S2 完堀（北から）
	S206 完堀（南から）	S177 完堀（東から）
	S209 完堀（北から）	S111 完堀（西から）
図版 18	S53 完堀（北から）	S125 完堀（南から）
	S105 完堀（南から）	S186 遺物出土状況（西から）
図版 19	S110 遺物出土状況（東から）	S186 完堀（東から）
	S110 完堀（北から）	S211 完堀（東から）
図版 20	S187 遺物出土状況 1（北から）	S50 完堀（南から）
	S187 遺物出土状況 2（東から）	S1 完堀（東から）
図版 21	S187 遺物出土状況 3（東から）	S5 完堀（西から）

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査にいたる経緯と組織

### (1) 調査経緯

市道岱明玉名線は、国道501号と国道208号を南北に結ぶ幹線道路として計画された。平成17年10月の1市3町（旧玉名市・岱明町・横島町・天水町）による合併前に、旧岱明町により、国道501号から県道長洲玉名線までは供用が開始されており、残りの区間につき合併後の玉名市により事業化されることとなった。平成17年10月21日に、当時の事業主体であった玉名市役所土木課及び玉名市岱明総合支所建設課と文化課の3課による協議を行い、計画路線内の広範囲に周知の埋蔵文化財包蔵地（塚原遺跡・木船西遺跡・大原遺跡）が所在していることを確認し、事前に計画路線内の試掘・確認調査を実施することとなった。塚原遺跡及びその周辺部については、用地買収終了後の平成21年度に実施し、計画路線の大部分で埋蔵文化財を確認した。この結果から、埋蔵文化財が確認された範囲につき、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。調査経費については、道路事業の財源である、国土交通省の社会資本整備総合交付金及び合併特例債を活用することとなった。

### (2) 調査区の設定

今回の調査は、市道岱明玉名線道路改良工事に先立つ調査である。確認調査の結果、計画路線のうち、塚原遺跡の範囲内及びその周辺部については、ほぼ全域において埋蔵文化財が確認され、発掘調査対象面積は約11,000m<sup>2</sup>に及んだ。本道路事業は合併特例債対象事業であるが、当該期間が平成27年度末（その後5年間延長）であり、当該遺跡北側の木船西遺跡・大原遺跡においても広範囲にわたる発掘調査が想定されたため、早急に調査を完了させる必要に迫られた。このため、調査対象地のうち、県道長洲玉名線側から対象地を横断する市道塚原専大玉高線間を調査1区（約8,600m<sup>2</sup>）、市道塚原専大玉高線とJR鹿児島本線間を調査2区（約2,300m<sup>2</sup>）とし、調査1区を平成22・23年度の直営事業、調査2区を平成24年度の業務委託事業として発掘調査を実施することとした。

### (3) 調査組織

塚原遺跡2区の発掘調査体制及び整理・報告書作成作業に関わる組織は次のとおりである。

事業主体 玉名市役所土木課（平成24・25年度）

玉名市役所建設課（平成26～29年度）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任者 教育長 森 義臣（平成24年度）

〃 池田誠一（平成25～29年度）

調査総括 文化課長 小山正義（平成 24・25 年度）  
調査総括 “ 中山富雄（平成 26・27 年度）  
文化課長 竹田宏司（平成 28・29 年度）  
調査庶務 文化財係長 植原孝信（平成 24 年度）  
課長補佐兼文化財係長 境 順一（平成 25 年度）  
文化財係長 小山 博（平成 26 年度）  
課長補佐兼文化財係長 竹田宏司（平成 27 年度）  
文化財係長 田中康雄（平成 28・29 年度）  
主事 西田言道（平成 24・25 年度）  
主任 伊藤登志也（平成 26 年度）  
参事 西島涼子（平成 26～28 年度）  
技術主任 大倉千寿（平成 29 年度）  
調査監理 主査 田中康雄（平成 24 年度）  
調査受託者 埋蔵文化財サポートシステム熊本支店  
調査担当 主任調査員 小石龍信（埋蔵文化財サポートシステム熊本支店）  
調査員 島内浩輔（埋蔵文化財サポートシステム熊本支店）  
土木施工管理 雨田輝之（埋蔵文化財サポートシステム熊本支店）  
整理・報告書作成担当  
主査 田中康雄（平成 25～26 年度）  
参事 田中康雄（平成 27 年度）  
文化財係長 田中康雄（平成 28～29 年度）  
技術主任 菊池直樹（平成 29 年度）  
調査員 古閑敬士（平成 25～29 年度）  
調査員 江見恵留（平成 27～29 年度）  
整理作業員（順不同・敬称略）  
五野富美子、坂崎郷子、早川イツエ、高津千尋、吉川ゆかり、北嶋百合子、藤井めい子、前川直美、  
松本えり子

## 第2節 調査の方法

調査区内には、世界測地系の公共座標に基づき 10m × 10m のグリッドを設定した。グリッドの名称は、X 軸方向に数字、Y 軸方向に英字を付し、その起点は X:- 8530、Y:- 43900 に設定した。

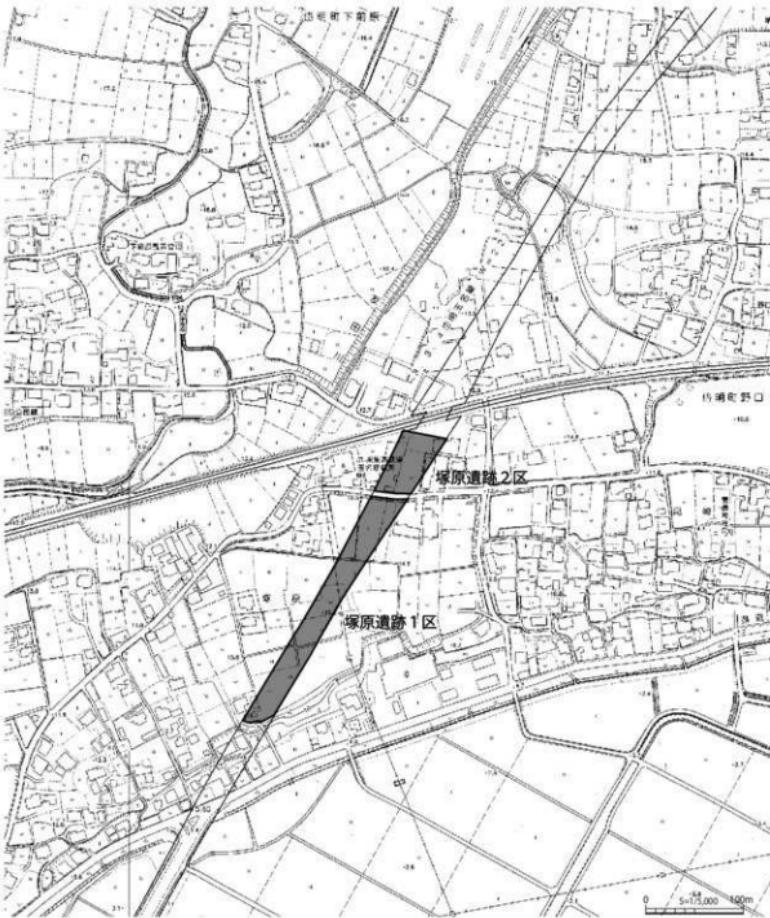
掘削については、確認調査の結果から、後述する基本土層Ⅲ層以下を調査対象とし、その上位はバッケホーにより行った。遺物包含層及び遺構は、移植ゴテによる掘削を基本とし、遺物の出土状況や遺構種別に応じてスコップや竹べらを用いた。

検出した遺構（小穴:P それ以外:S）については、検出順に番号を付し、1/20 もしくは 1/10 スケー

ルで調査員及び作業員が実測した。しかし、最終的に遺構ではないと判断したものもあり、それらは欠番となっている。

記録写真是、中判サイズのカラーリバーサルフィルム、モノクロフィルムでの撮影を主とし、メモ写真としてデジタルカメラによる撮影も行った。

包含層出土遺物は各グリッド毎に層位・出土日を記録し一括して取り上げた。遺構内遺物も遺構毎に同様に取り上げたが、出土状況を実測したものについては、個別に番号を付し、出土レベルを計測・記録した。



第1図 塚原遺跡調査区位置図

## 第Ⅱ章 地理的環境・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

玉名市は、熊本県の北部に位置する面積 152 平方キロメートル、人口約 6 万 7 千人の地方都市である。市域は、阿蘇外輪山の深葉山地（阿蘇市）に発し、熊本県北部を有明海に向かって流れる菊池川下流域を占めている。その菊池川が市中央部を南に向かって貫流し、その周辺には、菊池川とその支流繁根木川による堆積層で形成された玉名平野が広がっている。玉名平野の現在の標高は 4.8 ~ 6 m 程度で、大部分が水田等の耕作地として利用されている。玉名平野は、その北西部で筒ヶ岳（標高 501 m）を主峰とする小代山地・丘陵地及びこれに続く台地・段丘と接し、北部では繁根木川を挟んで小代山地に面した白間山地と接している。また平野東部では、木葉川を境として北側で国見山（標高 383 m 山鹿市鹿央町）を主峰とする国見山地の丘陵及びその南端部に位置する木葉山（標高 286 m）と接し、南部で金峰火山群の熊野岳（二ノ岳 標高 685 m）、三ノ岳（標高 681 m）を主峰とする金峰山地とこれに続く丘陵性台地に接している。このように、平野の三方を山地・丘陵地等に囲まれ、平野と接する丘陵末端部の多くに集落が形成されるが、現在の中心地は、玉名平野の西部に接する玉名台地上に営まれている。平野前線部は、江戸時代以降から現代にいたる広大な干拓地が広がり、有明海と接している。

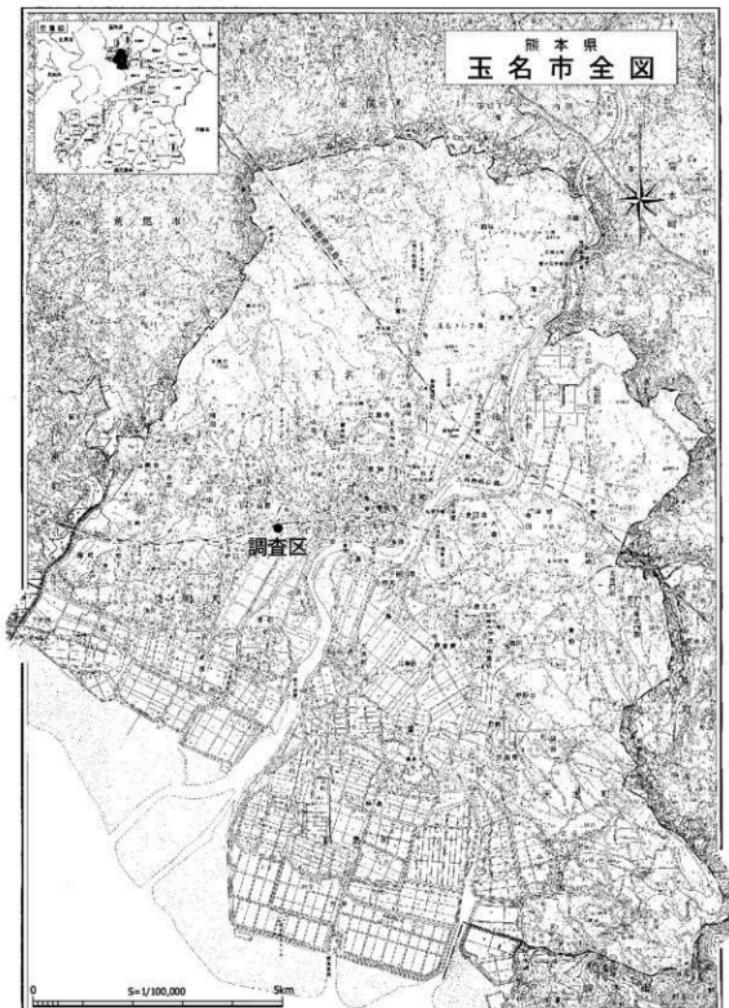
塚原遺跡は、小代山地南側の丘陵から南に広がる玉名台地上に立地する。この台地は 4 段の段丘により構成され、当遺跡はその第三段丘南東側末端部（標高 14 ~ 15 m）に位置している。当遺跡北側の谷底平野には現在二級河川行末川の支流友田川が流れているが、更新世中期頃までは、周辺部も含めこの一帯が菊池川の流路であったとされ、その後更新世末期における小代山の隆起に伴い菊池川は東より流路を変え、現在の位置に達したとされる。このため、玉名台地の各段丘は旧菊池川の河川堆積層とされる岱明層により構成され、当遺跡においては後述する基本土層 V 層がそれにあたる。遺跡南側には平野部（標高 3 ~ 4 m）が広がり、その南端部には、砂丘堆積層上に形成された集落（玉名市滑石・小浜・岱明町上）が所在する。さらにその南側（主に国道 501 号以南）は、江戸時代以降の干拓地が広がる。これらのことから、当遺跡の形成期（特に弥生期から古墳期）には、かなり海岸線に近い立地であったと考えられる。

### 第2節 歴史的環境

塚原遺跡周辺には、縄文時代から中世にかけての遺跡が濃密に分布しているが、その大半は現地踏査等での確認であり、その内容が明確に把握されているものは少ない。

縄文時代の遺跡としては、台地末端部に尾崎貝塚（3）、浜田貝塚（5）、庄司貝塚（8）、古閑原貝塚（9）といった小規模な貝塚が点在している。このことから、縄文海進期には当該台地末端線が海岸線であり、その近辺に集落が営まれたと考えられる。

弥生時代においては、現在のところ前期の遺構・遺物は確認されていないが、中期以降の遺跡は



第2図 玉名市全図



第3図 塚原遺跡周辺遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧

No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	西上土道跡	縄文	29	中上貝塚	弥生	56	湯畠神寺跡	中世
2	中上柄山尾道跡	縄文～弥生	30	山下前畠遺跡	弥生・古墳	57	万福寺跡	中世
3	尾崎貝塚	縄文	31	中道遺跡	弥生	58	吉宝寺跡	中世
4	日出尾道跡	縄文	32	山下木貴眞遺跡	弥生・古墳	59	岩倉山平等寺跡	中世～近世
5	浜田貝塚	縄文	33	幸長ノ道跡	弥生・古墳	60	上村城跡	中世
6	中上道跡	縄文	34	石橋道跡	弥生	61	中上屋敷跡	中世
7	山下西道跡	縄文	35	イッヂシンサン道路	弥生	62	西中上五輪塔群	中世
8	庄司貝塚	縄文	36	野口前遺跡	弥生	63	願正寺跡	中世
9	古閑原日塚	縄文	37	塚原古墳	古墳	64	淨空寺跡	中世
10	中根崎遺跡	弥生	38	浜田吹上古墳	古墳	65	渠地次郎国秀顕跡	中世
11	今泉道跡	弥生	39	勝光寺古墳	古墳	66	前原宗因の墓	中世
12	今ノ木道跡	弥生	40	弁財天古墳	古墳	67	慶寺古塔碑群	中世
13	東原石道跡	弥生	41	東中上道跡	古墳・古代	68	正覚寺跡	中世
14	天神木道跡	弥生	42	下前原道跡	古墳	69	木船遺跡	中世
15	下前口道跡	弥生	43	大路道跡	古墳	70	木船五輪塔	中世
16	塚原石蓋上坑墓群	弥生	44	浜田西原道跡	古墳	71	森崎直次郎前原定孝の墓	中世
17	菊ノ尾天神木道跡	弥生～古代	45	大悟山寺等寺跡	古代・中世	72	森崎伊勢守貞長の墓	中世
18	年の神道跡	弥生	46	大悟山寺等寺泥沙門堂	古代・中世	73	内野城跡	中世
19	東南大門道跡	弥生～古墳	47	旗布道跡	古代	74	中上館跡	中世
20	春出道跡	弥生・古代・中世	48	下河原条里跡	古代	75	中上の六地蔵石幢	中世
21	下前原道跡	弥生	49	西能王丸五輪塔	中世	76	荒野尼五輪塔	中世
22	東原道跡	弥生	50	徳王丸屋敷跡	中世	77	仏教寺跡	中世
23	大原道跡	弥生～中世	51	伊勢守紀光隆の墓	中世	78	無量山寿福寺跡	中世
24	木船西道跡	弥生	52	上の六地蔵石幢	中世	79	幸長寺跡	中世
25	木船東道跡	弥生	53	北清寺跡	中世	80	勝光寺跡	中世
26	尾崎道跡	弥生・古墳	54	陣割跡	中世	81	高道城跡	中世
27	塚原道跡	弥生～中世	55	陣の五輪塔	中世	82	二仏庵跡	中世

濃密に分布している。年の神遺跡（18）においては、弥生時代中期の支石墓（ゴホウラ製貝輪出土）及び多数の甕棺墓等が確認されており、東南大門遺跡（19）でも42基の甕棺墓及び弥生時代終末期から古墳時代初頭と考えられる周溝墓（主体部木棺墓2基）が確認されている。同道路事業に伴い発掘調査を実施した大原遺跡（23）、木船西遺跡（24）においては、弥生時代中期から後期にかけての大規模な集落跡が確認されている。なお、大原遺跡の別地点においては、箱式石棺群や大型の木棺墓も確認されている。また、前述した木船西遺跡の西に隣接する下前原遺跡（21）においては、弥生時代後期の集落跡が確認されており、年の神遺跡南側の山下木佐貫遺跡（31）においても弥生時代中期の甕棺墓1基及び、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落跡が確認されている。今回調査を実施した塚原遺跡も含め、これらの遺跡はそれぞれが隣接して所在しており、一体的な集落であるとも考えられる。

古墳時代においては、古墳時代初頭の集落跡及び、今回の塚原遺跡の調査により確認した前期の集落跡以外に明確な集落跡は確認されていない。ただし、当遺跡周辺には、首長墓と考えられる古墳や、当該期の遺物が確認されている遺跡も所在していることから、他の集落跡の存在が想定される。首長墓とされる古墳としては、前方後円墳とされる藤光寺古墳（39）、弁財天古墳（40）、その他にも塚原古墳（36）、浜田吹上古墳（38）、浜田西原古墳参考地（37）があるが、これらの多くは発掘調査が行われておらず、その内容は明確でない。なお、平成28年度に、開発行為に伴い実施した藤光寺古墳における確認調査では、周溝の一部と考えられる溝を確認している。

古代期においては、遺物の出土は認められるが明確な遺構は確認されていない。塚原遺跡が所在する玉名市岱明町（旧玉名郡岱明町）一帯は、律令制のもと成立した玉名郡の一部にあたるが、11世紀初頭に玉名郡は東郷と西郷に分割されたと考えられており、その後さらに幾つかの莊園に再編されることになる。当該地一帯及び現玉名市北西部（旧玉名市西部）は、玉名西郷にあたり、その後当該地には宮崎八幡宮領の「大野別符」が成立する。

中世期においては、当該地一帯に多くの城館跡、寺院跡、石造物等が所在するが、これらは当該地の地頭職であった大野氏一族の影響によるものと考えられる。大野氏は、古代期玉名西郷の郡司であり、その後「大野別符」を成立させたとされる紀氏の流れをくむ在地勢力とされ、地頭職として当該地一帯を支配したが、14世紀以降、隣接する野原莊（現荒尾市一帯）の地頭職であった小代氏と対立するようになり、16世紀末に滅亡することとなる。大野氏の滅亡と共に、その城館を中心とし、寺院群によって形成されていた当該地一帯の景観は失われ、近世・近代期を経て現在にいたっている。

#### 参考文献

- 高橋俊正 1993「第三章 地形」『玉名市史 資料編3 自然・民俗』玉名市
- 規工川宏輔 1993「第四章 水系・谷密度」『玉名市史 資料編3 自然・民俗』玉名市
- 長谷義隆 1993「第五章 地質」『玉名市史 資料編3 自然・民俗』玉名市
- 門岡 久 1969「明治百年記念 岱明町地方史」岱明町
- 小川弘和 2005「古代・中世編」『岱明町史』岱明町
- 兵谷有利・中村安宏 2011「玉名市遺跡地図」玉名市文化財調査報告第26集 玉名市教育委員会

## 第Ⅲ章 調査成果

### 第1節 調査概要

今回の調査は、塚原遺跡調査1区と同様、市道の改良工事に伴うものであり、路線内のみの調査であったため、遺跡の全容を把握するにはいたっていない。しかし、調査1区と併せて延長約250m、幅約35mの広範囲にわたり調査を行ったことから、ある程度遺跡の性格を想定するに足る結果が得られたと考えている。

調査の結果、縄文時代の遺物、弥生時代中期から後期にかけての遺構・遺物が確認された。また、ごくわずかであるが、古代期・中世期・近世期の遺物も確認された。

縄文時代については、少量の土器片が包含層及び他時代遺構内に混入した状況で確認された。

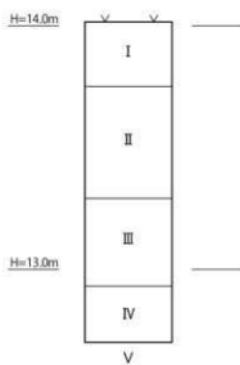
弥生時代中期については、調査区のほぼ全域にわたって建物跡・竪穴遺構・土坑といった集落跡を確認した。

弥生時代後期については、中期と同様に住居跡等の集落跡を確認したが、調査区南側に偏っており、その密度も低い。

### 第2節 層序

調査対象地は、北から南に緩やかに傾斜する台地上に位置する。調査区内はおおむね標高14m前後の平坦地であるが、北端部はJR鹿児島本線に沿って0.7m程度低くなっている。土層の堆積状況から近代から現代にかけて土地造成に伴う切土や盛土が繰り返されていると考えられる。また宅地・事業用地・耕作地が混在し、その影響によると考えられる擾乱が多数認められた。基本土層の詳細は以下のとおりである。

- I 土地造成に伴う客土及び耕作土
- II 土地造成に伴う客土及び旧耕作土
- III 黒褐色土（7.5YR3/2） しまりがあり、わずかに粘性を有する。遺物包含層。
- IV 黒褐色土（5YR3/1） しまりがあり、わずかに粘性を有する。弥生時代中・後期の遺構検出面。
- V 倍明層 調査区内で色調・土質・混入物が大きく変化する。色調は主に黄褐色及び明黄褐色を呈し、土質はシルト質・砂質・砂礫等一定でない。



第4図 基本土層図



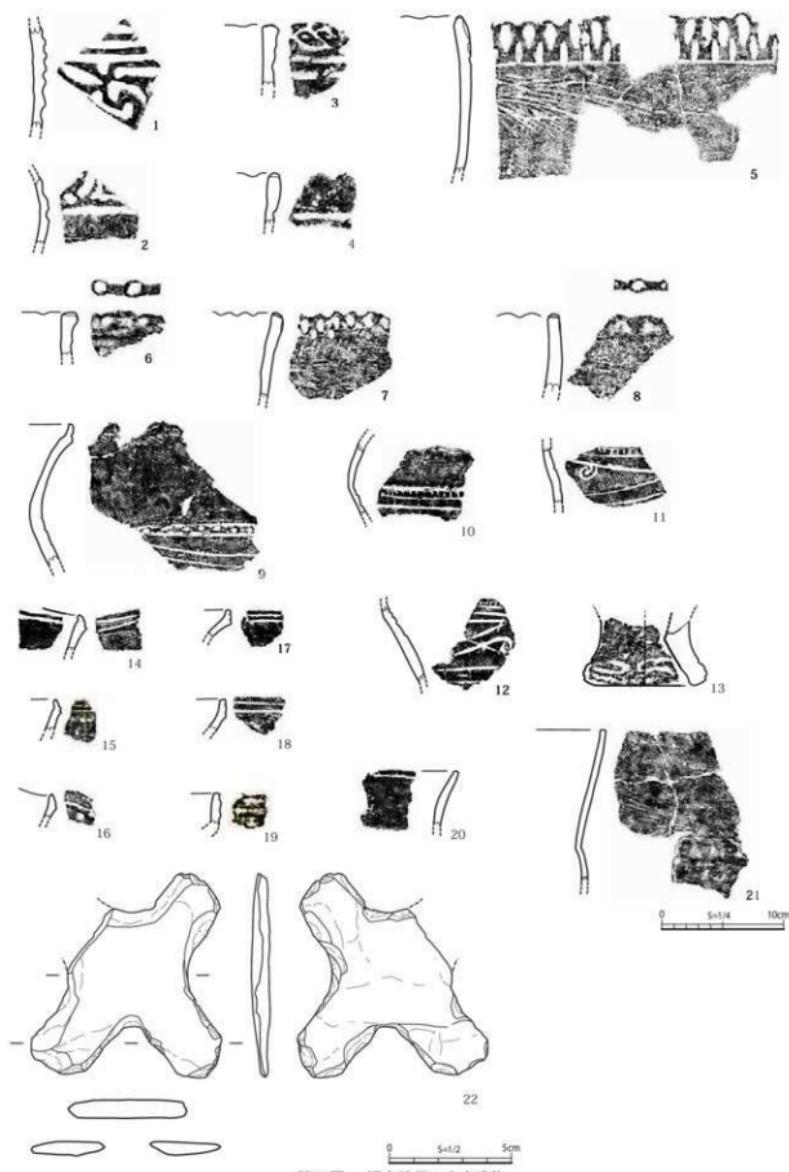
第5図 塚原遺跡2区遺構配置図（全体）

### 第3節 繩文時代の遺物

繩文時代の遺物として少量の土器小片及び石器が確認された。主に基本土層Ⅲ層からの出土であり、一部他時代遺構内に混入していたものもある。これらのうち、22点を掲載した。

第6図1～8は阿高式および阿高式系の土器で、中期から後期初頭の時期と見られる。1は阿高式で、凹線文の直線と短い曲線を組み合わせた文様が施されている。この施文の際粘土が押され、内器面側では文様と反転して弱い凹凸が現れている。また、胎土には滑石を多く含んでいる。2は凹線による文様帶下に無文部分がある。これも胎土に滑石を多く含む。3～8は阿高式系の土器と見られ、阿高式より簡略化した細い凹線や凹点が口縁付近に入るもので、中期後半から後期前半の時期と考えられる。3はやや浅く直線的な凹線文が施され、口唇部は粘土を編んだ紐のように成形している。5～8は口唇を連続して押しし刻みをつけたものである。5は口縁の文様帶を細い凹線で区切り、2段の縱長の凹点文で埋めている。口唇の刻みも上段の凹点の間に配置されている。口縁文様帶以下は無文で、直下に条痕が残り、胎土には滑石を多く含んでいる。6は口唇に間隔を開けた刻みを持つが、無文のままである。7は外面に小さな凹点が2段施されるが、下段は右側で途切れる。8は指頭圧痕のような浅い凹点が認められる。

9～19は後期中ごろの磨消繩文系の土器で、口縁や頸部に直線または曲線に沈線を巡らし、線間に縄文や貝殻擬似縄文を施すという特徴がある。9は口縁から肩部まで器形を窓うことの出来る深鉢で、それぞれ口縁の文様帶には沈線と擬似縄文、頸部以下は沈線と押点による文様が施されている。胎土には金雲母を多量に含む。10～12は鉢形の頸部と見られ、磨消繩文と刺突文や沈線が組み合わされる。13は底部が脚台となるもので、北久根山式の特徴を持つ。14～18は口縁部文様帶の小片で、2本の沈線間や上下に縄文または貝殻擬似縄文が刻まれる。14では外面に2本の沈線が施されるほか内面にも深く沈線が刻まれる。15にも内面に沈線が残る。19は凹線2条が口縁文様帶を巡っている。20はわずかに外反する口縁の内器面側に沈線が1本施される。21は晩期前半の深鉢形土器で、口縁から頸部の屈曲までが長く、外器面は細かいケズリ調整が見られる。22は十字形石器とみられるが、「X」字に近い角度で整形されている。扁平な素材を利用しており、先端から縁辺部分に刃部となるような鋭利な加工は見られない。



第6図 縄文時代の出土遺物

#### 第4節 弥生時代の遺構・遺物

弥生時代については、中期及び後期の遺構・遺物を検出した。中期の遺構としては、大型建物2基、竪穴遺構10基、土坑37基を検出した。後期の遺構としては、竪穴住居4基、竪穴遺構2基、土坑5基、溝1本を検出した。各遺構及び出土遺物の詳細は以下のとおりである。



第7図 塚原遺跡2区遺構配置図（弥生時代）

## (1) 弥生時代中期

## 1. 大型建物

## 【S115】(第8・9図、図版3)

S115は調査区中央やや南寄りのS-25・26グリッドに位置する。円形を呈する建物跡で、直径約7.5m、深さ約0.2mを測る。南東側の一部を弥生時代後期の土坑S125により切られている。遺構中央部に土坑(S.1)を有し、その北東側に小穴1基が設けられている。その外側に9基の柱穴(P.1～9)が環状に配置されるが、東西に他より間隔が広く取られた部分が認められる。S.1南東側の土坑(S.2)は、柱穴P.8の抜き取り時に形成された可能性が考えられる。

遺物は、縄文時代後期の土器小片、弥生時代中期の土器・石器、弥生時代後期の土器が出土しているが、縄文土器及び弥生時代後期の土器は混入と考えられる。

## 【S117】(第10～12図、図版3)

S117は調査区南西のR-25グリッドに位置する。円形を呈する建物跡で、直径約6.5m、深さ約0.25mを測る。遺構のほぼ中央部を南北に時期不明の溝S23に切られ、北西側の一部を弥生時代中期の土坑S57に切られている。遺構中央部に南北方向に長い楕円形の土坑(S.1)、南側壁際に浅い土坑2基(S.2・S.3)を有し、S.1の両端には小穴(P.15・16)が設けられている。S.1の外側には14基の柱穴(P.1～14)が環状に配置されるが、切り合い関係にあるものや、近接するものが複数あるため、建て替えが行われたと想定される。柱穴の配置状況から8本柱の建物と想定される。床面には壁際を除いて全体的に硬化面が認められる。

遺物は、弥生時代中期の土器・土製品・石器が出土している。

## 2. 竪穴遺構

## 【S10】(第13図、図版4)

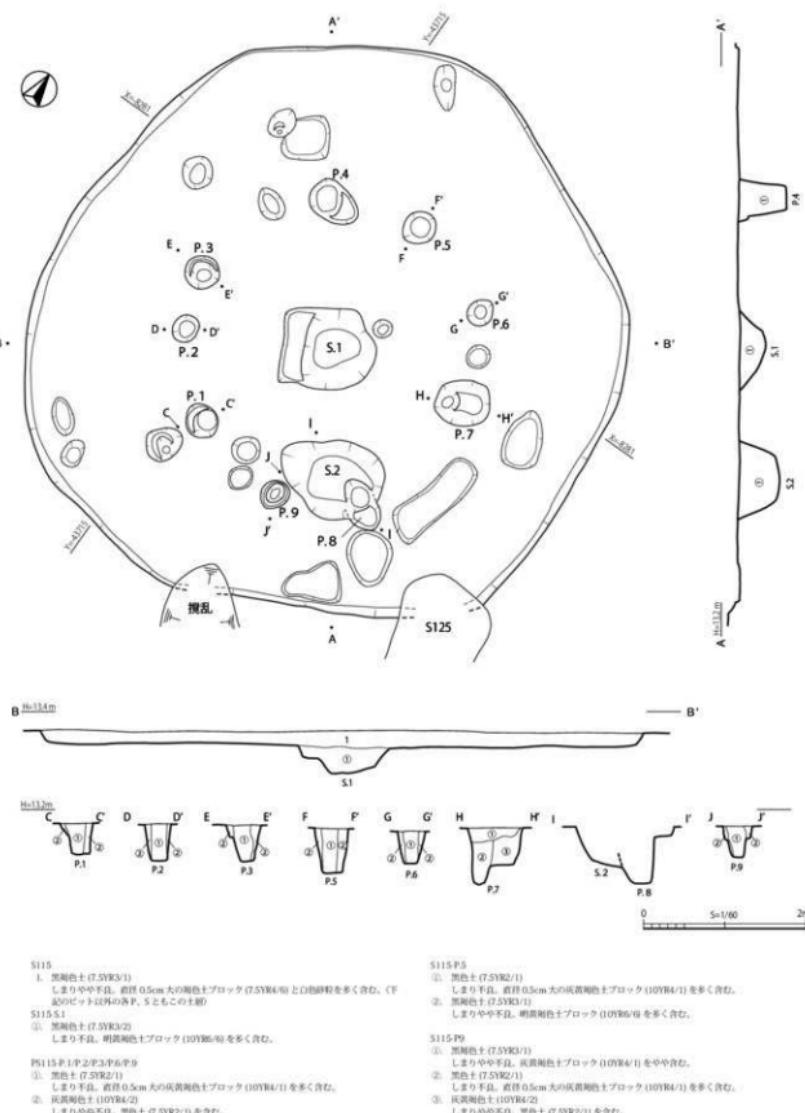
S10は調査区中央のS-26グリッドに位置する。隅丸長方形を呈する竪穴遺構で、長軸約2.8m、短軸約2.5m、深さ約0.3mを測る。

遺物は、弥生時代中期の土器・石器が出土している。

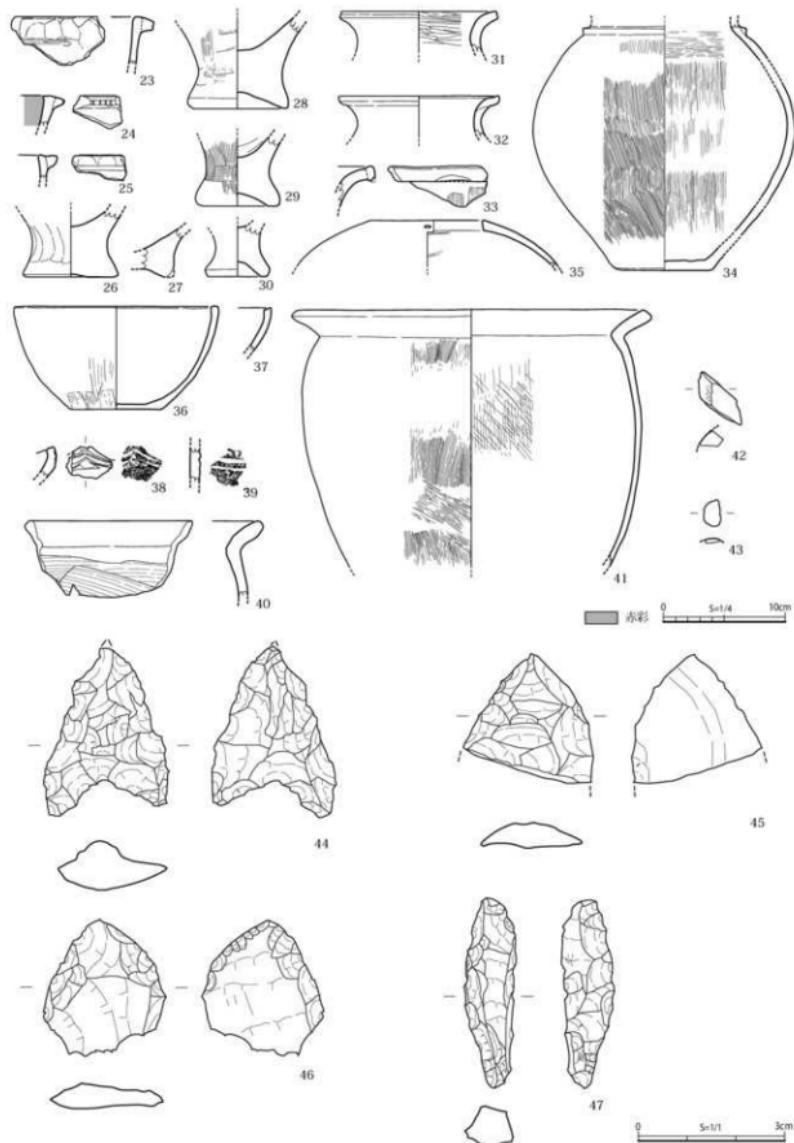
## 【S11】(第14図、図版4)

S11は調査区北東のR-27グリッドに位置する。やや扁平ぎみの円形を呈する竪穴遺構で、直径約5.5m、深さ約0.2mを測る。遺構南東側の一部を弥生時代中期の土坑S12に、南西側の一部を同じく弥生時代中期の土坑S185に切られている。遺構のほぼ中央部に2基の小穴を有し、北東から南西にかけての壁面側に7基の小穴を弧状に配置している。

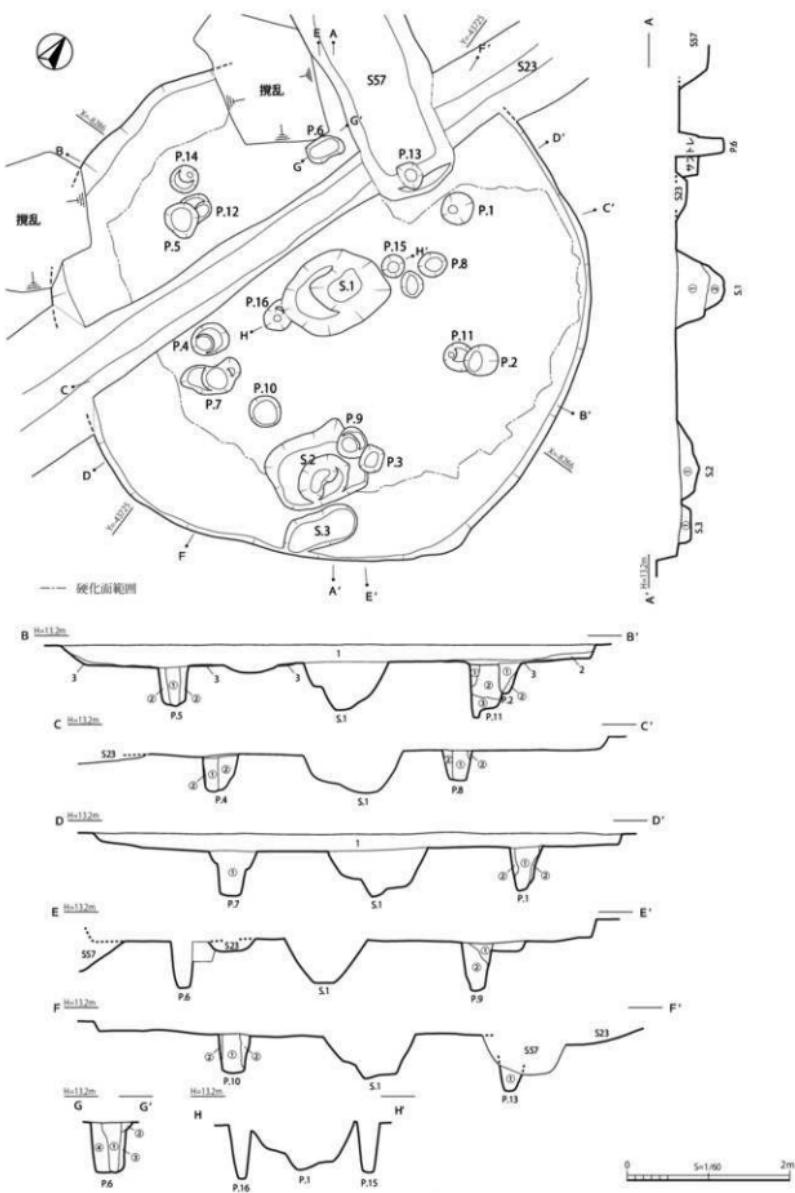
遺物は、縄文時代後期の土器小片、弥生時代中期の土器・石器が出土しているが、縄文土器は混入と考えられる。



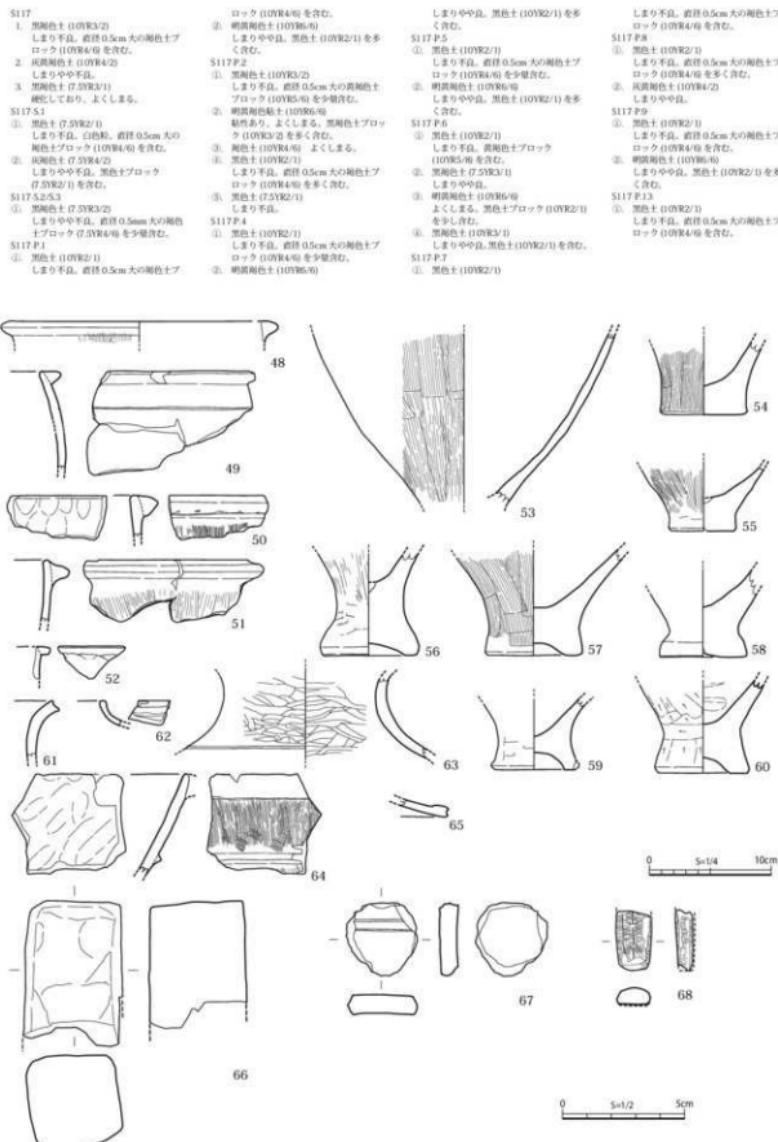
第8図 S115 実測図



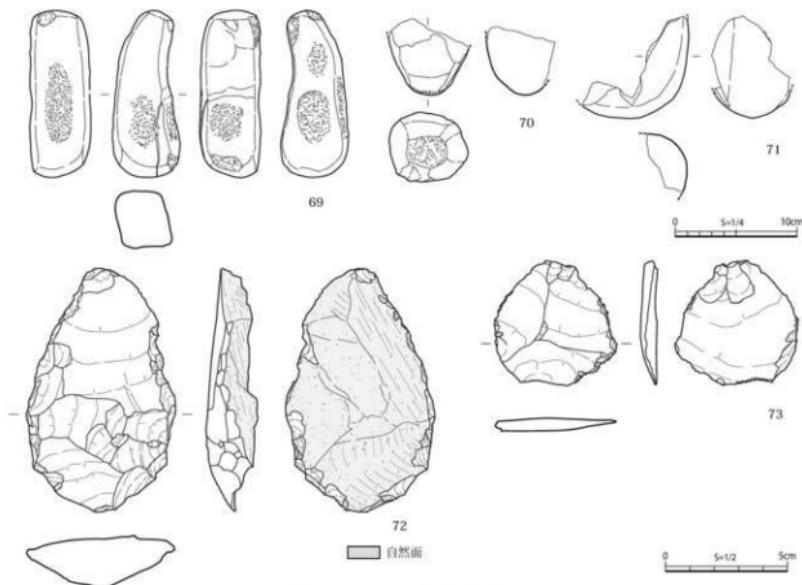
第9図 S115 出土遺物実測図



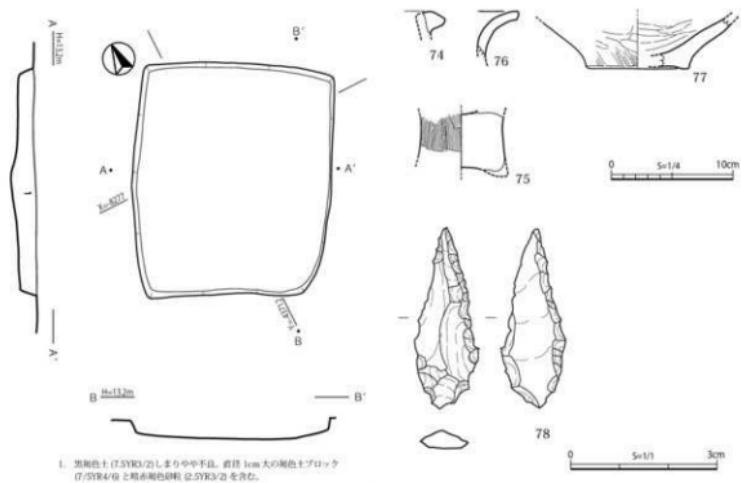
第10図 S117実測図



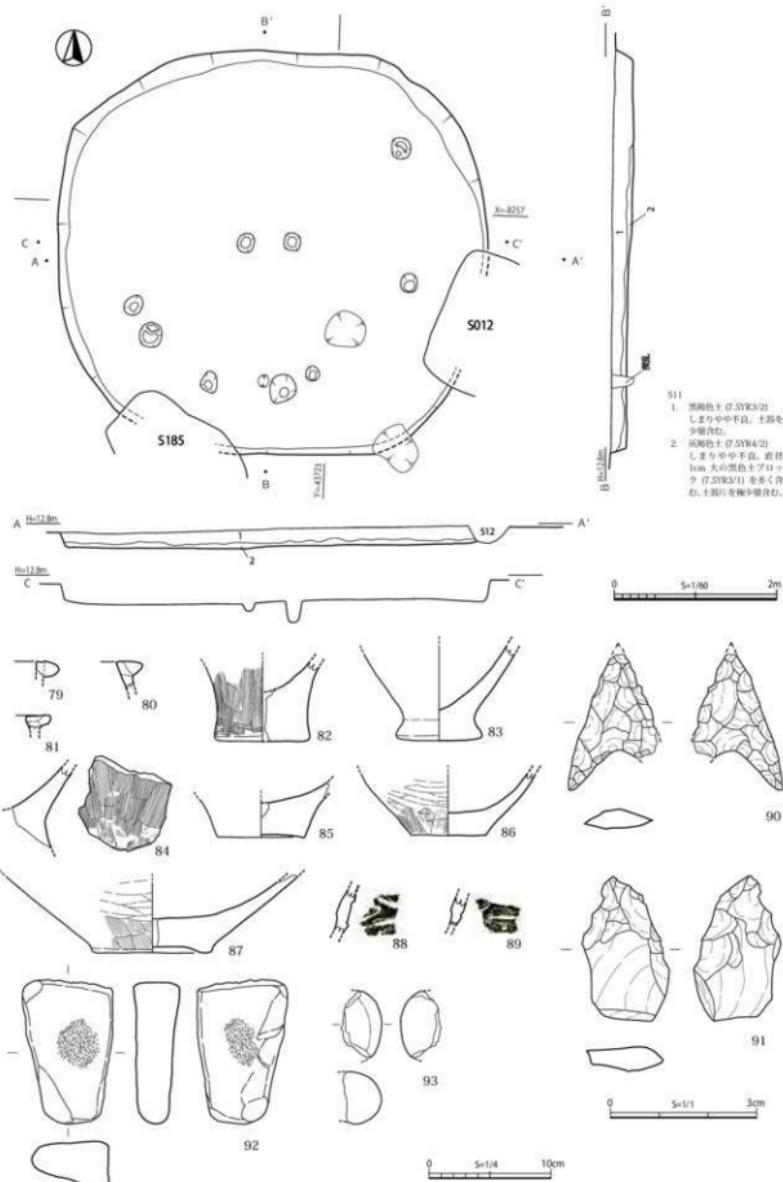
第11図 S117出土遺物実測図1



第12図 S117出土遺物実測図2



第13図 S110実測図・出土遺物実測図



第14図 S11実測図・出土遺物実測図

## 【S36】(第 15・16 図、図版 4)

S36 は調査区中央やや西寄りの R-26・S-26 グリッドに位置する。やや不整な長方形を呈する竪穴遺構と考えられるが、遺構西側を攪乱により削平され、北側を弥生時代後期の土坑 S186 により切られるため明確ではない。また遺構東側中央部を時期不明の溝 S5 にも切られている。残存部で長軸 6.2 m、短軸 4.6 m、深さ 0.3 m を測る。遺構の北東隅と南東隅にベット状遺構が認められるが、南東隅のものは非常に不整形である。また、中央部やや北側と中央から南側にかけて認められる土坑状の遺構については、調査時には認識されていないが、別遺構との切り合いの可能性も考えられる。

遺物は、弥生時代中期の土器・石器が出土している。

## 【S43】(第 17 図、図版 5)

S43 は調査区西端ほぼ中央部の Q-26・R-26 グリッドに位置する。隅丸の長方形を呈すると考えられるが、遺構西半部が調査区外に及んでいるため明確ではない。遺構中央部を時期不明の小穴により切られている。検出部で東西 4 m、南北 4.6 m、深さ 0.36 m を測る。遺構内に浅く不整形な掘り込み 2 基と小穴 2 基が認められる。

遺物は縄文時代後期の土器小片、弥生時代中期の土器・石器が出土しているが、縄文土器は混入と考えられる。

## 【S68】(第 18 図、図版 5)

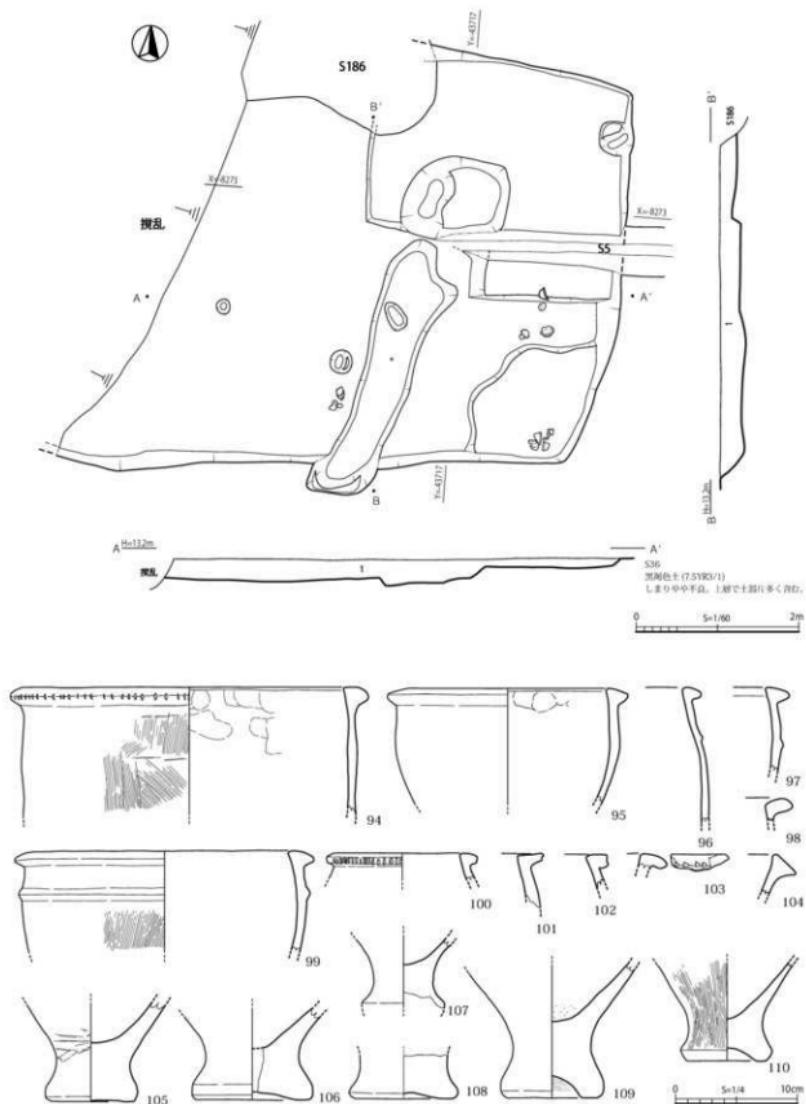
S68 は調査区西端南側の Q-25 グリッドに位置する。方形もしくは長方形を呈する竪穴遺構と考えられるが、遺構西側が調査区外に及んでいるため明確ではない。検出部で東西 2.35 m、南北 3.1 m、深さ 0.48 m を測る。遺構北側の壁際にテラス状の段を有し、南側床面に 3 基の浅い小穴が認められる。

遺物は弥生時代中期の土器・石器が出土している。

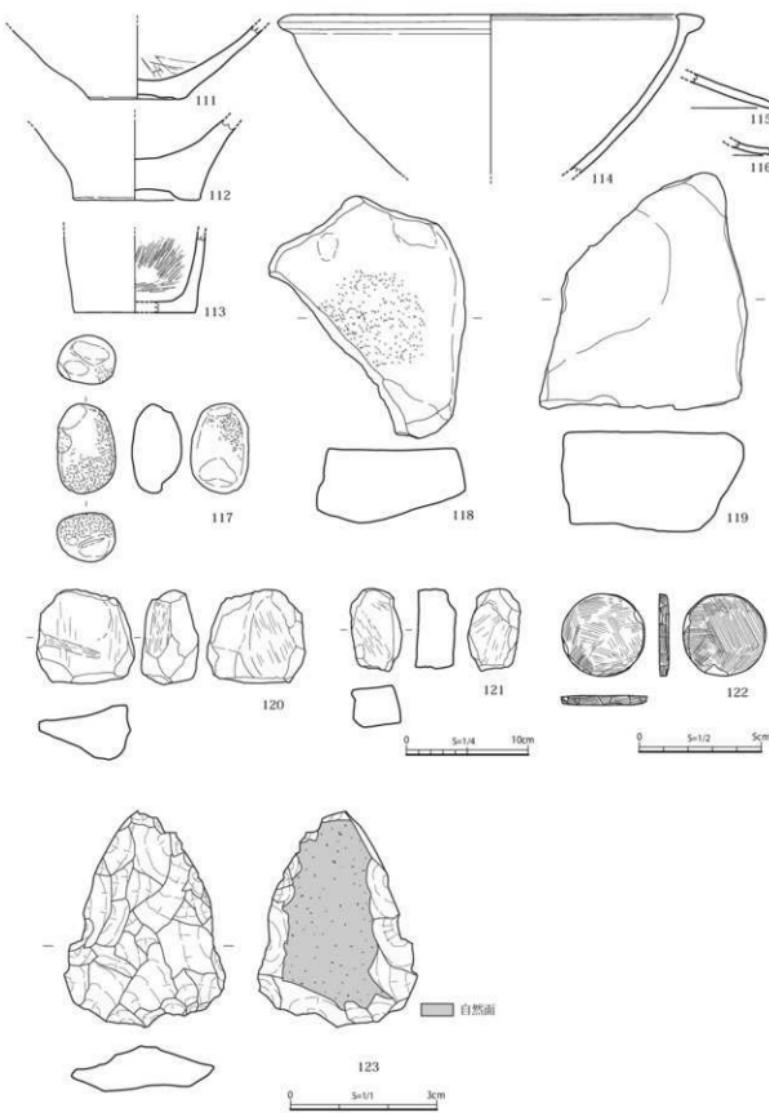
## 【S93】(第 19 図、図版 5)

S93 は調査区南西の Q-24・25、R-24・25 グリッドに位置する。形状は台形状を呈する竪穴遺構と考えられるが、遺構東側を時期不明の溝 S23 に切られ、北側の一部も攪乱により削平されているため明確ではない。残存部で長辺 4.2 m、短辺 3.9 m、深さ 0.18 m を測る。遺構北西隅にテラス状の段を有し、床面に 14 基の小穴が認められる。小穴については柱穴の可能性も考えられるが、配置が不規則であり、土層観察も 1 基のみでしか行われていないため不明である。

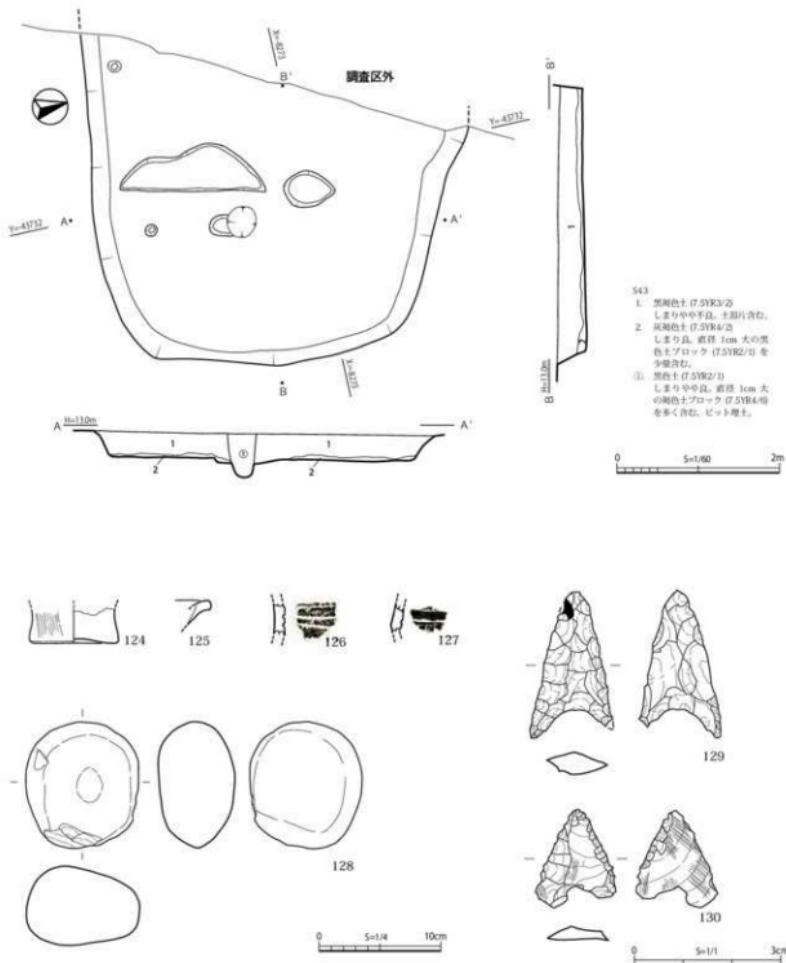
遺物は弥生時代中期の土器が出土している。



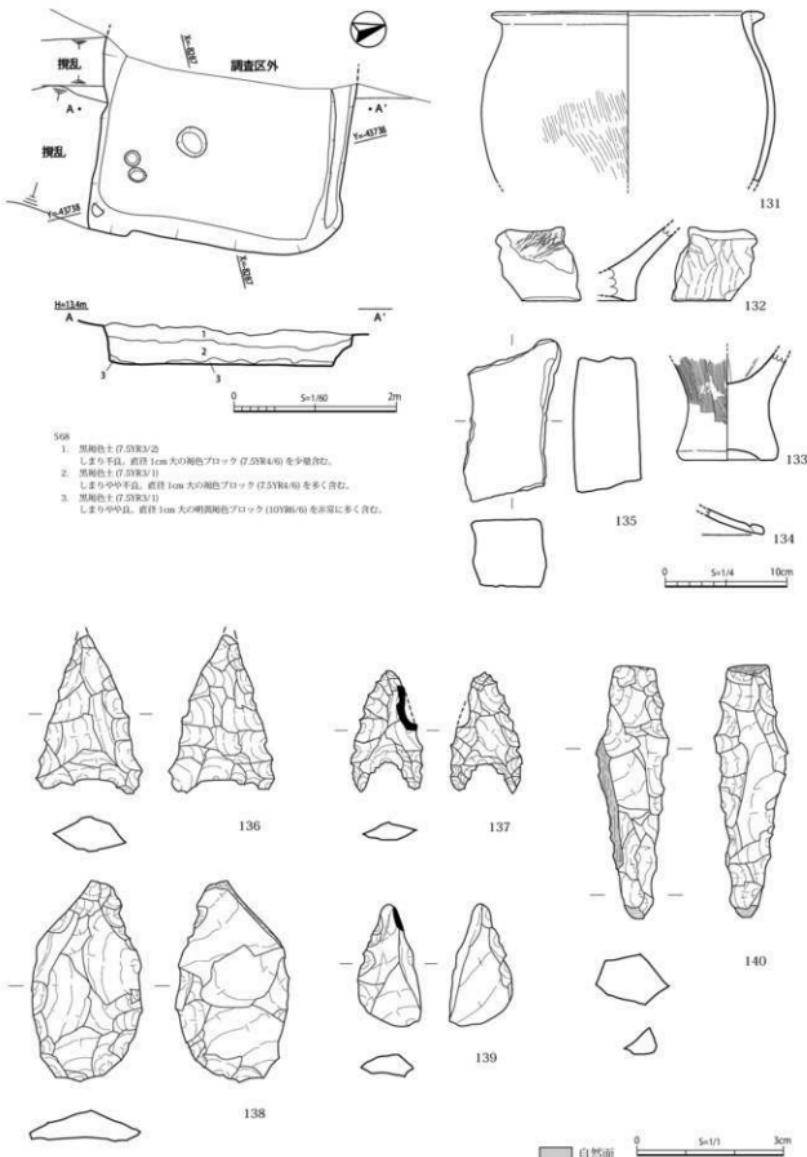
第15図 S36 実測図・出土遺物実測図 1



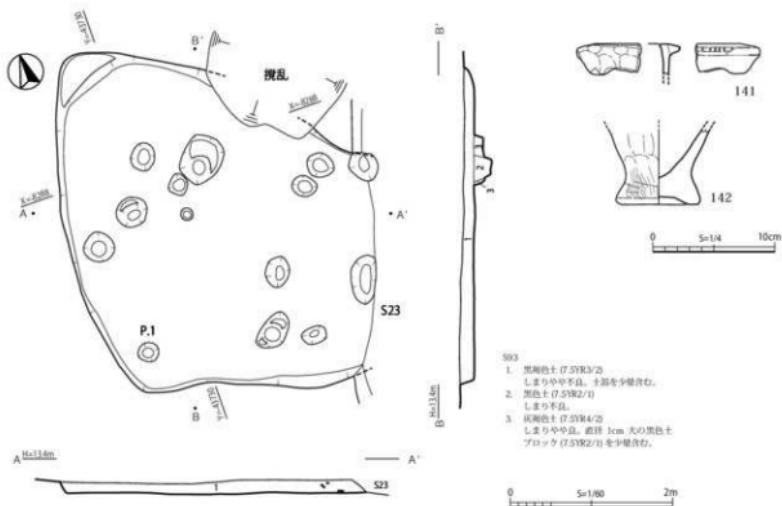
第16図 S36実測図・出土遺物実測図2



第17図 S43 実測図・出土遺物実測図



第18図 568 実測図・出土遺物実測図



第19図 S93 実測図

## 【S98】(第20図、図版6)

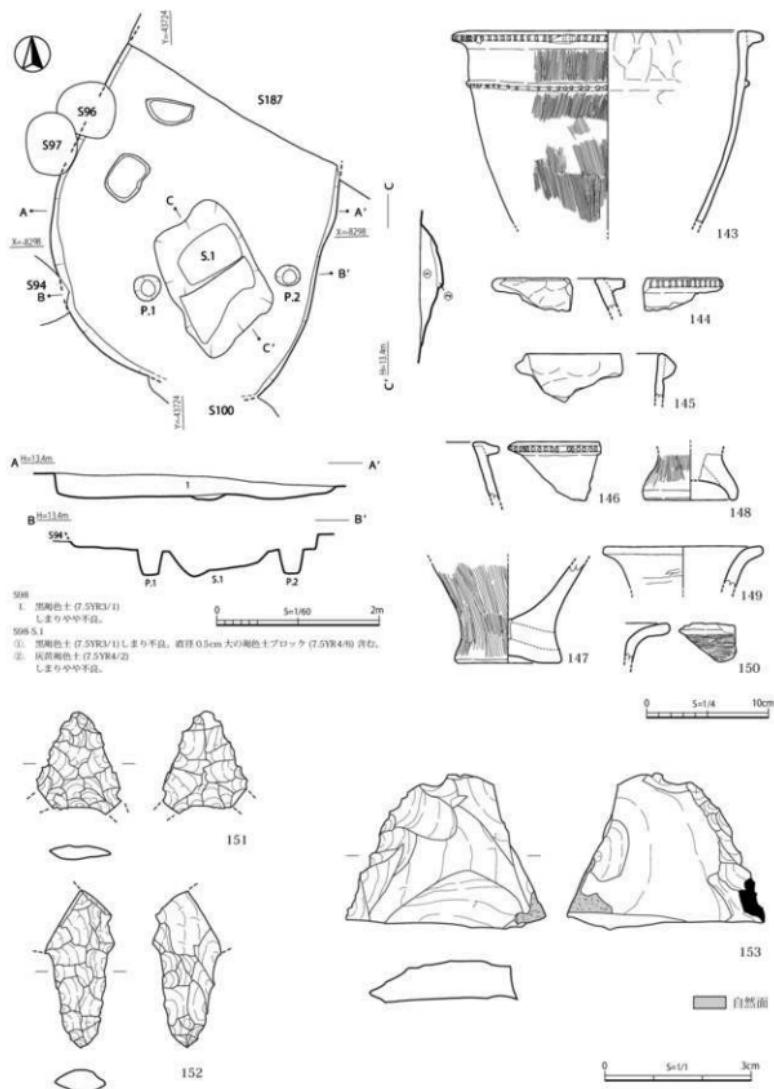
S98は調査区南端中央部のR-24グリッドに位置する。東西にやや長い楕円形を呈する竪穴遺構と考えられるが、遺構北端部を弥生時代後期の住居跡S187に、西側の一部を弥生時代中期の土坑S96・97及び時期不明の溝S94に、南側の一部を弥生時代中期の土坑S100にそれぞれ切られるため明確ではない。残存部で東西3.4m、南北3.3m、深さ0.25mを測る。遺構内の南寄りに長方形の掘り込み(S.1)1基、その東西両脇に小穴(P.1・2)各1基、東寄りに浅い掘り込み2基を有する。

遺物は弥生時代中期の土器・石器が出土している。

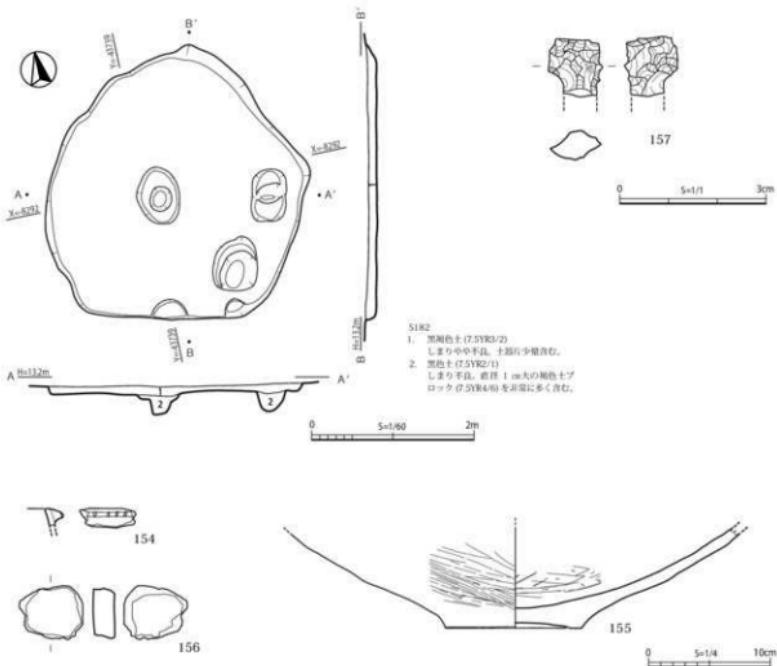
## 【S182】(第21図、図版6)

S182は、調査区南西部のP-24・Q-24グリッドに位置する。不整な円形を呈する竪穴遺構で、直径約3.3m、深さ0.14mを測る。遺構のほぼ中央部に1基、東側中央部壁際から南側中央部壁際にかけて4基の小穴を有する。

遺物は弥生時代中期の土器・土製品・石器が出土している。



第20図 S98 実測図・出土遺物実測図

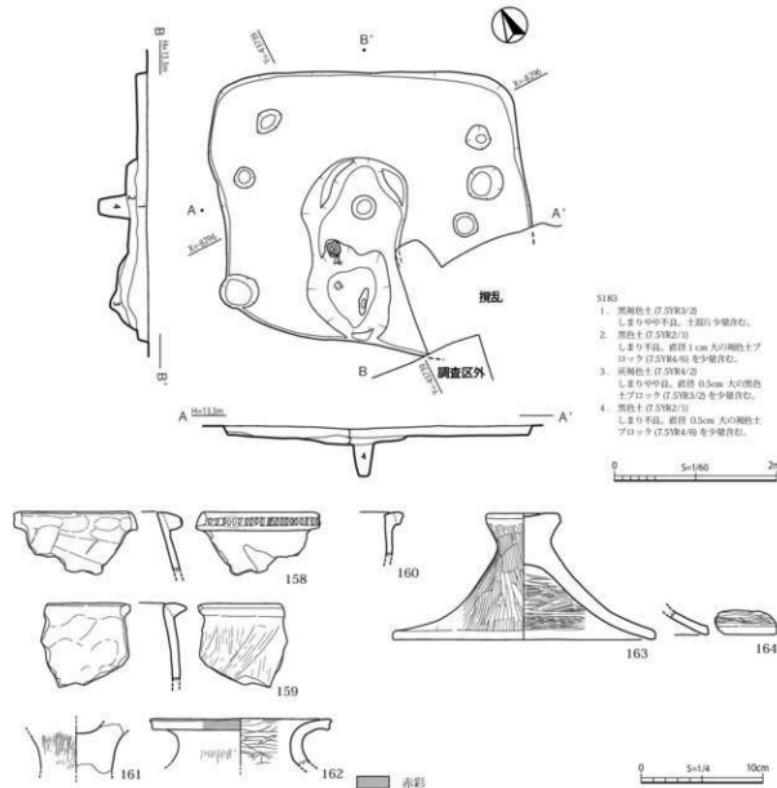


第21図 S182 実測図・出土遺物実測図

## 【S183】(第22図、図版6)

S183は調査区南端西側のP-24・Q-24グリッドに位置する。遺構南西部の隅を搅乱により消失しているが、隅丸方形を呈する竪穴遺構と考えられる。長軸3.8m、短軸3.4m、深さ0.14mを測る。遺構の北側から南側に向けてコの字状の不整なベッド状遺構を有し、南側中央部壁際に不整形な土坑が設けられている。また遺構中央部に1基、東西の壁際にそれぞれ3基の小穴を配している。中央部のものについては、柱穴の可能性が考えられるが、壁際のものについては、深度が浅く柱穴かどうかは明確でない。

遺物は弥生時代中期の土器が出土している。

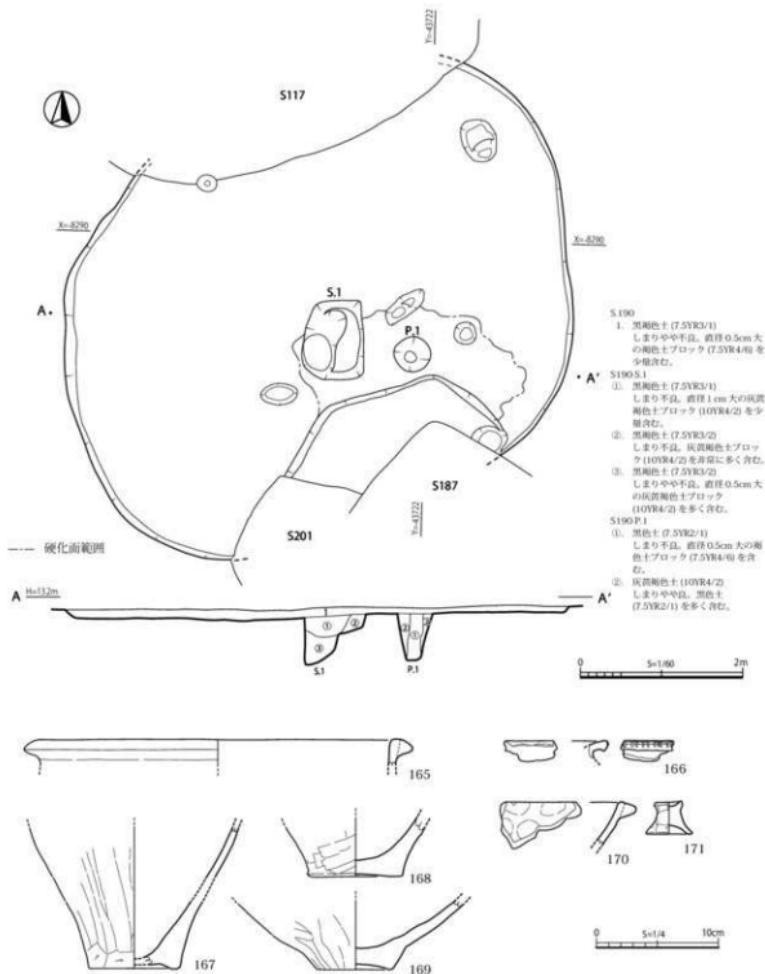


第22図 S183 実測図・出土遺物実測図

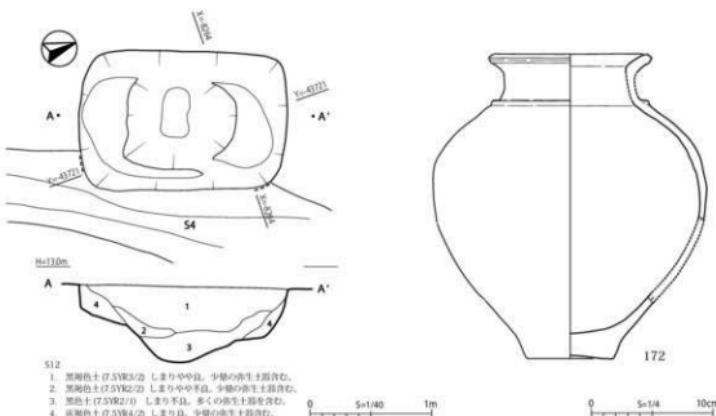
## 【S190】(第23図、図版7)

S190は調査区南側やや西寄りのR-24・25グリッドに位置する。やや不整な円形を呈する竪穴構造と考えられるが、遺構北側を弥生時代中期の大型建物S117に、南側の一部を同じく弥生時代中期の土坑S201及び弥生時代後期の住居跡S187に切られているため明確ではない。直径約7.1m、深さ約0.1mを測る。遺構中央部やや南寄りに南北に長い長方形の土坑(S.1)を有し、南側壁際にやや広めの掘り込みを設けている。S.1の周辺を中心に小穴7基が点在しているが、S.1東側の1基(P.1)は柱穴と考えられる。その他については、深度が浅く柱穴かどうかは明確でない。床面には、S.1の周辺から東側の壁際にかけて硬化面が確認されている。

遺物は弥生時代中期の土器が出土している。



第23図 S190 実測図・出土遺物実測図



第24図 S12実測図・出土遺物実測図

### 3. 土坑

#### 【S12】(第24図、図版7)

S12は調査区北西のR-27グリッドに位置する。遺構東側の上部を時期不明の溝S4に切られるが、南北に長い隅丸長方形を呈すると考えられる。長軸1.7m、短軸1.15m、深さ0.62mを測る。遺構北側及び南側から東側にかけてテラスを有し、中央部に向かって落ち込む。

遺物は弥生時代中期の土器・石器（磨製石斧・磨石・敲石）が出土している。出土遺物の内、壺1点を図示した。

#### 【S40】(第25図、図版7)

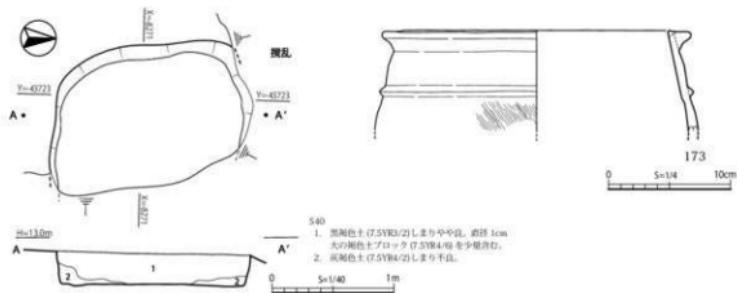
S40は調査区中央西寄りのR-26グリッドに位置する。隅丸方形を呈する土坑と想定されるが、遺構北側及び東側を擾乱により削平されているため不明確である。残存部で最大長1.6m、最大幅1.16m、深さ0.27mを測り、底面は平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器・石器（石錐・石錐）が出土している。出土遺物の内、甕1点を図示した。

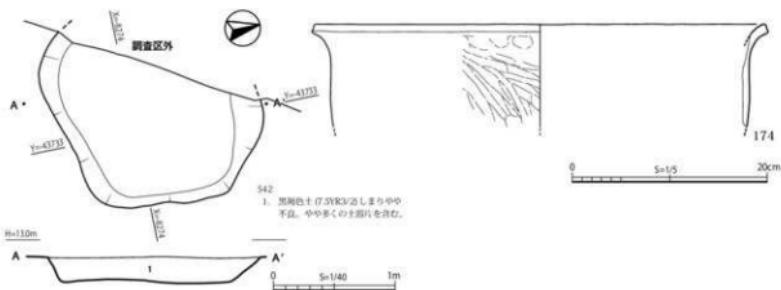
#### 【S42】(第26図、図版8)

S42は調査区西端中央のQ-26グリッドに位置する。遺構西側が調査区外におよぶが、不整な円形を呈する土坑と考えられる。弥生時代中期の竪穴遺構S43の埋土を掘り込んで形成される。検出部で長軸1.57m、短軸1.56m、深さ0.22mを測り、底面は平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器が出土しており、甕1点を図示した。



第25図 S40 実測図・出土遺物実測図



第26図 S42 実測図・出土遺物実測図

## 【S47】(第27図、図版8)

S47は調査区西端中央のQ-26 グリッドに位置する。遺構西側が調査区外におよぶが、長楕円形を呈する土坑と考えられる。検出部で長軸 2.44 m、短軸 1.3 m、深さ 0.53 mを測る。

遺物は弥生時代中期の土器が出土しており、甕2点を図示した。

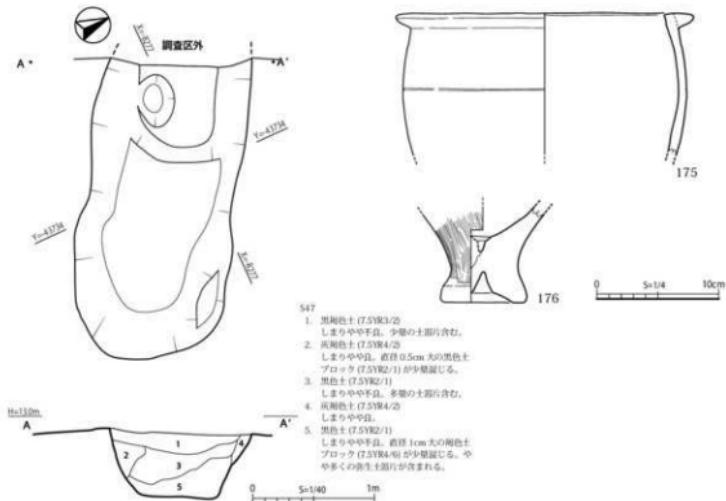
## 【S52】(第28図、図版8)

S52は調査区中央西寄りのR-26 グリッドに位置する。楕円形を呈する土坑で、長軸 1.44 m、短軸 1.14 m、深さ 0.33 mを測る。底面は平坦である。

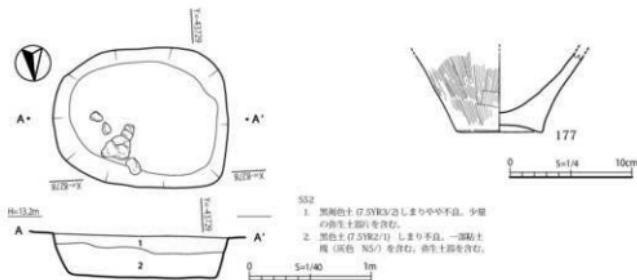
遺物は弥生時代中期の土器・石器(磨石)が出土しており、甕1点を図示した。

## 【S57】(第29図、図版9)

S57は調査区南西のR-25 グリッドに位置する。東西に長い闊丸長方形を呈する土坑で、西側を時期不明の溝S23に切られ、南側の一部を擾乱により削平されている。残存部で長軸 3.1



第27図 S47 実測図・出土遺物実測図



第28図 S52 実測図・出土遺物実測図

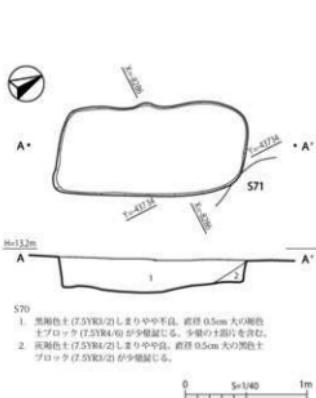
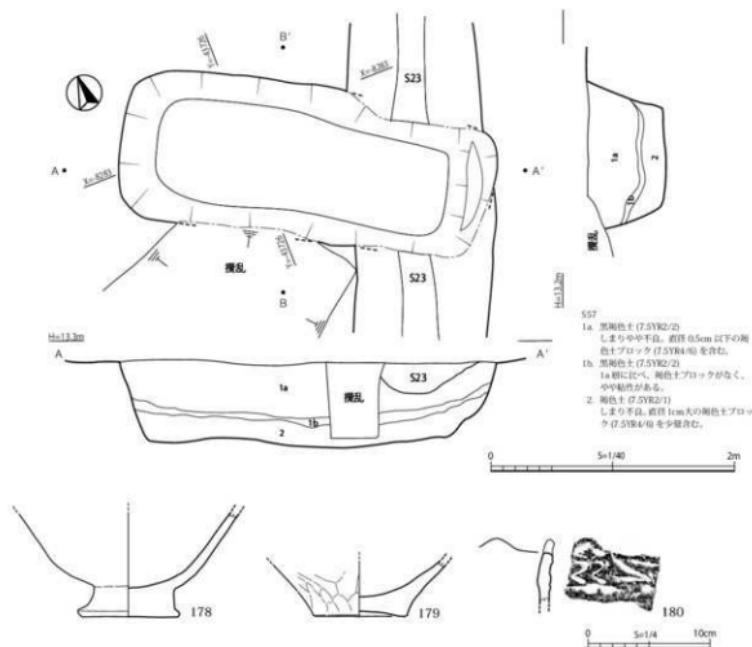
m、短軸 1.2 m、深さ 0.68 m を測る。遺構西端部にテラスを有し、底面はほぼ平坦である。

遺物は縄文時代の土器小片、弥生時代中期の土器が出土しているが、縄文土器は混入と考えられる。弥生時代中期の甕 2 点と縄文時代後期の深鉢 1 点を図示した。

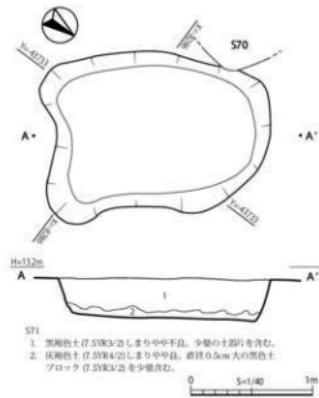
#### 【S70】(第30図、図版9)

S70 は調査区南西の Q-25 グリッドに位置する。東西に長い隅丸長方形を呈する土坑で、長軸 1.54 m、短軸 0.75 m、深さ 0.28 m を測る。底面はほぼ平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器小片がわずかに出土している。



第30図 S70 実測図



第31図 S71 実測図

## 【S71】(第31図、図版9)

S71は調査区南西のQ-25グリッドに位置する。不整な円形を呈する土坑で、遺構北西側の一部を弥生時代中期の土坑S70にわずかに切られる。長軸1.88m、短軸1.24m、深さ0.33mを測り、底面は平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器小片がわずかに出土している。

## 【S72】(第32~34図、図版10)

S72は調査区南西のQ-24・25グリッドに位置する。隅丸長方形を呈する大型の土坑で、遺構北側の一部を弥生時代中期の土坑S70に切られる。図上では遺構北・南・西側にテラスを有するが、検出ミスに伴う掘り間違いであるため、形状及び土層断面より推定される上端線の一部を破線により表示している。残存部で長軸3.8m、短軸2.54m、深さ0.36mを測り、底面はほぼ平坦である。

遺物は縄文土器小片、弥生時代中期の土器・土製品（支脚）・石器（石鏃・石斧・磨石・砥石）が出土しているが、縄文土器は混入と考えられる。出土遺物の内、弥生時代中期の土器（甕・壺・蓋）24点と縄文時代早期の押型文土器1点を図示した。

## 【S81】(第35図、図版10)

S81は調査区南側西隅のP-24グリッドに位置する。遺構東側が調査区外におよび、西側の一部が攪乱（水道管の引き込み）により削平されるが、東西に長い隅丸長方形を呈する土坑と考えられる。検出部で長軸2.1m、短軸1.1m、深さ0.56mを測る。西側にテラスを有し、底面はほぼ平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器が出土しており、甕1点を図示した。

## 【S85】(第36図、図版10)

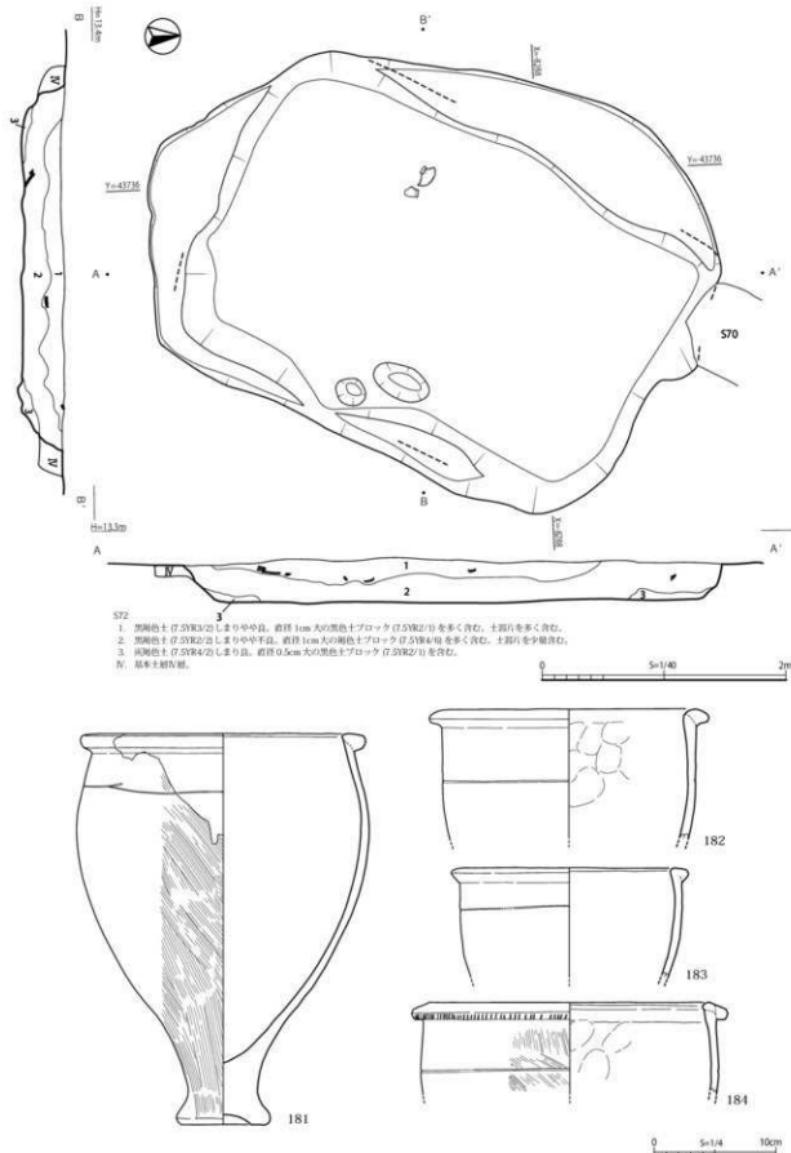
S85は調査区南西端のQ-24グリッドに位置する。東西に長い不整な土坑で、長軸1.8m、短軸1.1m、深さ0.33mを測る。遺構の東西にテラスを有し、中央に向かって浅く掘り込まれている。遺構として掲載しているが、樹根等による攪乱の可能性も考えられる。

遺物は弥生時代中期の土器小片がわずかに出土している。

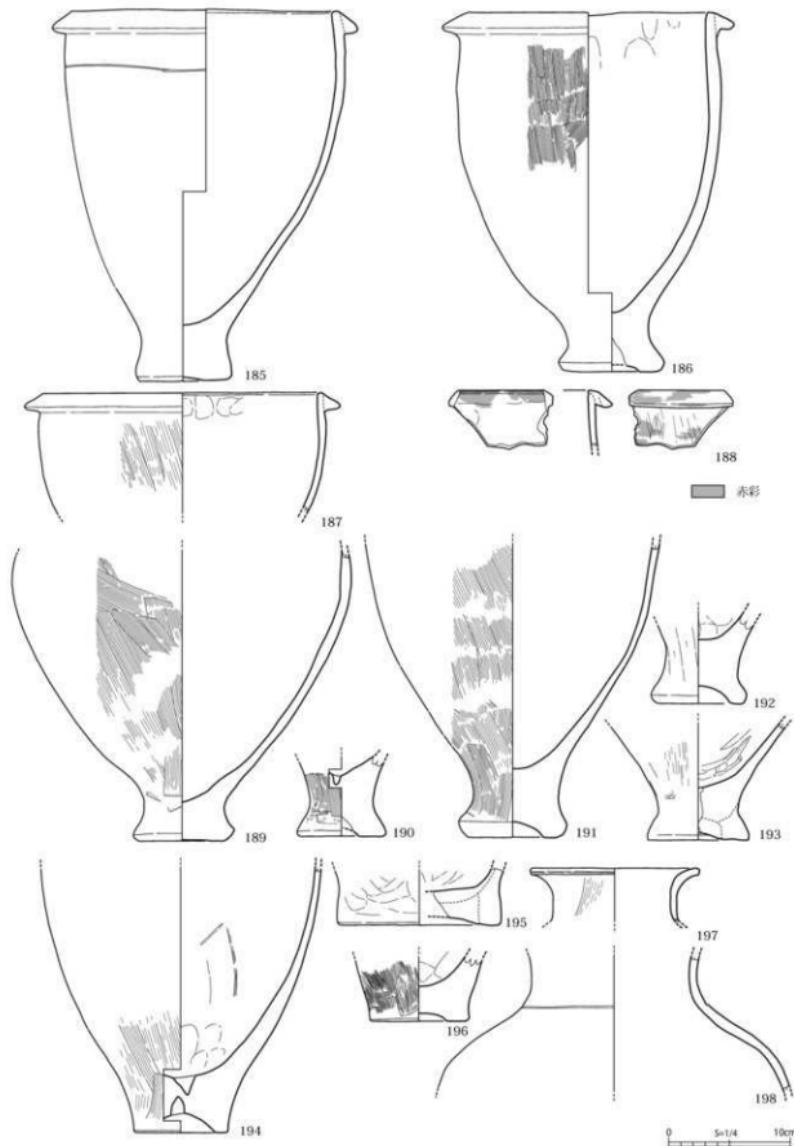
## 【S86】(第37図、図版11)

S86は調査区南西端のQ-24グリッドに位置する。円形を呈する土坑で、最大径1.3m、深さ0.33mを測る。底面はほぼ平坦である。

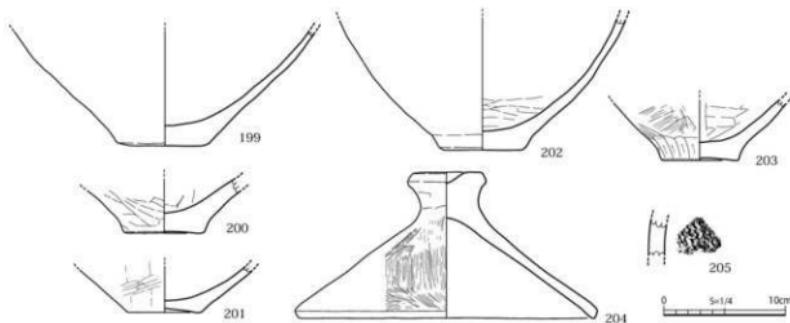
遺物は弥生時代中期の土器が出土しており、甕1点を図示した。



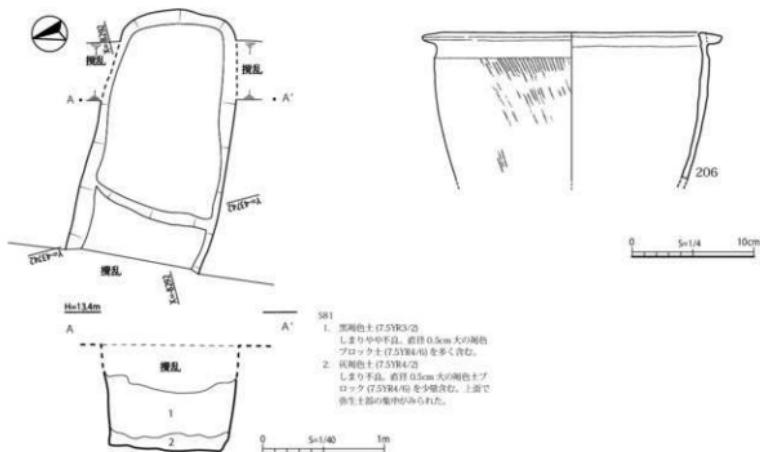
第32図 S72実測図・出土遺物実測図1



第33図 S72出土遺物実測図2



第34図 S72出土物実測図3

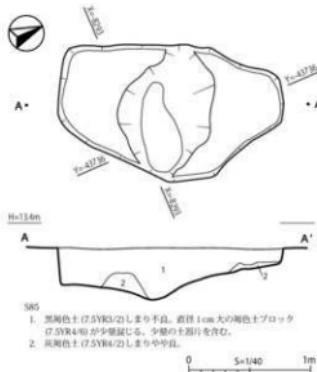


第35図 S81実測図・出土遺物実測図

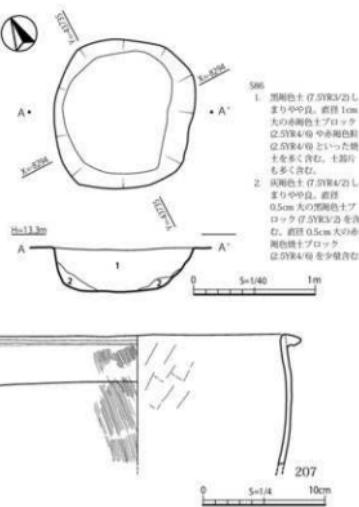
## 【S87】(第38図)

S87は調査区南西端のQ-24 グリッドに位置する。細長い不整な土坑で、遺構南側を弥生時代中期の土坑 S86 に、東端部を同じく弥生時代中期の土坑 S88 に切られる。遺構南側の東西にテラスを有し、底面はほぼ平坦である。

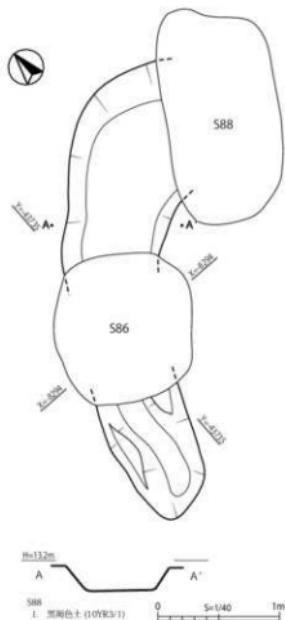
遺物は土器小片がわずかに出土するのみであるが、他遺構との切り合いから弥生時代中期の遺構と判断した。



第36図 S85 実測図



第37図 S86 実測図・出土物実測図



第38図 S87 実測図

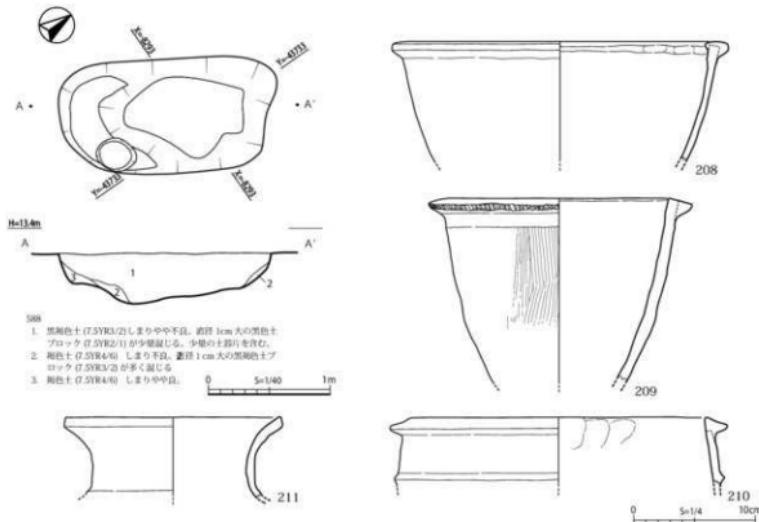
## 【S88】(第39図、図版11)

S88は調査区南西端のQ-24 グリッドに位置する。東西にやや長い楕円形の土坑で、長軸 1.8 m、短軸 0.94 m、深さ 0.42 m を測る。遺構南側にテラスを有し、底面は南に向かってやや傾斜している。弥生時代中期の土器が出土しており、甕3点と壺1点を図示した。

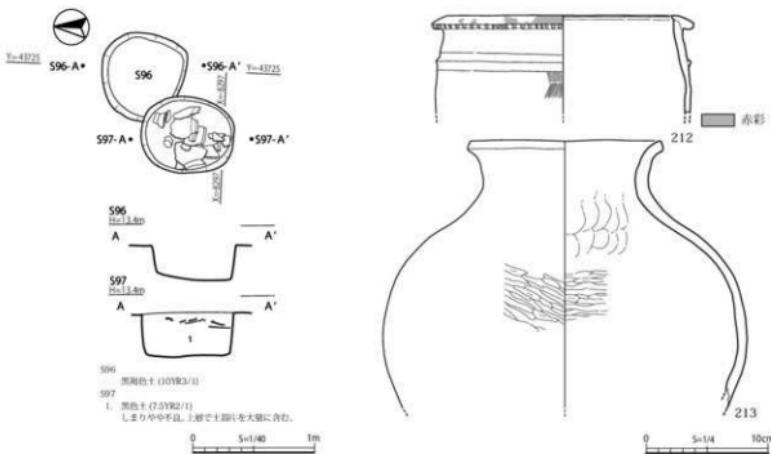
## 【S96】(第40図)

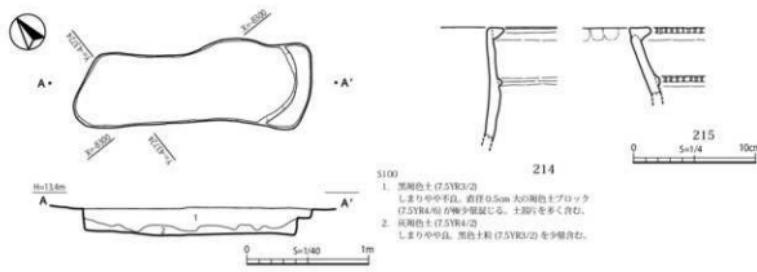
S96は調査区南端のR-24 グリッドに位置する。円形を呈する土坑で、遺構西侧の一部を弥生時代中期の土坑S97に切られる。最大径 0.72 m、深さ 0.3 m を測り、底面は平坦である。

遺物は土器小片がわずかに出土するのみであるが、他遺構との切り合いから弥生時代中期の遺構と判断した。



第39図 S88 実測図・出土遺物実測図





第41図 S100 実測図・出土遺物実測図

## 【S97】(第40図、図版11)

S97は調査区南端のR-24 グリッドに位置する。円形を呈する土坑で、最大径0.75 m、深さ0.3 mを測る。底面は平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器が出土しており、甕1点、壺1点を図示した。

## 【S100】(第41図、図版12)

S100は調査区南端のR-23・24 グリッドに位置する。細長い不整な土坑で、長軸1.88 m、短軸0.67 m、深さ0.22 mを測る。遺構南東端部にテラスを有し、底面は平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器・石器(削器・敲石)が出土している。出土遺物の内、甕2点を図示した。

## 【S103】(第42図、図版12)

S103は調査区南東端のS-24 グリッドに位置する。細長い不整な土坑で、長軸1.7 m、短軸0.76 m、深さ0.23 mを測る。底面はほぼ平坦であるが、遺構西側中央部の壁際を小穴状に掘り込んでいる。

遺物は弥生時代中期の土器小片(甕・蓋)・土製品(紡錘車)が出土している。

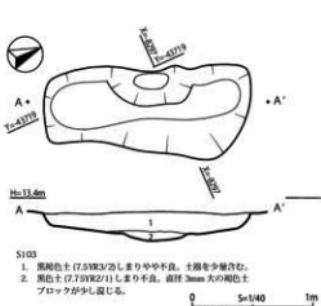
## 【S109】(第43図、図版12)

S109は調査区南東端のS-24 グリッドに位置する。遺構南側の一部を弥生時代後期の竪穴住居S110、土坑S111に切られるが、南北に長い隅丸長方形を呈する土坑である。長軸2.5 m、短軸1.3 m、深さ0.4 mを測り、底面は平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器(甕・鉢)・石器(磨石)が出土している。出土遺物の内、鉢1点を図示した。

## 【S113】(第44図、図版13)

S113は調査区南東端のS-24 グリッドに位置する。隅丸長方形の土坑で、長軸2.6 m、短軸1.5



第42図 S103 実測図



第44図 S113 実測図



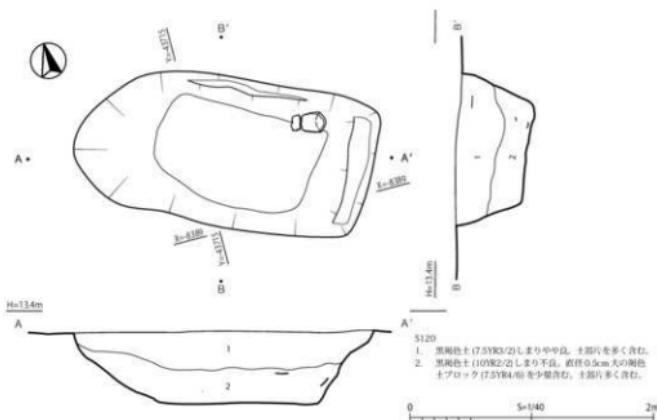
第43図 S109 実測図・出土遺物実測図

m、深さ0.24mを測る。遺構中央部やや北寄りに浅い掘り込み、北側中央部壁際に小穴状の掘り込みが認められる。

遺物は弥生時代中期の土器小片（甕・壺・蓋）・石器（敲石）が出土している。

#### 【S120】（第45・46図、図版13）

S120は調査区中央やや南寄りのS-25グリッドに位置する。不整な長方形を呈する土坑で、長軸2.5m、短軸1.2m、深さ0.6mを測る。遺構の北側壁際にテラスを有し、底



第45図 S120実測図・出土遺物実測図1

面は平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器・石器（磨製石斧・磨石・打製石鐵）が出土している。出土遺物の内、甕 14 点、壺 7 点、鉢 3 点、蓋 1 点を図示した。

#### 【S132】(第47図、図版13)

S132 は調査区中央北寄りの T-27 グリッドに位置する。東西に長い不整な隅丸長方形を呈する土坑で、長軸 2.2 m、短軸 1.05 m、深さ 0.38 m を測る。遺構底面東側に小穴状の浅い掘り込みが認められる。

遺物は弥生時代中期の土器小片（甕・鉢）が出土している。

#### 【S135】(第48図、図版14)

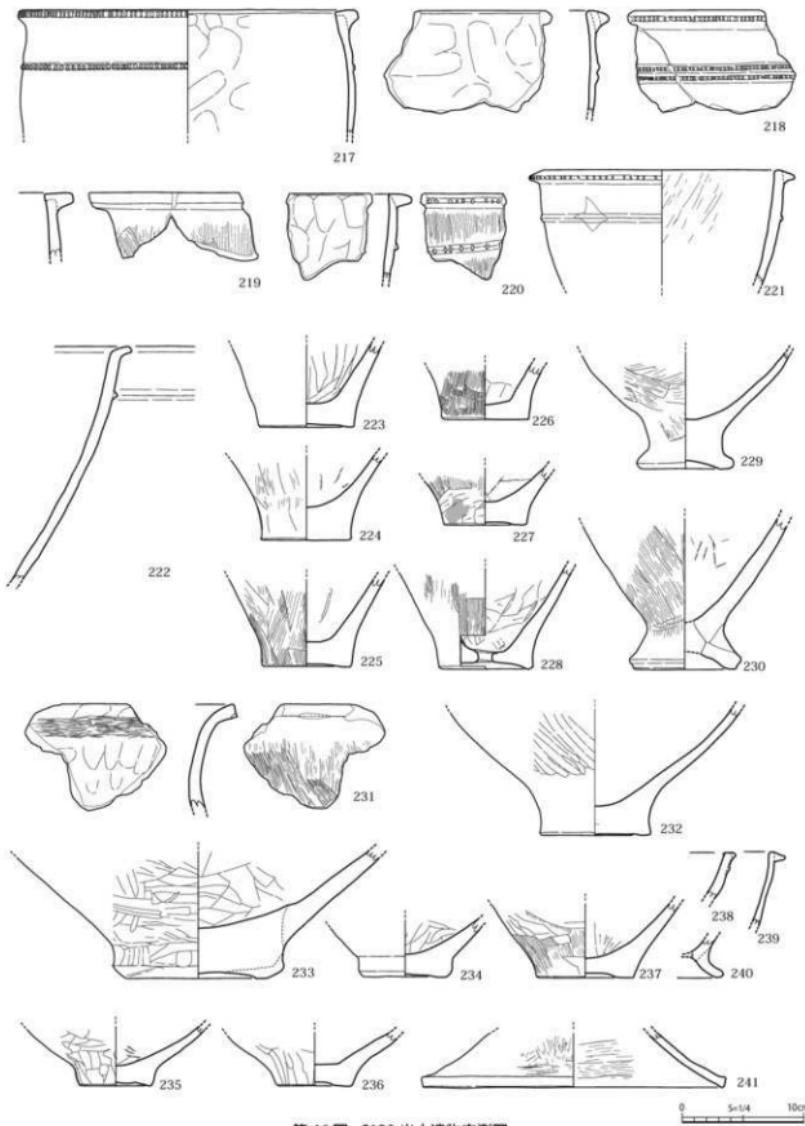
S135 は調査区中央北寄りの T-27 グリッドに位置する。楕円形を呈する土坑で、長軸 1.9 m、短軸 1.05 m、深さ 0.33 m を測る。遺構の東西壁際にテラスを有し、底面は平坦である。

遺物は縄文時代早期・後期の土器小片（鉢）、弥生時代中期の土器が出土しているが、縄文土器は混入と考えられる。出土遺物の内、弥生時代中期の甕 14 点、壺 1 点、鉢 1 点を図示した。

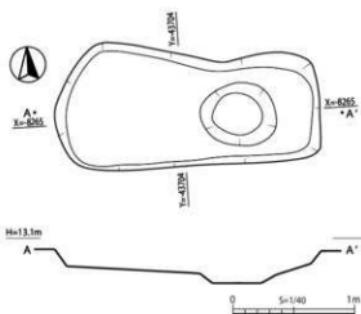
#### 【S139】(第49図、図版14)

S139 は調査区中央東寄りの T-26 グリッドに位置する。楕円形を呈する土坑で、長軸 2.0 m、短軸 1.2 m、深さ 0.2 m を測る。

出土遺物は弥生時代中期の甕小片が出土している。



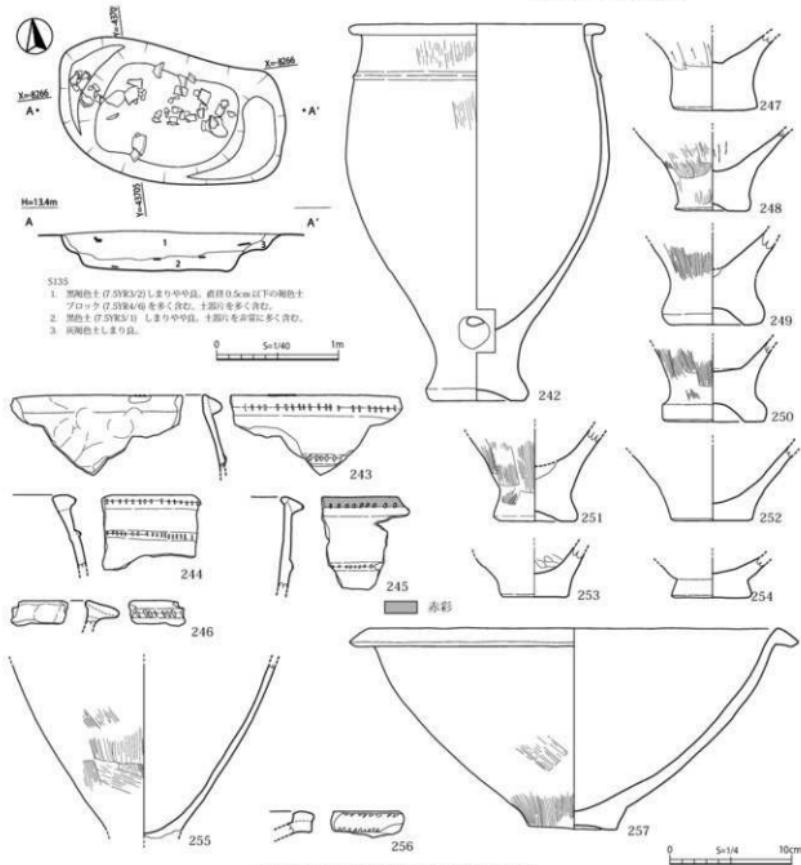
第46図 S120出土遺物実測図



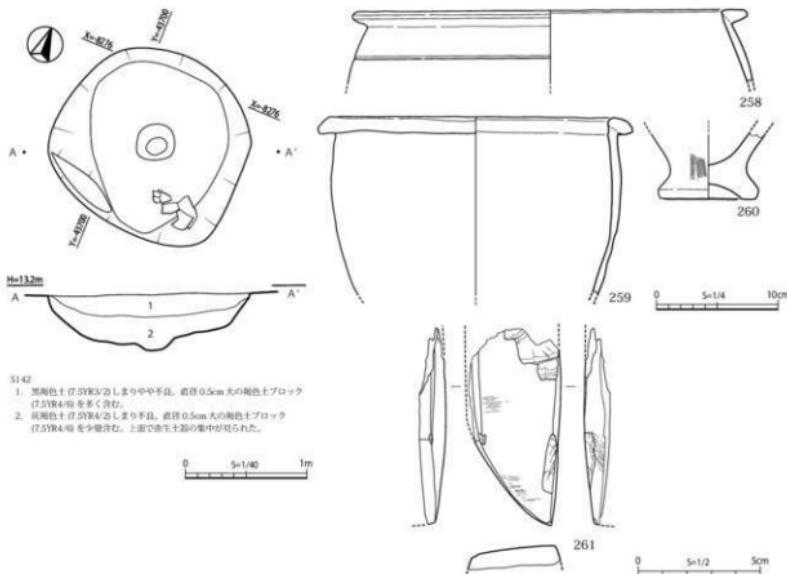
第47図 S132 実測図



第49図 S139 実測図



第48図 S135 実測図・出土遺物実測図

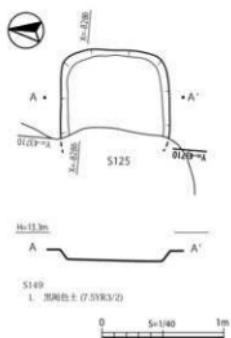


第50図 S142 実測図・出土遺物実測図

## 【S142】(第50図、図版15)

S142は調査区中央東側のT-26・U-26 グリッドに位置する。不整な円形を呈する土坑で、最大径1.7m、深さ0.4mを測る。遺構南西壁際にテラスを有し、底面中央部に小穴状の浅い掘り込みが認められる。

遺物は弥生時代中期の土器・土製品(内板)・石器が出土している。出土遺物の内、甕3点、磨製石斧1点を図示した。



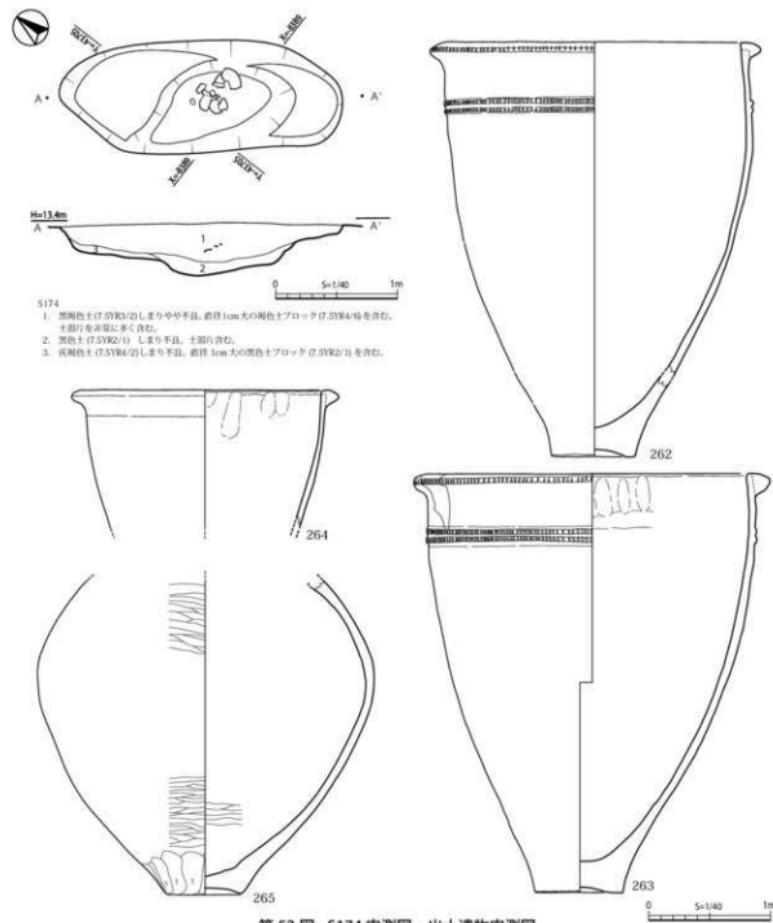
## 【S149】(第51図)

S149は調査区南東のT-25 グリッドに位置する。遺構西側を弥生時代後期の土坑S125に切られるため明確ではないが、隅丸の方形もしくは長方形を呈する土坑と考えられる。残存部で東西0.9m、南北0.9m、深さ0.1mを測り、底面は平坦である。遺物は弥生時代中期の土器小片がわずかに出土している。

## 【S174】(第52図、図版15)

S174は調査区南東のT-25 グリッドに位置する。やや不整

第51図 S149 実測図



第 52 図 S174 実測図・出土遺物実測図

な椭円形を呈する土坑で、長軸 2.3 m、短軸 0.9 m、深さ 0.42 m を測る。遺構両端にテラスを有し中央に掘り込みが認められる。

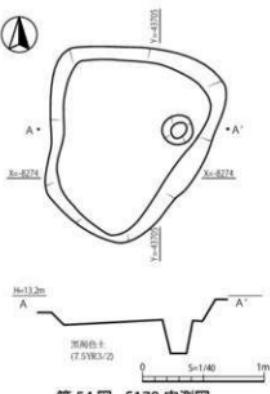
遺物は弥生時代中期の土器・石器（磨石）が出土している。出土遺物の内、甕 3 点、壺 1 点を示した。

#### 【S176】（第 53 図、図版 16）

S176 は調査区南東の T-25 グリッドに位置する。やや不整な椭円形を呈する土坑で、長軸 1.8



第53図 S176 実測図



第54図 S178 実測図



第55図 S185 実測図

m、短軸 1.4 m、深さ 0.25 m を測る。遺構北西壁際に小穴状の掘り込みが認められる。

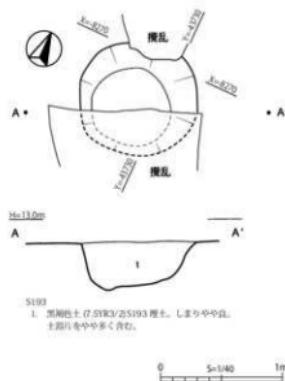
遺物は弥生時代中期の土器小片（甕）が出土している。

#### 【S178】（第54図）

S178は調査区中央やや東寄りのT-26 グリッドに位置する。不整な円形を呈する土坑で、長軸 1.6 m、短軸 1.4 m、深さ 0.2 m を測る。遺構東側壁際に小穴状の掘り込みを有し、底面は西側に向かってやや傾斜している。遺物は弥生時代中期の土器小片（甕）が出土している。



第 56 図 S192 実測図



第 57 図 S193 実測図

## 【S185】(第 55 図、図版 16)

S185は調査区北西のR-27 グリッドに位置する。不整な楕円形を呈する土坑で、長軸 1.95 m、短軸 1.3 m、深さ 0.3 m を測る。遺構中央に小穴状の掘り込みを有し、底面は平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器（甕）・石器（打製石鎌）が出土している。出土遺物の内、甕 2 点を図示した。

## 【S192】(第 56 図、図版 17)

S192は調査区中央西寄りのR-26 グリッドに位置する。遺構の北から西側にかけて搅乱により削平されているが、不整な楕円形を呈する土坑と考えられる。残存部で長軸 2.4 m、短軸 1.1 m、深さ 0.32 m を測る。遺構南西壁際に小穴状の掘り込み 2 基を有する。

遺物は弥生時代中期の土器小片・石器（削器・磨石・敲石）が出土している。

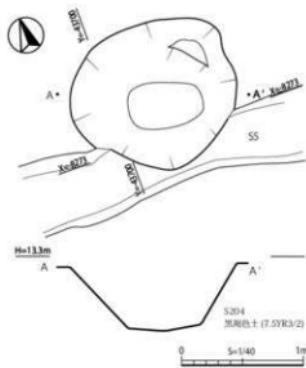
## 【S193】(第 57 図)

S193は調査区中央西端のQ-26・R-26 グリッドに位置する。円形を呈する土坑で、遺構北側の一部を搅乱により削平されている。直径 1.0 m、深さ 0.4 m を測る。

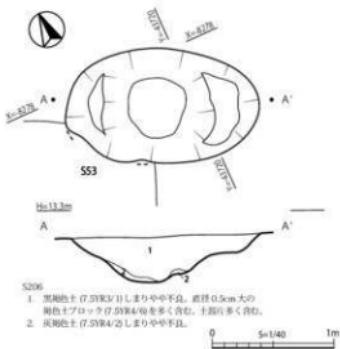
遺物は繩文土器小片、弥生時代中期の土器小片が出土している。

## 【S201】(第 58 図)

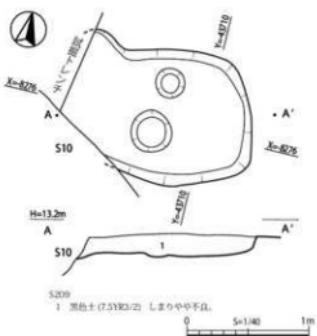
S201は調査区南側中央のR-24 グリッドに位置する。遺構東側を弥生時代後期の竪穴住居 S187 に切られるが、隅丸長方形を呈する土坑と考えられる。残存部で長軸 2.3 m、短軸 1.6 m、



第58図 S204 実測図



第59図 S206 実測図



第60図 S209 実測図

深さ 0.6 m を測る。遺構西側にテラスを有し、東側に浅い掘り込みが認められる。

遺物は弥生時代中期の土器小片（甕・土製品（紡錘車））が出土している。

#### 【S204】(第59図)

S204 は調査区中央東寄りの T-26・U-26 グリッドに位置する。遺構南側を時期不明の溝 S5 により切られるが、不整な円形を呈する土坑と考えられる。残存部で直径 1.4 m、深さ 0.5 m を測る。遺構の北東隅にテラスを有し、底面はほぼ平坦である。

遺物は弥生時代中期の土器小片（甕・蓋）・土製品（支脚）が出土している。

#### 【S206】(第60図、図版17)

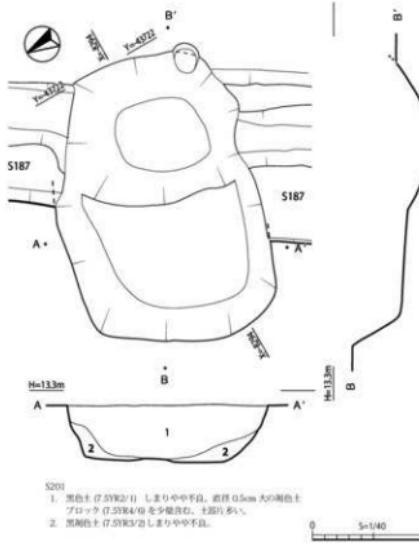
S206 は調査区中央やや西寄りの R-26・S-26 グリッドに位置する。弥生時代後期の竪穴住居 S53 に切られるが、楕円形を呈する土坑と考えられる。残存部で長軸 1.6 m、短軸 0.93 m、深さ 0.34 m を測る。遺構の東西両端にテラスを有し、中央部を掘り込んでいる。

遺物は弥生時代中期の土器小片（甕・壺）・石器（敲石）が出土している。

#### 【S209】(第61図、図版17)

S209 は調査区中央の S-26・T-26 グリッドに位置する。遺構南側の一部を弥生時代中期の竪穴遺構 S10 に、西側を確認調査トレンチにより切られるが、不整な長方形を呈する土坑と考えられる。残存部で長軸 1.54 m、短軸 1.1 m、深さ 0.18 m を測る。遺構中央に小穴状の浅い掘り込み 2 基を有する。

遺物は弥生時代中期の土器小片がわずかに出土している。



第61図 S201実測図

## (2) 弥生時代後期

## 1. 壁穴住居・壁穴遺構

## 【S53】(第62図、図版18)

S53は調査区中央西寄りのR-25・26グリッドに位置する。隅丸長方形の壁穴住居であり、遺構中央を時期不明の溝S23に南北に切られる。長辺4.7m、短辺4.0m、深さ0.3mを測る。遺構南側から北側に向けてコの字状のベッド状遺構を有し、北側中央壁際に入口に伴う施設と想定される土坑(S.1)が設けられる。ベッド状遺構下の床面に柱穴2基(P.1・2)を配置している。遺構中央の土坑(S.2)が炉跡の可能性を有するが、焼土や被熱による赤化は確認されていない。

遺物は弥生時代中・後期の土器、石器が出土しているが、中期の土器は混入と考えられる。

## 【S105】(第63・64図、図版18)

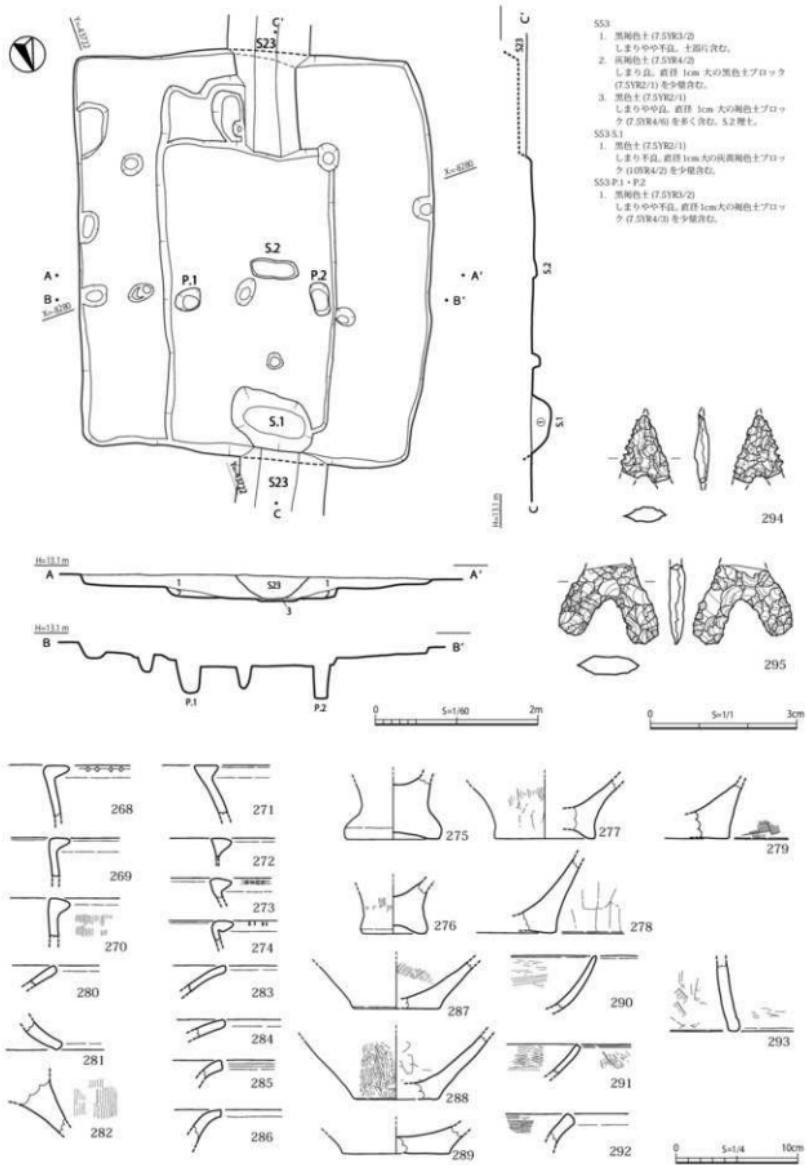
S105は調査区南東のS-24・25グリッドに位置する。隅丸長方形を呈する壁穴住居で、長辺6.5m、短辺4.4m、深さ0.4mを測る。遺構東壁際、南西及び北西の隅に不整なベッド状遺構を有する。ベッド状遺構下の床面中央に土坑(S.1)を設け、その東西に柱穴2基(P.1・2)を配置している。壁際やベッド状遺構際に壁周溝を配し、南壁際中央に入口に伴う施設と想定される土坑(S.2)を設けている。遺構中央のS.1が炉跡の可能性を有するが、焼土や被熱による赤化は確認されていない。

遺物は弥生時代中・後期の土器、石器が出土しているが、中期の土器は混入と考えられる。

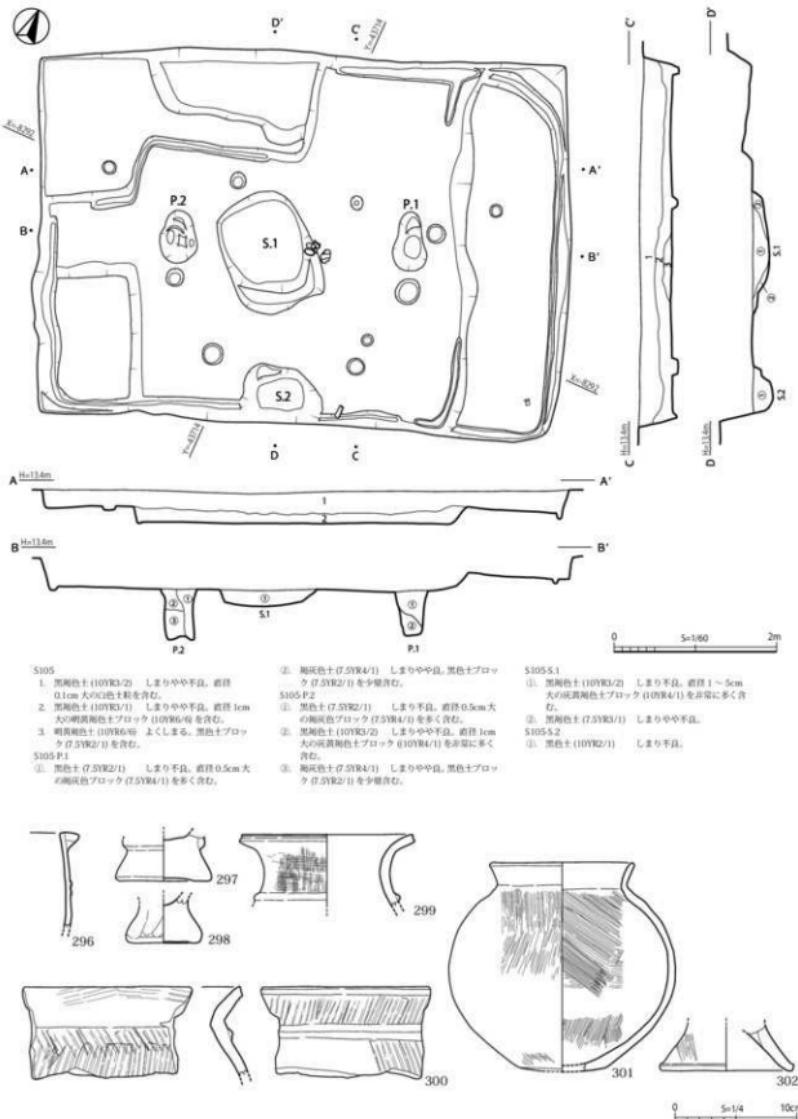
## 【S110】(第65図、図版19)

S110は調査区南端東寄りのR-23・S-23グリッドに位置する。遺構の大部分が擾乱により削平されているが、隅丸方形もしくは長方形の壁穴住居と考えられる。残存している東西の一辺で3.4m、深さ0.28mを測る。壁際には壁周溝が巡り、床面北側に溝状の不整な落ち込みを有する。それ以外の構造は不明である。

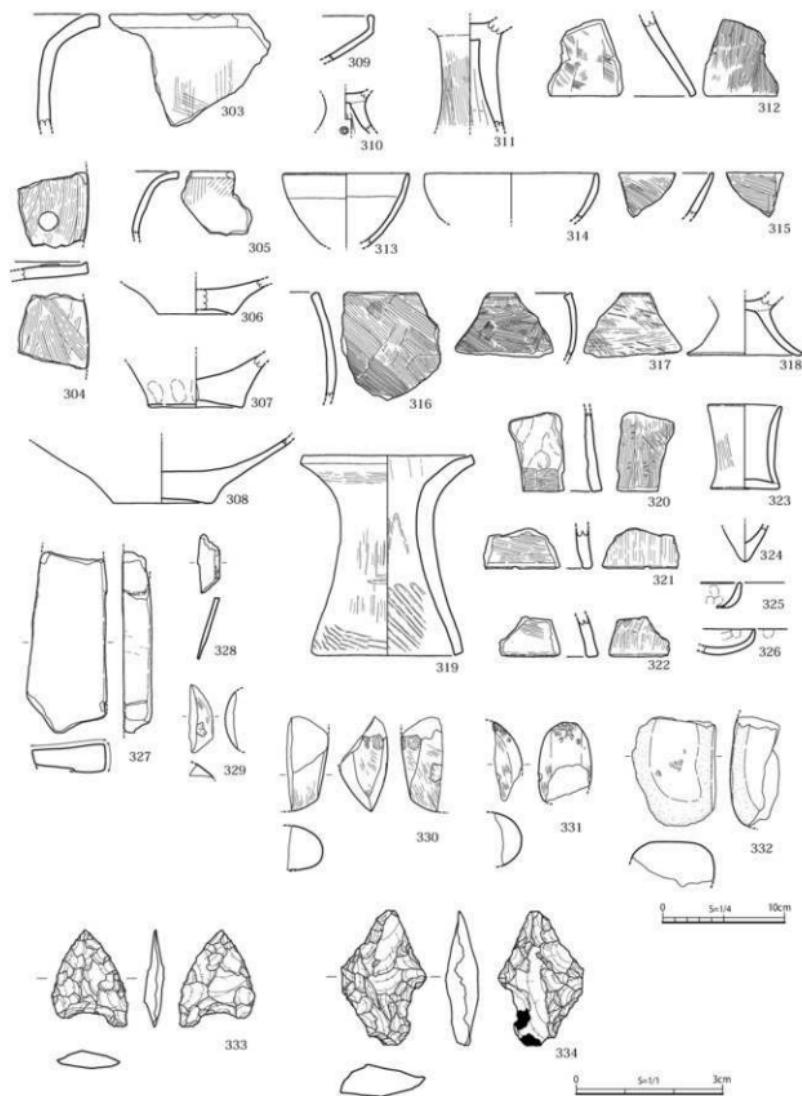
遺物は縄文時代後期の土器、弥生時代中・後期の土器、土製品、鉄器(鉗)、石器が出土しているが、縄文土器及び弥生時代中期の土器は混入と考えられる。



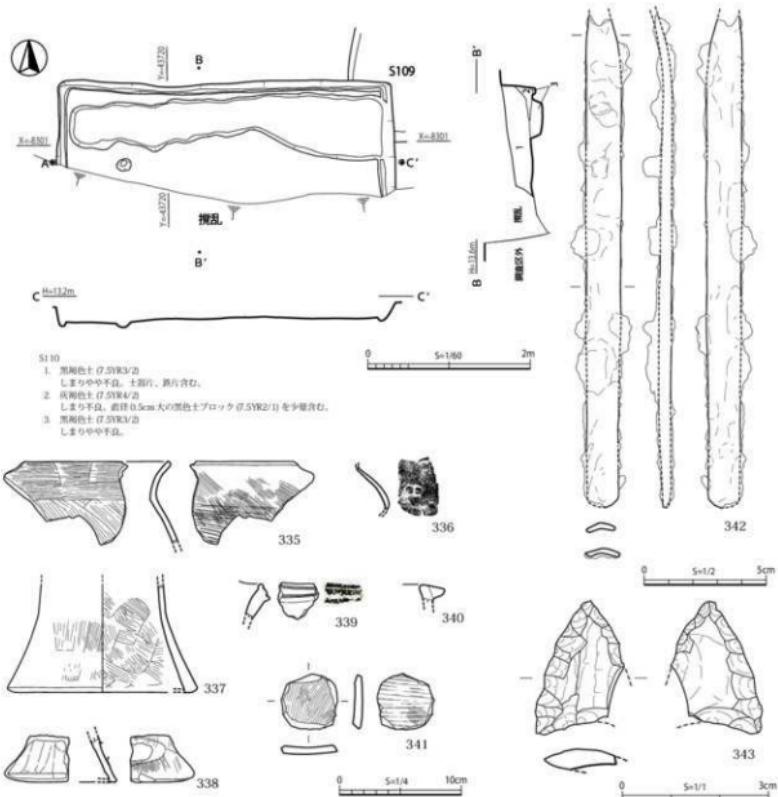
第62図 S53 実測図・出土遺物実測図



第63図 S105 実測図・出土遺物実測図 1



第64図 S105出土遺物実測図2

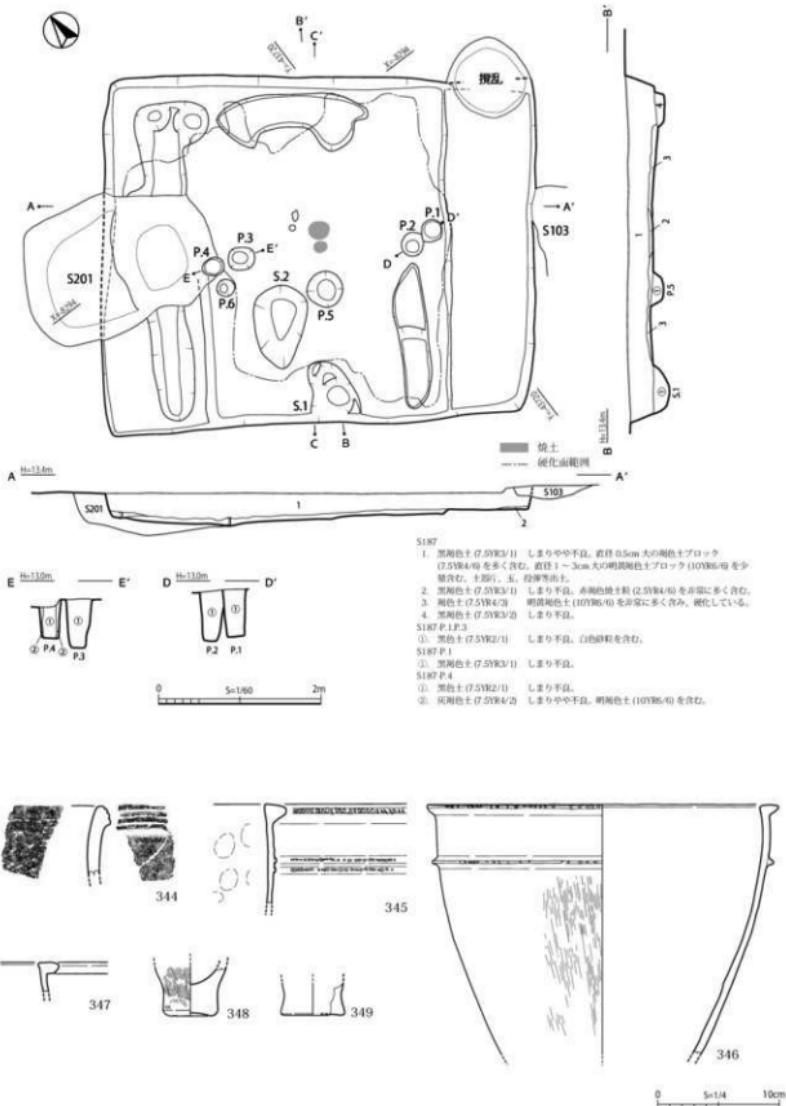


第 65 図 S110 実測図・出土遺物実測図

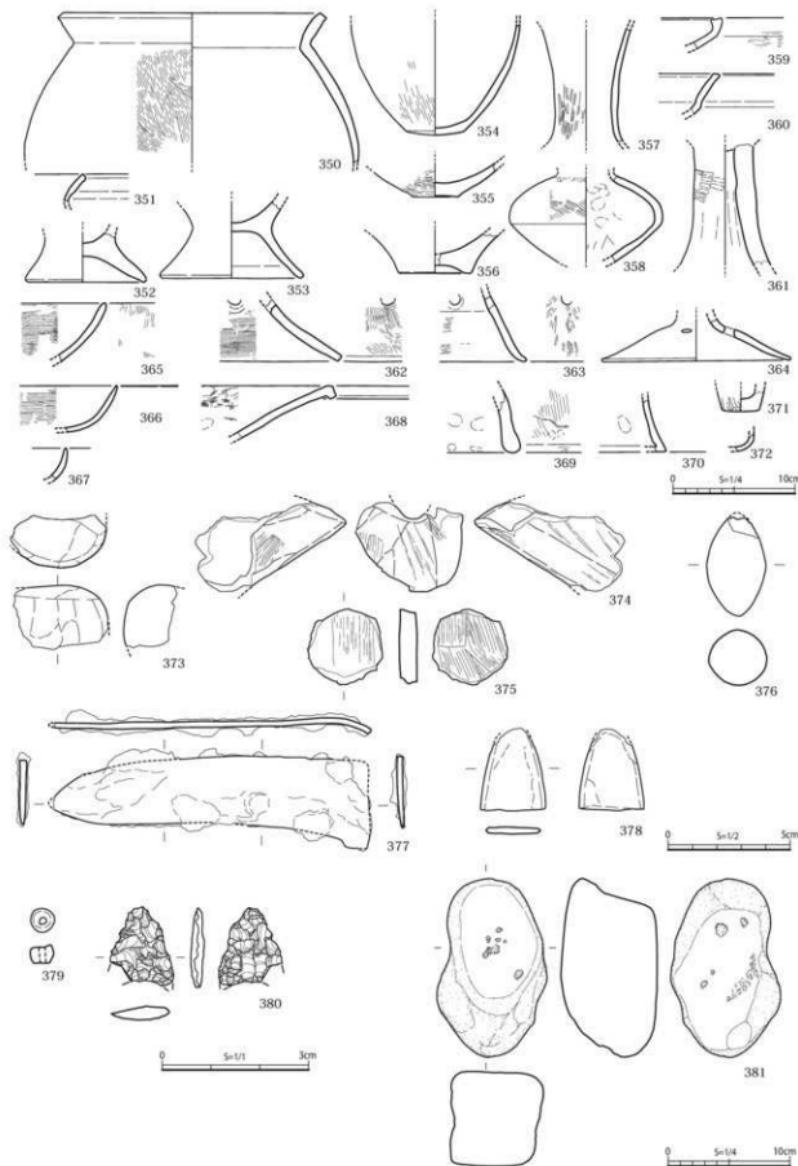
## 【S187】(第 66・67 図、図版 20・21)

S187は調査区南端中央の R-24・S-24 グリッドに位置する。隅丸長方形を呈する竪穴住居で、長辺 5.0 m、短辺 4.4 m、深さ 0.3 m を測る。東壁際及び南西隅にベッド状遺構を有するが、南西隅のものについては、弥生時代中期の土坑 S201 と同時に掘削したため明確な形状は確認できていない。ベッド状遺構下の床面には、広範囲で硬化面が確認され、ほぼ中央に炉跡の痕跡と考えられる焼土の集中が認められる。また 4 基の柱穴 (P.1 ~ 4) 確認したが、切り合ひもしくは近接することから建て替えの可能性が想定される。南壁際中央には、他の竪穴住居と同様入口に伴う施設と想定される土坑が設けられる。

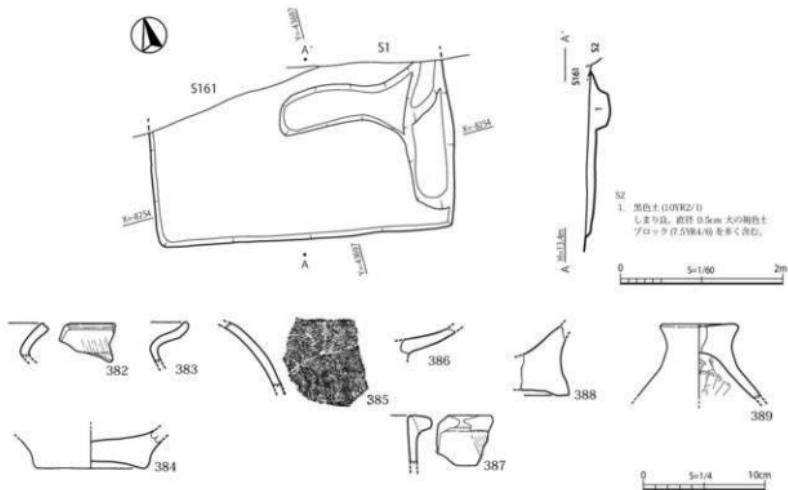
遺物は縄文時代後期の土器、弥生時代中・後期の土器、土製品、鉄器（鎌）、石器（磨製石鎌・打製石鎌・磨石）、ガラス玉が出土している。縄文土器と弥生時代中期の土器は混入と考えられる。



第66図 S187 実測図・出土遺物実測図1



第67図 S187出土遺物実測図2



第68図 S2実測図・出土遺物実測図

## 【S2】(第68図、図版22)

S2は調査区北端やや東寄りのU-28グリッドに位置する。遺構上部を大きく削平され、また遺構北側を時期不明の溝S1により切られているが、隅丸方形もしくは長方形を呈する竪穴遺構と考えられる。残存している東西の一辺で3.6m、深さ0.1mを測る。遺構残存部の中央から東壁際に不整な掘り込みが認められる。

遺物は弥生時代中・後期の土器が出土しているが、中期のものは混入と考えられる。

## 【S177】(第69図、図版22)

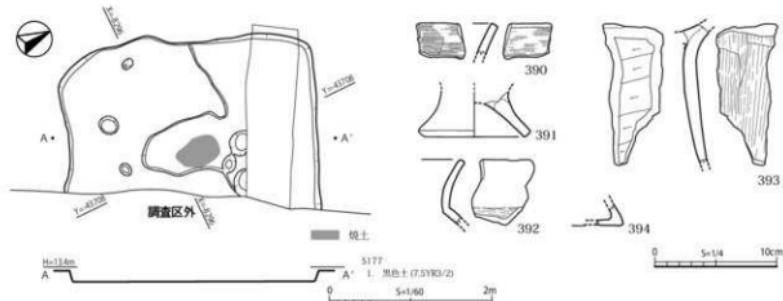
S177は調査区南西端のT-24グリッドに位置する。遺構東側が調査区外におよび、北側の一部が農業用水の配管により削平されている。隅丸方形の竪穴遺構と考えられ、検出部西側の一辺で3.2m、深さ0.14mを測る。遺構の南側から北側に向けてコの字状の不整なベッド状遺構を有し、遺構ほぼ中央に被熱の影響と考えられる赤化部が認められる。小穴を5基検出しているが明確な柱穴は認められない。

遺物は弥生時代後期の土器が出土している。

## 2. 土坑

## 【S35】(第70図)

S35は調査区中央やや北寄りのS-26・27グリッドに位置する。遺構西側を擾乱により削平されるが、不整な楕円形を呈する土坑と考えられる。残存部で長軸3.4m、短軸1.7m、深さ0.2mを測り、底面は平坦である。



第69図 S177 実測図・出土物実測図

遺物は弥生時代中期の土器、石器が出土しているが、弥生時代後期の土坑S186を切ることから、弥生時代後期の土坑と判断した。

#### 【S111】(第71図、図版22)

S111は調査区南端東寄りのS-23 グリッドに位置する。遺構東側が調査区外および、南側は擾乱により削平されているが、隅丸長方形を呈する土坑と考えられる。壁際にテラスが巡り、中央に長方形の掘り込みが認められる。残存部で長軸1.4m、短軸0.9m、深さ0.28mを測る。遺物は弥生時代後期の土器小片がわずかに出土している。

#### 【S125】(第72図、図版23)

S125は調査区中央やや南東寄りのS-25・T-25 グリッドに位置する。南北に細長い不整な隅丸長方形を呈する土坑である。長軸3.5m、短軸1.1m、深さ0.36mを測る。遺構東壁際の中央と西壁際の南側にテラスを有し、底面はほぼ平坦である。

遺物は弥生時代後期の土器が出土している。

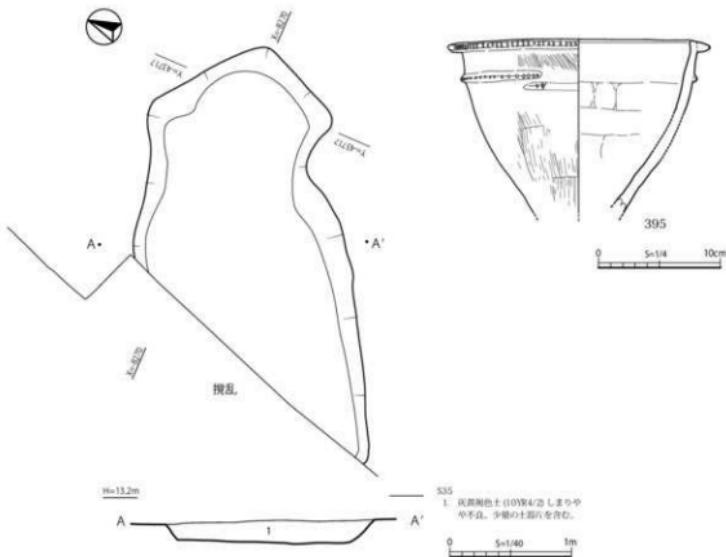
#### 【S186】(第73図、図版23)

S186は調査区中央やや北寄りのS-26 グリッドに位置する。遺構西側を擾乱により削平され、残存部の多くもその上面を弥生時代後期の土坑S35に切られるが、東西に長い不整な楕円形を呈する土坑と考えられる。遺構の南北壁際と東壁際にテラスを有し、残存部で長軸2.4m、短軸1.9m、深さ0.54mを測る。

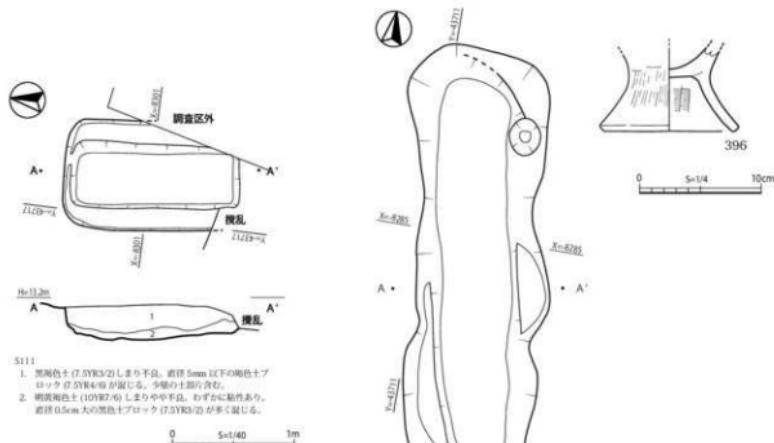
遺物は弥生時代中・後期の土器が出土しているが、中期の土器は混入と考えられる。図示した遺物のうち、426(高壙)は内外面とも赤彩されている。

#### 【S211】(第74図、図版24)

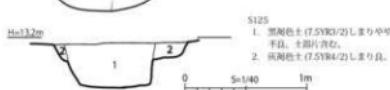
S211は調査区北端中央部のT-28 グリッドに位置する。遺構上部の大半を弥生時代後期の溝



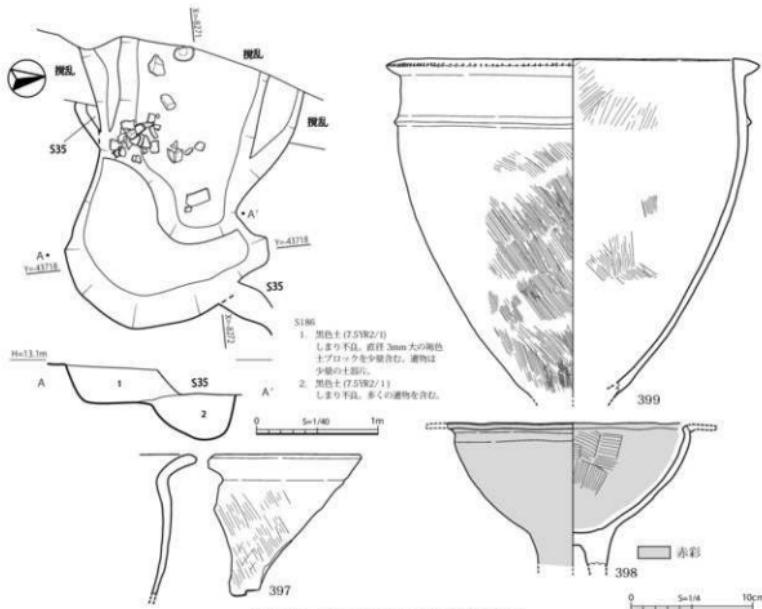
第70図 S35 実測図・出土遺物実測図



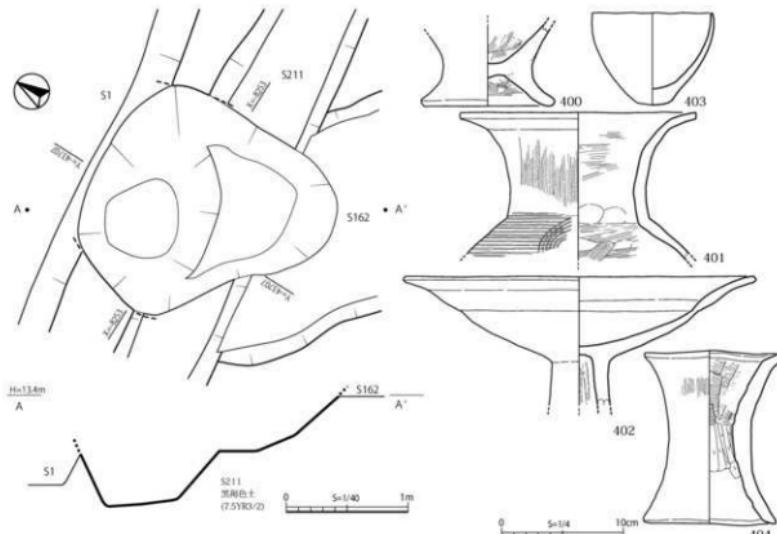
第71図 S111 実測図



第72図 S125 実測図



第 73 図 S186 実測図・出土遺物実測図



第 74 図 S211 実測図・出土遺物実測図

S162、時期不明の溝S1・S161に切られるが、不整形な円形を呈する土坑と考えられる。残存部で長軸2.1m、短軸1.9m、深さ0.88mを測る。遺構南側にテラスを有し、北側に向かって掘り込まれている。

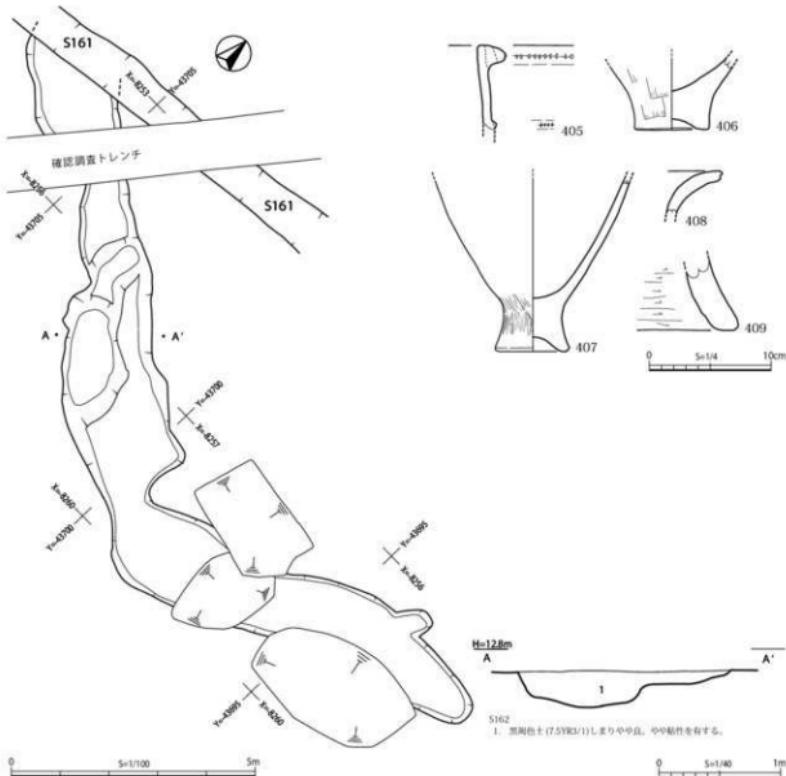
遺物は弥生時代中・後期の土器が出土しているが、中期の土器は混入と考えられる。

### 3. 溝

#### [S162] (第75図)

S162は調査区北端中央および東側のT-28・U-28グリッドに位置する。遺構上部を削平され、北端を時期不明の溝S161に切られるためその形状・規模は不明である。残存部で長さ約19m、幅約2m、深さ約0.3mを測る。

遺物は弥生時代中・後期の土器、石器が出土しているが、中期の土器は混入と考えられる。



第75図 S162実測図・出土遺物実測図

## 第5節 その他の遺構・遺物

時期不明の遺構として、土坑1基、溝6本を検出した。各遺構の詳細は以下のとおりである。

### 1. 土坑

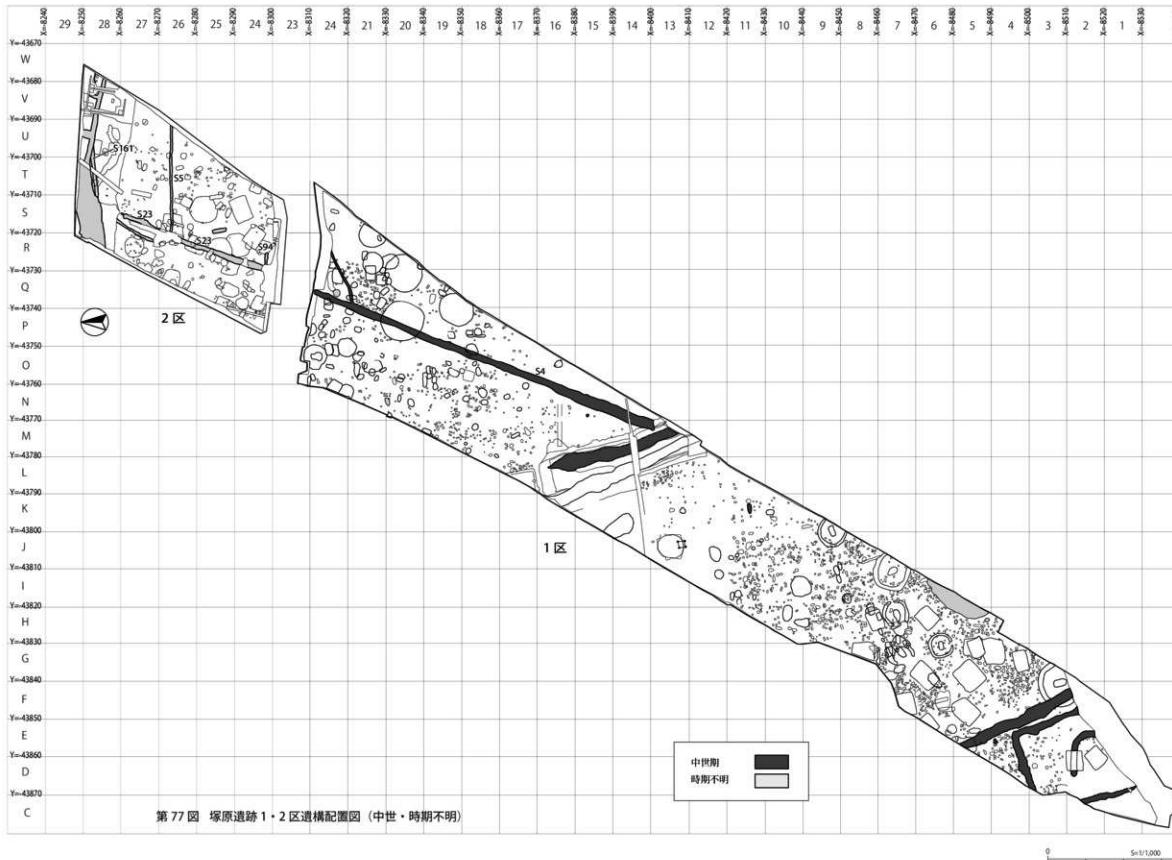
#### 【S50】(第77図、図版24)

S50は調査区中央南寄りのS-25 グリッドに位置する。南北に細長い圓丸長方形の土坑であり、長軸3.7 m、短軸1.06 m、深さ0.26 mを測る。底面はほぼ平坦である。

遺物はごく少量の土器細片のみであり、時期を特定できなかった。



第76図 塚原遺跡2区遺構配置図(時期不明)



第77図 塚原遺跡1・2区遺構配図図（中世・時期不明）



## 2. 溝

### 【S1】(第78図、図版24)

S1は調査区北端に位置し、調査区を横断して所在している。上面を削平され、また遺構が調査区外におよぶため、その形状・規模は不明である。調査区北西隅に主となる溝（幅5.5m、深さ1.5m）があり、そこから西側に向かって派生する溝（幅約0.5m、深さ約0.4m）が認められる。

遺物は縄文土器、弥生時代中・後期の土器、中・近世の磁器小片等が混在して出土している。

### 【S4】(第79図)

S4は調査区北西のR-27・S-27グリッドに位置する。遺構北側を削平により、南端を擾乱により消失している。南西から北東に向けて延びる溝で、残存部の長さ約11.0m、深さ約0.1mを測る。遺物は土器小片のみの出土で、時期を特定できなかったが、弥生時代中期の土坑S12を切っているため、それ以降の所産と考えられる。

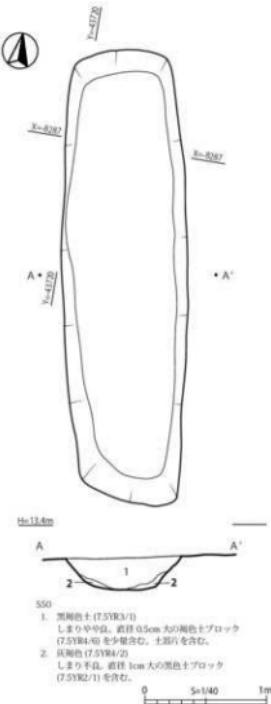
### 【S5】(第80図、図版25)

S5は調査区の中央のS-26・T-26・U-26グリッドに位置する。調査区をほぼ東西に横断する溝で、遺構西端は擾乱により消失し、東側は調査区外におよんでいる。残存部で長さ約28.0m、深さ約0.2mを測る。擾乱の影響により確認できなかったが、同じく時期不明の溝S23から派生する溝と想定される。

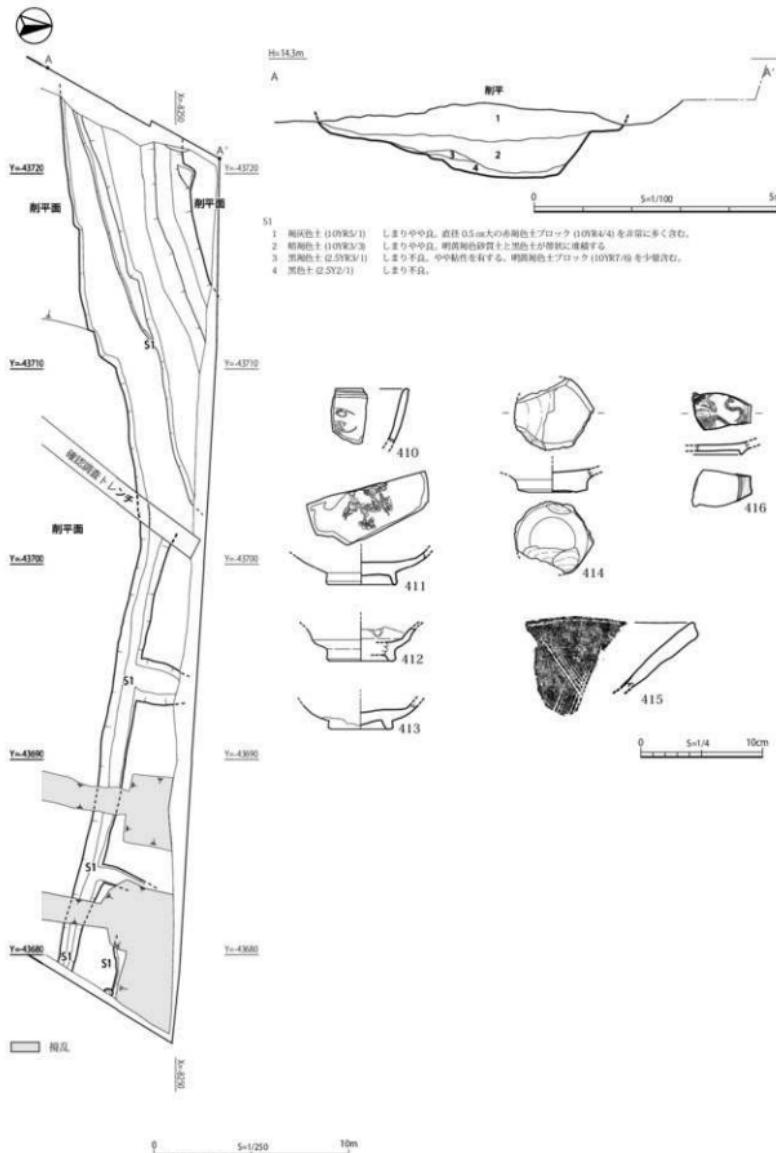
遺物は弥生土器の小片が多少出土している。

### 【S23】(第81図)

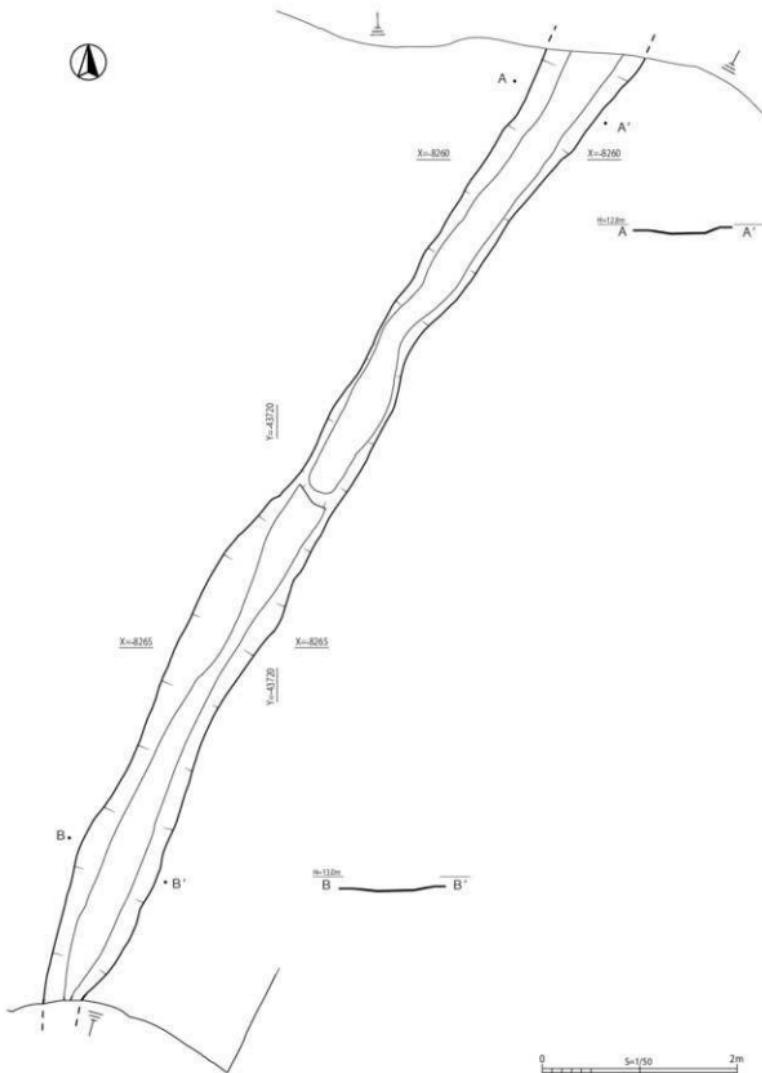
S23は調査区の中央やや西寄りを南北にほぼ縦断する溝である。遺構中央から北側の一部を擾乱により消失しており、北端部以北も削平の影響によ



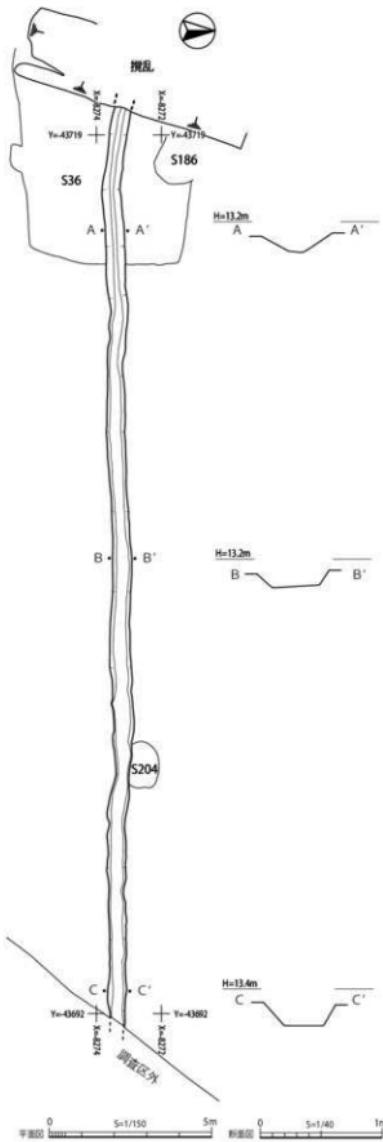
第78図 S50実測図



第79図 S1 実測図・出土遺物実測図



第80図 S4 実測図



第 81 図 S55 実測図

り消失したものと想定される。残存部で長さ約 40.0 m、深さ 0.54 m を測る。

遺物は弥生土器とともに古代の須恵器片・瓦片を各 1 点出土しているが、塚原遺跡 1 区で確認した中世期の溝（塚原遺跡調査 1 区 S4）の延長線上にあたり、同遺構の可能性も考えられる。

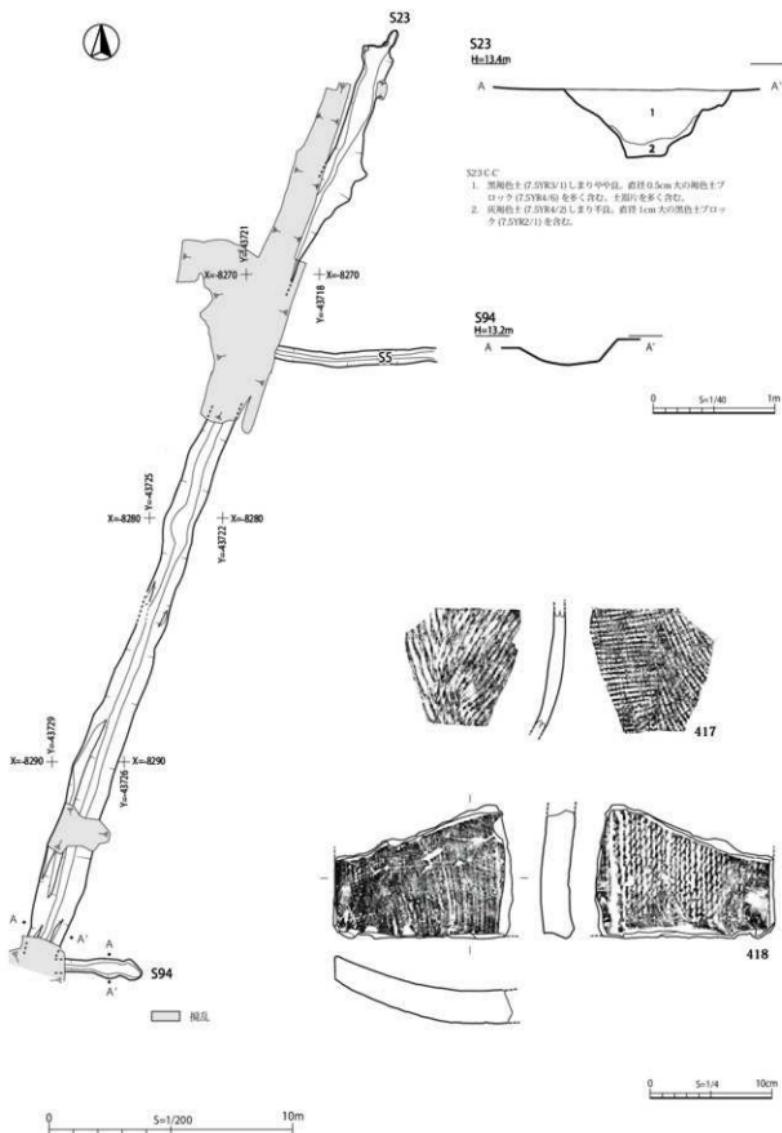
#### 【S94】(第 81 図)

S94 は調査区中央南端の R-24 グリッドに位置する。遺構西側を擾乱により消失しているため確認できていないが、S5 と同様に S23 から派生する溝の可能性が考えられる。残存部で長さ約 3.1 m、幅 0.8 m、深さ 0.2 m を測る。遺構東側は削平等により消失した可能性も想定される。

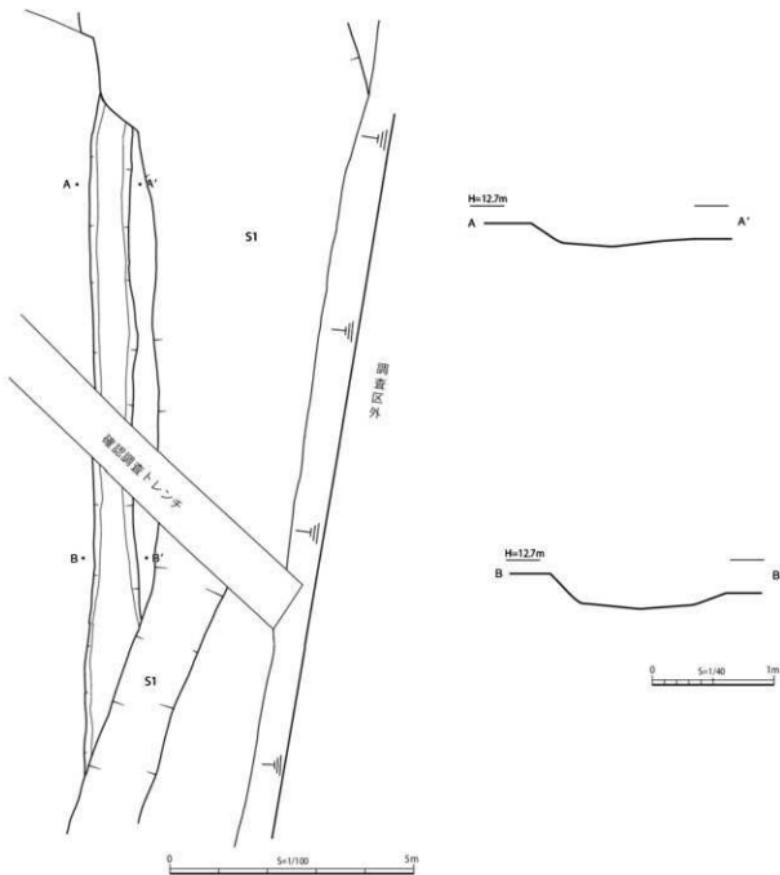
遺物は土器小片がわずかに出土するのみである。

#### 【S161】(第 82 図)

S161 は調査区北端の S-28・T-28・U-28 グリッドに位置する。東西に延びる溝であるが、遺構両端を時期不明の溝 S1 により切られるため、その形状・規模は不明である。残存部で長さ約 14.0 m、幅 1.0 m、深さ 0.16 m を測る。前述した溝 S5 とほぼ並行関係にあることから S23 の延長線上から東に派生する溝の可能性が想定される。遺物は出土していない。



第82図 S23・94実測図およびS23出土遺物実測図



第83図 S161実測図

## 第V章　まとめ

今回の調査結果を踏まえた知見や問題点を挙げて、時代ごとに記述してまとめとしたい。

### 縄文時代

今回の調査区では遺構は確認できていないが、包含層や遺構内埋土に混入する形で縄文時代の遺物が出土している。数量的には数十点の出土であるが、図化できるものは実測を行い、資料化に努めた。土器では早期・中期から晩期の土器が得られている。この中で多いのは後期の阿高式系と磨消縄文系の土器で、隣接する塚原遺跡調査1区（以下調査1区）と比べると重複するもののわずかに後の時期である印象を受ける。

### 弥生時代

今回の調査で確認された弥生時代中・後期の集落跡は、調査1区で確認された同時期の集落跡北端部にあたるものと考えられる。

弥生時代中期においては、調査区南側を中心に大型建物・竪穴遺構・土坑が、多くは切り合い関係を持って作られている。大型建物とした2基（S115・S117）は、直径約7.5mおよび6.5mの円形で、中央に土坑を持ち、さらに長軸側の片方もしくは両方に小穴が掘られる。柱穴は環状に配置され、調査1区の大型建物と同様の構造を有する。竪穴遺構としたものは、円形または長方形を呈し、明確な炉跡や柱穴が確認できない一群である。調査1区の大型建物や竪穴遺構は、石器や石器未製品及び石器製作に伴う剥片等が多く出土したことから、生活の場としてよりむしろ石器製作の工房（作業場）など別の目的があって作られたと想定しているが、当調査区の大型建物・竪穴遺構においても、石器や石器未製品が出土していることから、同様の性格を有すると想定される。土坑は36基を検出した。一部に廃棄土坑と想定されるものもあるが、多くは削平や攪乱により残りが悪く、出土遺物も少ないため用途を特定できていない。

弥生時代後期の遺構としては、調査区南側を中心に竪穴住居4基、竪穴遺構2基、土坑5基、溝1本を検出した。竪穴住居は概ね長方形を呈するが、すべてがその方向を異にしている。多くは壁際にベッド状遺構を持ち、入口に伴う施設と考えられる土坑を有するが、その位置や形状は様々で規則的なものではない。出土土器より後期中頃に位置づけられるが、調査1区における同時期の竪穴住居が、その方向や構造をほぼ同じくすることを考えると、切り合い関係はないものの多少の時期差が想定される。またS110から鉄器（鑓）、S187から鉄器（鎌）・ガラス玉が出土しており、当集落の性格を考える上で重要視される。土坑は5基を検出したが、その内廃棄土坑と見られるS186とS211である程度まとめて遺物が出土している。S186は、出土土器から後期前半に位置づけられ、他の遺構よりやや時期がさかのぼる。また、内外面が赤彩され、口縁部と脚を打ち欠いた高杯が出土している。S211は出土土器から後期後半に位置づけられる。

### その他

時期不明の溝としたS23は、調査1区で確認した中世期の溝S4の延長線上に位置している。このことから、中世期の遺物は出土していないものの同遺構の可能性が高い。また、後世の削平や攢乱の影響により確認できなかったが、溝S5・S94・S161は、その位置関係からS23より派生する溝の可能性が考えられ、何らかの区画溝としての性格も想定される。調査区北端部で確認した溝S1については、近世の染付片が出土していることから、近世もしくはそれ以降の所産と想定されるが、遺構の大半が調査区外へおよんでおり、その性格は不明である。

### 参考文献

- 金閥惣 佐原真編 1997『弥生文化の研究』4 弥生土器II 雄山閣  
大川清 鈴木公雄 工業普通編 1996『日本土器事典』雄山閣  
高木正文 1979『鹿本地方の弥生後期土器』『古文化談叢』第6集  
田中康雄 2017『塙原遺跡I』玉名市文化財調査報告第36集 玉名市教育委員会

第2表-1 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

特徴番号	器種	出土地点	法量 (cm)	表面調整				色調		胎土	備考
				グリッド	造機	樹脂	エッジ	底面	内面		
第6回 1	陶文土器 深鉢	T-25	-	■■■	-	-	(8.5)	凹版文、ナデ	ナデ	褐灰 (5YR4/2)	細粒～1mmの石英、 長石、滑石；少
第6回 2	陶文土器 深鉢	T-27	-	■■■	-	-	(4.6)	凹版文、ナデ	柔痕	褐 (7.5YR4/3)	1mmの大石英、滑石； 多
第6回 3	陶文土器 深鉢	R-26	-	■■■	-	-	(3.1)	凹版文、ナデ ナデか、凹版文	ナデか	灰黄褐 (10YR4/2)	細かい石英、長石、角閃 石、金雲母、やや多
第6回 4	陶文土器 深鉢	T-27	-	■■■	-	-	(4.3)	ナデか、凹版文	ナデ	褐灰 (7.5YR4/1)	細粒～1mmの石英、滑石、 長石、やや多
第6回 5	陶文土器 深鉢	U-26	-	■■■	-	-	(13.0)	凹点文、沈痕、 ナデか	ナデか	にぶ・褐色 (5YR4/3)	1mmの大石英、滑石；多、 金雲母
第6回 6	陶文土器 深鉢	R-27	-	■■■	-	-	(3.6)	ナデ。凹版文 か	ナデ	褐灰 (7.5YR4/3)	1mmの大石英、滑石； 長石、やや多
第6回 7	陶文土器 深鉢	S-27	-	■■■	-	-	(7.2)	凹点文、ケズ りか	ナデ、ミガ牛 か	褐灰 (7.5YR4/2)	細かい石英、長石、角閃 石；多
第6回 8	陶文土器 深鉢	R-27	-	■■■	-	-	(6.4)	凹点文、ケズ りか	ミガ牛か	にぶ・褐色 (7.5YR5/3)	細粒～1mmの石英； 多、長石、角閃石；少
第6回 9	陶文土器 深鉢	S-26	-	■■■	-	-	(11.8)	陶文、ミガ牛。 押立文、沈痕。	ミガ牛	にぶ・褐色 (5YR5/4)	1mmの大石英、滑石； 金雲母；多
第6回 10	陶文土器 深鉢	R-26	-	■■■	-	-	(6.1)	ナデ。底消磨。	ミガ牛	褐灰 (7.5YR4/2)	細粒～1mmの石英、 長石、鉄鉱石、やや多
第6回 11	陶文土器 深鉢	R-26	-	■■■	-	-	(4.7)	削削陶文	ミガ牛	黒褐 (10YR3/2)	細かい石英、長石；多
第6回 12	陶文土器 深鉢	Q-26	-	■■■	-	-	(6.6)	削削陶文、ナ デか	ミガ牛か	にぶ・褐色 (7.5YR5/3)	細粒～1mmの大石英、 長石；金雲母；極少
第6回 13	陶文土器 深鉢	U-27	-	■■■	-	(10.2)	(5.3)	ナデか	ナデか	にぶ・褐色 (5YR4/3)	細かい石英、長石； 多、角閃石；少
第6回 14	陶文土器 深鉢	Q-25	-	■■■	-	-	(2.9)	ナデ	ナデ	黒褐 (10YR3/1)	細粒～1mmの大石英、 長石、金雲母、やや多
第6回 15	陶文土器 深鉢	U-27	-	■■■	-	-	(2.6)	沈漏、ナデか	ナデか	にぶ・褐色 (7.5YR4/2)	細かい石英、長石、角閃 石；少
第6回 16	陶文土器 深鉢	S-26	-	■■■	-	-	(2.0)	沈漏、貝殻壓 印陶文	ナデか	にぶ・褐色 (10YR3/3)	細粒～1mmの大石英、 滑石；少
第6回 17	陶文土器 深鉢	U-27	-	■■■	-	-	(2.3)	ナデか	ナデか	にぶ・褐色 (7.5YR6/4)	細かい石英、長石、 角閃石；や多
第6回 18	陶文土器 深鉢	Q-26	-	■■■	-	-	(2.7)	沈漏、陶文。 ナデ	ナデ	灰黃褐 (10YR4/2)	細粒～1mmの大石英、 長石；金雲母；少
第6回 19	陶文土器 深鉢	T-26	-	■■■	-	-	(2.7)	ナデか	ナデか	にぶ・褐色 (10YR5/3)	1mmの角閃石；多、 石英；長石；少
第6回 20	陶文土器 深鉢	S-26	-	■■■	-	-	(4.6)	ミガ牛	沈漏、ミガ牛	褐灰 (10YR4/1)	細粒～1mmの大石英、 滑石；少
第6回 21	陶文土器 深鉢	Q-26	-	■■■	-	-	(12.5)	ナデか	ナデか	褐灰 (7.5YR4/2)	1mmの角閃石；多、 石英；長石；少
第9回 23	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	-	-	(3.8)	ナデ、指觸凹 ハケメ	ナデ、指觸凹、 ハケメ	にぶ・黃褐 (10YR7/2)	細粒～1mmの大石英、 滑石；少
第9回 24	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	-	-	(2.5)	ナデ、赤彩	ナデか、赤彩	赤玉；指 (10YR8/3)	細かい石英、長石、角閃 石；少
第9回 25	弥生土器 盤	T-25	S-115	1層	-	-	(1.9)	ナデか	ナデか	にぶ・黃褐 (10YR6/3)	細粒～1mmの大石英、 滑石；少
第9回 26	弥生土器 盤	T-25	S-115	1層	-	7.8	(5.4)	ナデ、指觸圧痕 ナデ	ナデ	淡黃褐 (10YR8/3)	細かい石英、長石； 角閃石；少
第9回 27	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	-	-	(4.0)	ナデか	ナデ	淡黃褐 (7.5YR8/3)	細粒～1mmの大石英、 長石；多、角閃石；赤 彩；少
第9回 28	弥生土器 盤	T-25	S-115	1層	-	8.2	(7.5)	ハケメ、ナデか	ナデか	淡黃褐 (7.5YR8/4)	1～2mmの大石英、 長石；角閃石；少
第9回 29	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	-	7.0	(5.7)	ハケメ、ナデ ナデ、ハケメ	ケズリ、ナデか	にぶ・黃褐 (10YR7/3)	細粒～1mmの大石英； 多、角閃石；赤彩；極 少
第9回 30	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	-	5.3	(4.2)	ナデ	ナデ	淡黃褐 (7.5YR8/4)	細粒～1mmの大石英； 多、長石、角閃石；極 少
第9回 31	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	(13.0)	-	(3.4)	ナデ	ミガ牛	にぶ・褐色 (7.5YR7/3)	1mmの大石英；滑石；少
第9回 32	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	(13.2)	-	(3.4)	ナデ	ナデ	淡黃褐 (7.5YR8/4)	1mmの大石英；長石； 角閃石；多
第9回 33	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	-	-	(3.0)	ナデ、ハケメ	ナデ	にぶ・黃褐 (10YR6/3)	細粒～2mmの大石英； 多、細かい長石、角閃石； 少
第9回 34	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	-	8.0	(2.0)	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	淡黃褐 (10YR7/3)	細粒～1mmの大石英； 多、長石、角閃石；少
第9回 35	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	(9.4)	-	(3.8)	ナデ	ナデ、ハケメ	にぶ・褐色 (7.5YR7/4)	細粒～1mmの大石英； 長石、角閃石；少
第9回 36	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	(16.8)	7.4	8.5	ハケメ、ナデか	ナデか	淡黃褐 (7.5YR8/4)	1mmの大石英；角閃 石；少
第9回 37	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	-	-	(3.7)	ナデ	ナデ	淡黃褐 (10YR8/4)	細粒～1mmの大石英； 角閃石；少
第9回 38	陶文土器 鉢	S-25	S-115	1層	-	-	(2.6)	ミガ牛か	ナデか	淡黃褐 (7.5YR8/3)	1mmの大石英；長石； 角閃石；多
第9回 39	陶文土器 鉢	T-25	S-115	1層	-	-	(3.0)	貝殻壓痕陶文	ナデか	灰黃褐 (2.5YR7/2)	淡黃褐； 浅灰
第9回 40	弥生土器 盤	S-25	S-115	1層	-	-	(6.0)	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	淡黃褐 (10YR8/4)	細粒～1mmの大石英； 長石、角閃石；少

第2表-2 出土遺物觀察表〔土器・土製品〕

種類番号	器種	出土遺点				法線(cm)	器面調整		色調		胎土	備考	
		タリック	通稱	層位	口径		底径	高さ	外面	内面			
第9回 41	陶生土器 甕	S-25	S115	1層	29.6	-	(16.2)	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶ・黄褐色(10YR8/4)	暗(7.5YR7/6)	細かい石英、長石；やや多	
第11回 48	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	(22.8)	-	(1.7)	ナデ、ハケメ	-	浅黄褐	(10YR8/3)	1mm 大の石英、長石、角閃石；やや多	
第11回 49	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	-	(8.1)	ナデか	ナデか	浅黄褐(10YR8/4)	-	細粒～1mm 大の石英；燒成や半不良。長石；青閃石；少	
第11回 50	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	-	(3.5)	ナデ、ハケメ	ナデ、指透圧痕	浅黄褐(10YR8/4)	-	1mm 大の石英、長石；多	
第11回 51	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	-	(5.1)	ハケメ後ナデ	ナデ	にぶ・褐(7.5YR7/3)	浅黄褐(10YR8/3)	1mm 大の石英、長石、角閃石；やや多	
第11回 52	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	-	(2.7)	ナデ	-	浅黄褐(10YR8/4)	-	1mm 大の石英、長石；多	
第11回 53	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	-	(14.0)	ハケメ	ナデ	にぶ・褐(7.5YR7/3)	細粒～2mm 大の石英、長石；多		
第11回 54	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	7.2	(6.0)	ハケメ、ナデ	ナデ	浅黄褐(10YR8/3)	-	内部削剥著者なし	
第11回 55	陶生土器 甕	R-25	S117	⑤.2	-	(5.5)	(5.2)	ハケメ、ナデ	剥落の為不明	浅黄褐(7.5YR8/3)	浅黄褐(10YR8/4)	細かい石英、長石、角閃石；少	
第11回 56	陶生土器 甕	R-25	S117	P.7 ①層	-	8.2	(8.4)	工具痕(ハケ ヌカ)	ナデ	浅黄褐(10YR8/4)	-	燒成や半不良。1～2mm 大の石英、長石；やや多	
第11回 57	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	8.0	(8.7)	ハケメ	ナデ	浅黄褐(10YR8/3)	細粒～1mm 大の石英；多、長石；赤色粒；少		
第11回 58	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	(7.2)	(7.2)	ナデ	ナデ	浅黄褐(7.5YR8/6)	にぶ・褐(5YR7/4)	1mm 大の石英、長石；多、角閃石；極少	
第11回 59	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	7.2	(5.8)	ナデ、工具痕 (ハケメナ)	ナデか	浅黄褐(7.5YR8/4)	浅黄褐(7.5YR8/3B)	1mm 大の石英、長石、角閃石；少	
第11回 60	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	7.9	(7.6)	ケズリ、ナデ	工具痕(ケズ リナ)	高灰(10YR8/6)	灰褐色(10YR8/2)	細粒～2mm 大の石英、長石；多	
第11回 61	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	-	(4.7)	ナデ	ナデ	浅黄褐(10YR8/3)	-	1mm 大の石英、長石、角閃石；多	
第11回 62	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	-	(2.0)	ヘラミガキ	ナデ	浅黄褐(7.5YR8/4)	浅黄褐(10YR8/3)	1mm 大の石英、長石；少	
第11回 63	陶生土器 甕	R-25	S117	1層	-	-	(6.8)	ヘラミガキ、次 刷	ヘラミガキ	浅黄褐(7.5YR8/3)	-	1mm 大の石英、長石；多	
第11回 64	陶生土器 杯	R-25	S117	1層	-	-	(8.2)	ハケメのチナ	ナデ、指透圧痕 (10YR8/5)	浅黄褐(7.5YR8/5)	浅黄褐(10YR8/5)	細粒～2mm 大の石英、長石；やや多、角閃石；極少	
第11回 65	陶生土器 器	R-25	S117	1層	-	-	(1.5)	ナデ	ナデ	にぶ・黄褐色(10YR7/3)	にぶ・黄褐色(10YR8/3)	口縁肥厚部分に 付着	
第11回 66	土製品 支脚	R-25	S117	1層	長さ 6.0	幅 4.1	厚さ 4.0	ナデ、指透圧痕	-	浅黄褐	(10YR8/4)	-	1mm 大の石英、角閃石；少
第11回 67	土製品 内板	R-25	S117	1層	直径 3.0	-	-	ナデか、沈殿物 0.8 か	ナデか	にぶ・黄褐色(10YR6/3)	浅黄褐(10YR8/3)	1mm 大の石英、長石；伸入部を二次加工量 7.5 g	
第13回 74	陶生土器 甕	S-26	S10	1層	-	-	(1.8)	ナデ	-	浅黄褐(7.5YR7/6)	周灰(7.5YR4/1)	口縁肥厚部分	
第13回 75	陶生土器 甕	S-26	S10	1層	-	-	(4.8)	ハケメ	ナデか	體(7.5YR7/6)	周灰(7.5YR4/1)	1mm 大の石英、長石；多	
第13回 76	陶生土器 甕	S-26	S10	1層	-	-	(3.9)	ナデか	ナデか	體(2.5YR7/6)	體(2.5YR6/6)	燒成や半不良。器底剥離	
第13回 77	陶生土器 甕	S-26	S10	1層	-	-	(8.4)	ナデ、ハケメ	工具によるケ ズリナ	灰褐色(10YR5/2)	にぶ・褐(10YR6/3)	1mm 大の石英、長石；角閃石；少	
第14回 79	陶生土器 甕	R-27	S11	1層	-	-	(1.3)	ナデ	ナデ	にぶ・黄褐色(10YR7/4)	-	1mm 大の石英；やや多	
第14回 80	陶生土器 甕	R-27	S11	1層	-	-	(2.4)	ナデか	ナデか	浅黄褐(10YR8/3)	灰白(10YR8/2)	1mm 大の石英、長石；少	
第14回 81	陶生土器 甕	R-27	S11	1層	-	-	(1.1)	ナデ	ナデか	にぶ・黄褐色(7.5YR7/3)	にぶ・褐(10YR7/3)	細粒～1mm 大の石英、長石；やや多	
第14回 82	陶生土器 甕	R-27	S11	2層	-	-	(7.8)	ハケメ	ナデか	にぶ・黄褐色(10YR7/4)	細粒～1mm 大の石英；長石；多		
第14回 83	陶生土器 甕	R-27	S11	1層	-	-	(7.2)	(7.8)	ナデ	灰褐色(10YR6/2)	細粒～1mm 大の石英；少		
第14回 84	陶生土器 甕	R-27	S11	1層	-	-	(7.6)	(6.6)	ハケメ、底面 ナデ	にぶ・黄褐色(10YR7/3)	にぶ・黄褐色(10YR6/3)	1mm 大の石英、長石；角閃石；少	
第14回 85	陶生土器 甕	R-27	S11	1層	-	-	(7.2)	(4.5)	ナデ	にぶ・黄褐色(7.5YR7/4)	にぶ・褐(10YR7/4)	1mm 大の石英、角閃石；やや少	
第14回 86	陶生土器 甕	R-27	S11	1層	-	-	(6.0)	(6.1)	ケズリ、ハケメ、 ナデ	浅黄褐色(10YR8/4)	にぶ・黄褐色(10YR7/3)	細粒～1mm 大の石英、角閃石；やや多	
第14回 87	陶生土器 甕	R-27	S11	1層	-	-	(6.3)	ケズリか、ハケ メ、ナデ	ナデ	浅黄褐(10YR8/4)	細粒～2mm 大の石英、長石；角閃石；多		
第14回 88	陶文士器 杯	R-27	S11	1層	-	-	(3.6)	ナデ	ナデ	にぶ・褐(7.5YR5/4)	にぶ・褐(7.5YR5/3)	1mm 大の石英、長石；大量	
第14回 89	陶文士器 杯	R-27	S11	1層	-	-	(2.4)	ナデ	ナデ	にぶ・褐(5YR6/4)	にぶ・褐(7.5YR7/4)	1mm 大の石英、長石；少	
第15回 94	陶生土器 甕	S-26	S36	1層	(29.6)	-	(10.5)	ハケメ、ナデ	ナデ、指透圧痕	浅黄褐	にぶ・褐(10YR8/4)	細かい石英、角閃石；少	
第15回 95	陶生土器 甕	S-26	S36	1層	(19.8)	-	(9.6)	ナデ	ナデ、指透圧痕	浅黄褐	にぶ・黄褐色(10YR6/3)	細かい石英、長石；少	
第15回 96	陶生土器 甕	S-26	S36	1層	-	-	(11.1)	ナデ	ナデ	にぶ・黄褐色(10YR7/3)	1mm 大の石英、云石、角 閃石；やや少		

第2表-3 出土遺物観察表〔土器・土製品〕

博物館番号	器種	出土地点		法量 (cm)			基準調整		色調		胎土	備考	
		グリップ	遺構	幅径	厚度	高さ	外面	内面	外面	内面			
第15回 97	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	-	(7.2)	ナデ	ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR7/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	1mmの大石英・長石・角 閃石・中多	
第15回 98	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	-	(1.4)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	1mmの大石英・		
第15回 99	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	(24.6)	-	(8.4)	ナデ, ハケメ	ナデ	にぶい・黃褐色 (10YR6/3)	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	1mmの大石英・長石・多 角閃石・少	
第15回 100	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	(12.4)	-	(2.2)	ナデ	ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	にぶい・黄褐色 (10YR7/4)	細かい白石英・角 閃石・少	
第15回 101	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	-	(4.5)	ハケメ後ナデ か	ナデ	にぶい・黄褐色 (5YR6/4)	にぶい・相 (5YR7/4)	細かい白石英・長石・角 閃石・や少	
第15回 102	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	-	(2.9)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	にぶい・相 (7.5YR8/3)	1mmの大石英・長石・多・ 角閃石・極少	
第15回 103	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	-	(1.3)	ナデ	ナデ	相 (7.5YR7/6)	浅黄褐色 (10YR8/4)	細粒～1mmの大石英・長 石・多・角閃石・極少	
第15回 104	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	-	(3.4)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	細かい白石英・長石・ 多・角閃石・極少		
第15回 105	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	7.6	(8.2)	ナデ, 工具痕	ナデ	相 (5YR6/6)	相 (7.5YR7/4)	細粒～1mmの大石英・長 石・多・角閃石・極少	
第15回 106	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	(10.0)	(7.6)	ナデ	ナデ	にぶい・相 (10YR6/4)	にぶい・黄褐色 (7.5YR8/4)	1mmの大石英・長石・多・ 細かい白石英・極少	
第15回 107	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	-	(6.0)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	1mmの大石英・長石・	
第15回 108	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	9.0	(3.6)	ナデ	-	にぶい・相 (7.5YR8/4)	相 (7.5YR8/4)	細粒～1mmの大石英・長 石・多・角閃石・極少	
第15回 109	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	8.4	(11.0)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	細かい白石英・長石・ 多・角閃石・細粒付 着	
第15回 110	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	7.4	(8.1)	ハケメ	ナデか	相 (7.5YR6/6)	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	1mmの大石英・多・長石・ 角閃石・極少	
第16回 111	弥生土器 鉢	S-26	S36	1 罩	-	7.8	(6.1)	ナデ	ナデ, 工具痕	浅黄褐色 (10YR8/6)	浅黄褐色 (10YR8/2)	細粒～1mmの大石英・長 石・多	
第16回 112	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	10.5	(6.6)	ナデ	ナデ	にぶい・黄褐色 (7.5YR6/6)	黄灰 (2.5Y4/1)	細かい白石英・少	
第16回 113	弥生土器 鉢	S-26	S36	1 罩	-	(10.0)	(6.4)	ナデ	ミガキ	明褐色 (5YR5/6)	相 (5YR6/6)	1mmの大石英・長石・ 角閃石・極少	
第16回 114	弥生土器 鉢	S-26	S36	1 罩	(35.0)	-	(13.1)	ナデ	ナデ	灰黄褐色 (10YR5/2)	灰黄褐色 (10YR4/2)	細かい白石英・長石・多	
第16回 115	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	-	(2.8)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	1mmの大石英・長石・ 角閃石・少		
第16回 116	弥生土器 甕	S-26	S36	1 罩	-	-	(1.1)	ナデ	ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR4/3)	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	細粒～1mmの大石英・長 石・多・角閃石・極少	
第17回 124	弥生土器 甕	Q-25	S43	1 罩	-	7.3	(2.8)	ハケメ, 底面: ナデ	-	にぶい・相 (5YR6/4)	-	細粒～2mmの大石英・長 石・角閃石・少	
第17回 125	弥生土器 甕	Q-25	S43	1 罩	-	-	(2.0)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	1mmの大石英・底面: 長石・角閃石・少		
第17回 126	縄文土器 鉢	Q-25	S43	1 罩	-	-	(2.6)	ナデ	ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR7/3)	細かい白石英・長石・角 閃石・多		
第17回 127	縄文土器 鉢	Q-25	S43	1 罩	-	-	(2.4)	ナデ	ミガキか	浅黄褐色 (10YR8/3)	細かい白石英・長石・角 閃石・多	扫描文	
第18回 131	弥生土器 甕	Q-25	S68	1 罩	(22.4)	-	(14.1)	ナデ, ハケメ	ナデ	灰褐 (7.5YR5/2)	にぶい・相 (7.5YR6/3)	1mmの大石英・長石・ 多	
第18回 132	弥生土器 甕	Q-25	S68	2 罩	-	-	(6.1)	ミガキ, 底: ナ デ	ミガキか	灰褐 (7.5YR7/6)	細かい白石英・長石・ 少		
第18回 133	弥生土器 甕	Q-25	S68	2 罩	-	8.4	(8.8)	ハケメ, ナデ	ナデ, 工具痕, ナデ	相 (7.5YR7/6)	にぶい・相 (7.5YR6/3)	1mmの大石英・多	
第18回 134	弥生土器 甕	Q-25	S68	1 罩	-	-	(2.1)	ナデ	ナデ	にぶい・相 (7.5YR7/4)	灰黄褐色 (10YR6/2)	細粒～1mmの大石英・ 長石・角閃石・多 内面環保材着	
第19回 141	弥生土器 甕	Q-25	S93	トレンチ	-	-	(2.6)	ナデ, ハケメ	ナデ, 整面E面	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	浅黄褐色 (10YR8/4)	1mmの大石英・長石・ 底多	
第19回 142	弥生土器 甕	Q-25	S93	1 罩	-	6.8	(5.2)	ナデ, 表面E面, ナデ	ナデ, カ	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	褐灰 (10YR4/1)	1mmの大石英・長石・ 少	
第20回 143	弥生土器 甕	R-24	S98	1 罩	(25.5)	-	(15.9)	ハケメ, ナデ	ナデ, 表面E面	褐灰 (7.5YR4/3)	にぶい・相 (7.5YR7/4)	1mmの大石英・底: 長石・ 角閃石・少	
第20回 144	弥生土器 甕	R-24	S98	1 罩	-	-	(2.7)	ナデ	ナデ, 表面E面	褐灰 (7.5YR8/6)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	1mmの大石英・多・長石・ 角閃石・少	
第20回 145	弥生土器 甕	R-24	S98	1 罩	-	-	(3.7)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	1mmの大石英・長石・ 角閃石・少		
第20回 146	弥生土器 甕	R-24	S98	S1	1 罩	-	(4.9)	ナデ	ナデ	褐灰 (10YR5/1)	にぶい・黄褐色 (10YR7/2)	細かい白石英・長石・角 閃石・少	
第20回 147	弥生土器 甕	R-24	S98	S1	1 罩	-	8.8	(8.2)	ハケメ	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	1mm的大石英・長石・ 多	
第20回 148	弥生土器 甕	R-24	S98	S1	-	(7.8)	(3.7)	ハケメ, 基面: ナデ	-	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	1mmの大石英・長石・ 少		
第20回 149	弥生土器 甕	R-24	S98	S1	(13.2)	-	(3.4)	ナデ, ミガキか	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	1mmの大石英・長石・ 少		
第20回 150	弥生土器 甕	R-24	S98	S1	-	-	(3.2)	ナデ, ミガキか	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	明褐色 (7.5YR7/2)	1mmの大石英・長石・多	
第21回 154	弥生土器 甕	Q-24	S182	1 罩	-	-	(1.6)	ナデ, 刻目	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/3)	にぶい・相 (7.5YR7/4)	1mmの大石英・長石・ 角閃石・中多	

第2表-4 出土遺物觀察表〔土器・土製品〕

標識番号	基層	出土地点			法線(cm)		器皿調整		色調		胎土	備考	
		タリフ	通構	層位	口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
第21回 155	歩生土器 窓	Q-24	S182	1層	-	11.2 (8.3)	ペラミガキ、ナ チ、ケズリ後ナ チ	ケリ、工具痕 ナチ	浅黄褐色 (10YR8/4)	灰褐色 (10YR8/3)	1mm 大の石英・長石・ 角閃石・少		
第21回 156	土製品 木札	Q-24	S182	1層	長石 4.3	幅 5.2	厚さ 1.8	ナチ	ナチ	灰褐色 (10YR7/4)	灰褐色 (10YR8/3)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・多	歩生土器2件 木製品 45.3g
第22回 158	歩生土器 窓	Q-24	S183	1層	-	-	(5.2)	朝日、ナチ	指潤圧縮、工具 にぶい・黃褐色 ナチ	にぶい・黃褐色 (10YR7/3)	にぶい・黃褐色 (10YR8/4)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・少	
第22回 159	歩生土器 窓	Q-24	S183	1層	-	-	(6.4)	ハケメ後ナチ	ナチ、指潤圧縮	浅黄褐色 (10YR8/4)	灰褐色 (10YR8/4)	1mm 大の石英・長石・ 多	
第22回 160	歩生土器 窓	Q-24	S183	1層	-	-	(3.7)	ナチ	ナチ	蘭灰(10YR5/1)	灰褐色 (10YR8/3)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・多	
第22回 161	歩生土器 窓	Q-24	S183	1層	-	-	(4.0)	ハケメ	ナチ	蘭灰(5YR7/6)	灰褐色(7.5YR4/2)	1mm 大の石英・長石・多・ 角閃石・少	
第22回 162	歩生土器 窓	Q-24	S183	1層	-	-	(3.9)	ナチ、ハケメ	ミガキ	浅黄褐色 (10YR8/4)	1mm 大の石英・長石・ 多		口縁に赤彩：粗 (2.5YR6/6)
第22回 163	歩生土器 窓	Q-24	S183	1層	つまり 6.1	21.6	10.4	ナチ、ハケメ、 ヘラミガキ	ナチ、ヘラミガ キ	にぶい・黄褐色 (7.5YR6/3)	にぶい・黄褐色 (7.5YR6/4)	1mm 大の石英・角閃石・ 少	
第22回 164	歩生土器 窓	Q-24	S183	1層	-	-	(2.0)	ペラミガキ	ナチ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	1mm 大の石英・長石・ やや多	
第23回 165	歩生土器 窓	R-24/25	S190	1層	口2.0	-	(2.2)	ナチ	ナチ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・無		
第23回 166	歩生土器 窓	R-24/25	S190	1層	-	-	(1.7)	朝日、ナチ	ナチ、ハケメ	浅黄褐色 (10YR8/4)	1mm 大の石英・長石・ 少		
第23回 167	歩生土器 窓	R-24/25	S190	1層	-	(7.4)	ケズリ(横)・ ケズリ(横)・ ナチ	ナチ	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・角閃石・赤褐色・ 多			
第23回 168	歩生土器 窓	R-24/25	S190	1層	-	7.9	(4.9)	ナチ、工具痕	ナチ	蘭灰(7.5YR6/6)	細粒～2mm 大の石英・ 長石・角閃石・少		
第23回 169	歩生土器 窓	R-24/25	S190	1層	-	6.2～ 7.0	(5.7)	ナチ、ケズリ	ナチ	にぶい・黄褐色 (10YR7/3)	1mm 大の石英・長石・ 角閃石・少		燒成や不良
第23回 170	歩生土器 窓	R-24/25	S190	1層	-	-	(3.7)	ナチか	ナチか、指潤圧 縮	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・角閃石・少		燒成や不良
第23回 171	手握土器 蓋	R-24/25	S190	1層	つまり 2.3	3.8	2.7	指潤圧縮、ナチ	ナチ	にぶい・黄褐色 (7.5YR7/3)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・無		
第24回 172	歩生土器 窓	R-27	S12	3層	13.4	(7.2)	(25.0)	ナチか	ナチか	浅黄褐色 (7.5YR6/4)	浅黄褐色 (10YR8/3)	1mm 大の石英・長石・ 多	燒成や不良
第25回 173	歩生土器 窓	R-26	S40	1層	(25.4)	-	(8.3)	ナチ、ハケメ	ナチ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/6)	1mm 大の石英・長石・ 角閃石・少	
第26回 174	歩生土器 窓	Q-26	S42	1層	(46.8)	-	(10.6)	ナチ、指潤圧縮 窓	ナチ、その他 陶器の爲の不明	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	にぶい・黄褐色 (7.5YR7/4)	1mm 大の石英・長石・ 角閃石・少	
第27回 175	歩生土器 窓	Q-26	S47	1層	(24.4)	-	(11.7)	ナチ、沈銅	ナチ	にぶい・黄褐色 (10YR7/4)	粗粒(2.5YR6/6)	1mm 大の石英・長石・ 角閃石・少	
第27回 176	歩生土器 窓	Q-26	S47	1層	-	7.1	(7.0)	ハケメ、ナチ	ナチ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	1mm 大の石英・長石・ 少	底面内外から穿 孔集中
第28回 177	歩生土器 窓	R-26	S52	2層	-	7.2	(6.5)	ハケメ、ナチ	ハケメ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	にぶい・黄褐色 (7.5YR7/4)	1mm 大の石英・長石・ 少	
第29回 178	歩生土器 窓	R-25	S57	1層	-	8.4	(8.6)	ナチか	ナチ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR6/2)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・多・角閃石・少	
第29回 179	歩生土器 窓	S-26	S57	1層	-	7.8	(4.6)	ペラナチ、工具 痕(ケズリ)	ナチ	にぶい・黄褐色 (7.5YR7/4)	細粒～2mm 大の石英・ 長石・多		
第29回 180	鷹文土器 杯	R-25	S57	1層	-	(5.3)	ナチ	沈銅	ナチ	灰褐色 (5YR4/2)	灰褐色(7.5YR4/2)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・少	金銀混入
第32回 181	歩生土器 窓	R-24/25	S72	1層	(23.6)	7.8	32.1	ハケメ、ナチ	ナチ	にぶい・蘭 (7.5YR5/3)	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	細粒～2mm 大の石英・ 長石・多・角閃石・赤褐色・ 少	
第32回 182	歩生土器 窓	R-24/25	S72	1層	(23.0)	-	(10.7)	ナチ	指潤圧縮	にぶい・黄褐色 (7.5YR5/3)	にぶい・黄褐色 (7.5YR6/4)	1mm 大の石英・長石・ 少	
第32回 183	歩生土器 窓	Q-25	S72	1層	19.6	-	(9.0)	ナチか、沈銅	ナチ	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・多・角閃石・少		燒成や不良
第32回 184	歩生土器 窓	Q-25	S72	1層	(26.0)	-	(7.6)	ハケメ後ナチ、 ナチ	指潤圧縮	にぶい・黄褐色 (10YR6/3)	1mm 大の石英・長石・ 少		
第33回 185	歩生土器 窓	Q-24/25	S72	1層	(25.1)	8.0	30.6	ナチ、沈銅	ナチ	にぶい・蘭 (7.5YR5/3)	灰褐色 (10YR5/2)	1mm 大の石英・長石・多・ 角閃石・少	
第33回 186	歩生土器 窓	Q-25	S72	1層	24.1	(礁)	29.5	ナチ、ハケメ	指潤圧縮、ナチ	上位：にぶい・ 蘭(10YR6/3) 下位：にぶい・蘭 (7.5YR8/4)	にぶい・黄 (2.5YR6/3)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・多・角閃石・極少	
第33回 187	歩生土器 窓	Q-25	S72	1層	(26.0)	-	(10.0)	ナチ、ハケメ	指潤圧縮、ナチ	にぶい・蘭 (7.5YR8/3)	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	1mm 大の石英・長石・ 少	
第33回 188	歩生土器 窓	Q-24/25	S72	1層	-	-	(4.7)	ナチ、ハケメ後 ナチ、赤彩	指潤圧縮、赤彩	にぶい・黄褐色 (7.5YR8/4)	にぶい・蘭 (7.5YR8/3)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・少	
第33回 189	歩生土器 窓	Q-25	S72	1層	-	8.3	(24.0)	ハケメ、ナチ	ナチ	にぶい・蘭 (7.5YR8/4)	にぶい・蘭 (7.5YR8/3)	1mm 大の石英・長石・ 多	
第33回 190	歩生土器 窓	Q-25	S72	1層	-	(7.4)	(6.6)	ハケメ、ナチ	ナチ	にぶい・蘭 (7.5YR8/4)	にぶい・蘭 (7.5YR7/3)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・多・角閃石・孔集中	
第33回 191	歩生土器 窓	Q-24/25	S72	1層	-	8.9	(24.1)	ハケメ、ナチ	ナチ	にぶい・蘭 (7.5YR8/3)	にぶい・蘭 (7.5YR7/4)	1mm 大の石英・長石・ 少	
第33回 192	歩生土器 窓	Q-24/25	S72	1層	-	7.9	(7.0)	ペラミガキ、ナ チ	指潤圧縮	にぶい・蘭 (7.5YR8/4)	灰褐色 (7.5YR4/2)	1mm 大の石英・長石・多・ 角閃石・少	
第33回 193	歩生土器 窓	Q-24	S72	1層	-	(6.4)	(9.7)	ハケメ後ナチ ナチ	ハケメキサ ナチ	にぶい・蘭 (7.5YR8/4)	にぶい・蘭 (10YR5/3)	細粒～1mm 大の石英・ 長石・多	







第2表-8 出土遺物觀察表〔土器・土製品〕

種類番号	器種	出土地点			法線(cm)		器皿調整		色調		出土	備考	
		タリッフ	通路	層位	口径	底径	器高	外面	内面	外面			
第64回 310	陶生土器 脚付鉢か	S-24	S105	1層	-	(3.1)	ナデ	ナデ、工具痕	にぶい黃褐色(10YR5/3)	細かい石英・長石・角閃石:穂少	脚部乳孔・曲所 残存		
第64回 311	陶生土器 高环	S-24	S105	1層	-	(8.6)	ハケメ、ナデ	工具痕(楕方軸 ペラナデ)	浅黃褐色 (7.5YR8/4)	細かい2mmの石英・長石: 多・角閃石:少			
第64回 312	陶生土器 高環	S-24	S105	1層	-	(6.4)	ハケメ	ハケメ、ナデ	にぶい黃褐色 (10YR7/3)	細かい石英・長石・角閃 石:少	燒成やや不良		
第64回 313	陶生土器 鉢	S-24	S105	1層	(10.4)	-	(5.9)	ナデ	ナデ	にぶい黃褐色 (10YR6/4)	細かい石英・長石・角閃石: 無少		
第64回 314	陶生土器 鉢	S-24	S105	1層	(14.4)	-	(3.8)	ナデ	ナデ	にぶい黃褐色 (10YR7/4)	細かい石英・長石・角閃石: 無少		
第64回 315	陶生土器 鉢	S-24	S105	1層	-	(3.5)	ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい黃褐色 (10YR6/4)	細かい石英:少			
第64回 316	陶生土器 鉢	S-24	S105	1層	-	(8.6)	ハケメ	ナデ	浅黃褐色 (10YR8/3)	細かい石英・長石:やや多	外部水面にかけ 橙色(2.5YR6/6)		
第64回 317	陶生土器 鉢	S-24	S105	1層	-	(5.3)	タタキ、ナデ, ハケメ	ハケメ	にぶい黃褐色 (10YR5/2)	細かい石英・長石・角閃石: 少			
第64回 318	陶生土器 脚付鉢か	S-24	S105	1層	-	(9.2)	(4.7)	ナデ	ナデ	にぶい黃褐色 (7.5YR3/3)	細かい1mmの石英・ 長石・角閃石:多		
第64回 319	陶生土器 器台	S-24	S105	1層	(14.4)	(12.4)	15.5	ナデ、ハケメ, タタキ	ナデ	にぶい・緑(7.5YR7/4)	1mm人の右肩:少		
第64回 320	陶生土器 器台	S-24	S105	1層	-	(6.5)	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	浅黃褐色 (10YR8/4)	細長い1mmの石英:多・ 長石・角閃石:少			
第64回 321	陶生土器 器台	S-24	S105	1層	-	(3.3)	ハケメ、ナデ	ハケメ	にぶい・緑(7.5YR7/4)	細長い1mmの石英:多・ 長石・角閃石:少			
第64回 322	陶生土器 器台	S-24	S105	1層	-	(3.3)	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい・緑(7.5YR7/4)	細長い1mmの石英:長 石:多			
第64回 323	陶生土器 ショコラ (小型)	S-24	S105	1層	6.0	5.7	7.0	ハケメ、ナデ	ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR8/4)	細長い3mm人の石英: 長石・角閃石:やや多		
第64回 324	手握土器 鉢	S-24	S105	1層	-	(2.9)	ナデ	ナデ	にぶい・緑(10YR7/4)	1mm人の右肩: 長石・角閃石:少			
第64回 325	手握土器 鉢	S-24	S105	1層	-	(2.1)	ナデ	ナデ	にぶい・緑(7.5YR7/4)	0.5～1mmの長石・石英:	黒鑽		
第64回 326	手握土器 鉢	S-24	S105	1層	-	(2.2)	ナデ	ナデ	黒(2.5Y2/1)	0.5mmの砂粒・雲母			
第65回 335	陶生土器 質	R-23	S110	1層	-	(6.8)	タタキ後ハケ メ	ハケメ、ナデ	にぶい・緑(7.5YR7/4)	細かい石英・長石・角閃 石:多			
第65回 336	陶生土器 質	R-23	S110	1層	-	(3.6)	ハケメ、波状文, 輪郭文	ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	にぶい・緑(7.5YR6/4)	1mm人の右肩・長石・ 角閃石:やや多		
第65回 337	陶生土器 ショコラ	R-23	S110	1層	-	(15.6)	(8.9)	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	浅黃褐色 (10YR8/3)	1mm人の右肩・長石: 少		
第65回 338	陶生土器 ショコラ	R-23	S110	1層	-	(3.9)	ハケメ、ナデ	ナデ、柄圓柱直	浅黃褐色 (10YR8/3)	浅黃褐色 (10YR8/4)	細かい石英・長石・角閃 石:やや多		
第65回 339	圓文土器 鉢	R-23	S110	1層	-	(2.9)	ナデか	ナデか	浅黃褐色 (10YR8/4)	にぶい・黄褐色 (10YR7/4)	把手後端部分: 1mmの砂粒・雲母	沈底・痕状凹口	
第65回 340	陶生土器 質	R-23	S110	1層	-	(1.5)	ナデか	ナデか	浅黃褐色(7.5YR8/4)	細長い1mmの石英: 長石・角閃石:多			
第65回 341	土製品 円板	R-23	S110	1層	長さ 4.5	幅 4.5	厚さ 0.6	タタキ後ハケ メ	ハケメ	浅黃褐色(7.5YR8/4)	細かい石英・長石・角閃 石:やや多	四角形に近い形 重量17.4g	
第66回 344	圓文土器 鉢	R-24	S187	1層	-	(5.8)	ミガキ	ミガキか	灰黃褐色 (10YR5/2)	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	1mm人の右肩・長石: 金雲母:極少	沈底・痕状凹口	
第66回 345	陶生土器 質	R-24	S187	1層	-	(8.2)	ナデ	ナデ	灰白(10YR8/2)	浅黃褐色 (10YR8/3)	0.5～2mmの砂粒・雲母		
第66回 346	陶生土器 質	R-24	S187	1層	28.9	-	(20.6)	ナデ、ハケメ	ナデ(強度不 明)	にぶい・緑(7.5YR6/8) にぶい・黄褐色 (10YR7/4)	1～2mmの長石・石英: 多・角閃石・褐色粘土・雲母		
第66回 347	陶生土器 質	R-24	S187	1層	-	(2.5)	ナデ	ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	0.5～1mmの砂粒・褐色 粘土・角閃石	0.5～1mmの長石・石英: 角閃石	黒鑽	
第66回 348	陶生土器 質	R-24	S187	1層	-	(4.5)	(4.1)	ハケメ、ナデ	ナデ	浅黃褐色 (10YR8/3)	1～2mmの長石・石英: 角閃石・雲母		
第66回 349	陶生土器 質	R-24	S187	2層	-	(5.2)	(2.7)	ナデ	-	浅黃褐色 (7.5YR8/4)	0.5～1mmの砂粒・雲母		
第67回 350	陶生土器 質	R-24	S187	1層	(22.0)	-	(12.4)	ナデ、ハケメ後 ナデ、ハケメ	ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR7/4)	1～2mmの長石・石英: 角閃石		
第67回 351	陶生土器 質	R-24	S187	1層	-	(2.3)	ナデ	ナデ	にぶい・緑(7.5YR5/4)	0.5～2mmの長石・石英: 角閃石			
第67回 352	陶生土器 質	R-24	S187	1層	-	(9.9)	(4.1)	ナデ	ナデ	にぶい・緑(7.5YR6/4)	1～2mmの長石・石英: 角閃石		
第67回 353	陶生土器 質	R-24	S187	1層	-	11.8	(6.4)	ナデ	ナデ	灰褐色 (7.5YR7/6)	1～2mmの長石・石英: 角閃石		
第67回 354	陶生土器 質	R-24	S187	1層	-	(4.8)	(9.2)	ハケメ、ナデ	ナデ	にぶい・黄褐色 (10YR6/4)	1～2mmの長石・石英: 3～5mmの石英・角閃石		
第67回 355	陶生土器 質	R-24	S187	1層	-	3.8	(2.8)	ミガキ	ナデ	浅黃褐色 (10YR8/4)	0.5～3mmの砂粒・雜體 な雲母		
第67回 356	陶生土器 質	R-24	S187	1層	-	(6.0)	(3.3)	ナデ	ナデ	浅黃褐色 (10YR7/4)	1～3mmの長石・石英: 多		
第67回 357	陶生土器 質	R-24	S187	1層	-	(9.4)	ミガキ	ナデ	板(7.5YR6/6) 青褐色	0.5mm粒の砂粒・青褐色 粘土・雲母			





第3表-2 出土遺物観察表（石器・石製品）

標識番号	器種	出土地点			法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考
		ダグラフ	道標	層位	長さ	幅	厚さ			
第14回 91	磨未製品	R-27	S11	1層	3.0	1.8	0.5	2.6	安山岩	
第14回 92	磨石・鋸石	R-27	S11	1層	11.9	7.4	4.0	562.0	安山岩	2面に使用の痕跡
第14回 93	磨石	R-27	S11	1層	5.5	3.3	4.3	78.0	安山岩	目の細かい石材
第16回 117	鋸石	S-26	S36	1層	7.4	4.8	4.0	188.0	安山岩	
第16回 118	台石	S-26	S36	1層	20.0	16.2	6.2	2360.0	花崗岩	
第16回 119	台石	S-26	S36	1層	19.4	15.1	9.2	3880.0	花崗岩	
第16回 120	砥石	S-26	S36	1層	7.7	8.0	4.7	188.0	砂岩	天草礁石。3面使用
第16回 121	砥石	S-26	S36	1層	6.8	4.3	3.2	126.0	砂岩	2面使用
第16回 122	円板	S-26	S36	1層	直径3.4		0.4	6.7	安山岩	両面ともかなり平坦で、細かく丁寧な研磨
第16回 123	磨未製品	S-26	S36	1層	4.5	3.5	0.9	10.1	安山岩	片面に自然面残る
第17回 128	磨石	Q-26	S43	1層	10.5	9.2	6.5	895.0	安山岩	
第17回 129	鐵	Q-26	S43	1層	3.0	17.0	0.5	1.5	安山岩	
第17回 130	磨未製品	Q-26	S43	1層	2.0	1.7	0.3	0.6	黒曜石	
第18回 135	磨石	Q-25	S68	1層	13.4	8.0	5.6	8.7	安山岩	
第18回 136	鐵	Q-25	S68	1層	3.3	2.2	0.7	3.0	安山岩	
第18回 137	鐵	Q-25	S68	1層	3.4	1.5	0.4	0.9	安山岩	
第18回 138	石器 (未製品か)	Q-25	S68	1層	4.2	2.2	0.6	6.7	安山岩	
第18回 139	磨未製品	Q-25	S68	1層	2.5	1.3	0.4	1.3	安山岩	
第18回 140	鐵	Q-25	S68	1層	5.2	1.5	1.1	6.5	安山岩	
第20回 151	鐵	R-24	S98	1層	2.7	1.7	0.4	1.0	安山岩	
第20回 152	鐵	R-24	S98	1層	3.3	1.4	0.5	2.4	安山岩	
第20回 153	磨未製品	R-24	S98	1層	3.2	4.1	0.8	11.6	安山岩	
第21回 157	鐵	Q-24	S182	1層	1.2	1.1	0.6	0.7	黒曜石	頭部のみ残存
第50回 261	磨製片刃石斧	U-26	S142	1層	38.0	(1.0)	(0.8)	32.5	シルト質泥岩 か。	
第62回 294	鐵	R-25	S53	1層	(1.4)	(1.0)	0.3	0.3	黒曜石	
第62回 295	鐵	R-25	S53	1層	(1.7)	(2.0)	(0.3)	0.8	黒曜石	
第64回 327	砥石	S-24	S105	1層	(14.9)	(6.6)	(2.4)	367.9	安山岩	
第64回 328	砥石か	S-24	S105	1層	(4.9)	(1.8)	(5.0)	13.7	砂岩	
第64回 329	磨製石斧	S-24	S105	1層	(5.6)	(2.0)	(1.2)	9.3	安山岩	
第64回 330	磨製石斧	S-24	S105	1層	(7.8)	(3.4)	(3.9)	116.4	安山岩	
第64回 331	磨石	S-24	S105	1層	46.9	(2.5)	(4.4)	49.8	花崗岩	
第64回 332	磨石	S-24	S105	1層	(9.0)	(6.9)	(4.0)	305.4	安山岩	
第64回 333	鐵	S-24	S105	1層	2.0	1.6	0.4	1.0	安山岩	
第64回 334	磨未製品	S-24	S105	1層	2.8	1.8	0.7	2.5	安山岩	
第65回 343	鐵	R-23	S110	1層	2.8	1.8	0.4	1.9	安山岩	
第67回 378	磨製石鐵	R-24	S187	1層	(3.4)	2.6	0.3	4.0	玄武岩か	風化著しい。
第67回 380	鐵	R-24	S187	1層	(1.7)	(1.3)	0.3	0.5	黒曜石	
第67回 381	磨石	R-24	S187	1層	14.7	9.0	(7.9)	1333.4	安山岩	

## 出土遺物観察表〔鉄器・鉄製品〕〔玉類〕

第4表 出土遺物観察表〔鉄器・鉄製品〕

辨別 番号	器種	出土地點			法量(cm)		重量 (g)	材質	備考
		タリット	道構	層位	長さ	幅			
第65回 342	鉤	S-23	S110	I層	20.3	1.5	0.7	30.1	鉄 セリガント
第67回 379	環	R-24	S187	I層	13.1	3.8	1.1	37.3	鉄 双面

第5表-1 出土遺物観察表〔玉類〕

辨別 番号	器種	出土地點			法量(mm)		重量 (g)	材質	備考
		タリット	道構	層位	直徑	厚さ			
第67回 379	玉	R-24	S187	I層	4.7	4.2	1.2	0.12	ガラス 濃緑色。気泡多数入る。

# 写真図版



図版 1



塚原遺跡調査 2 区全景



塚原遺跡調査 1・2 区全景（合成）

図版 2



塙原遺跡遠景（北から）



塙原遺跡遠景（南から）

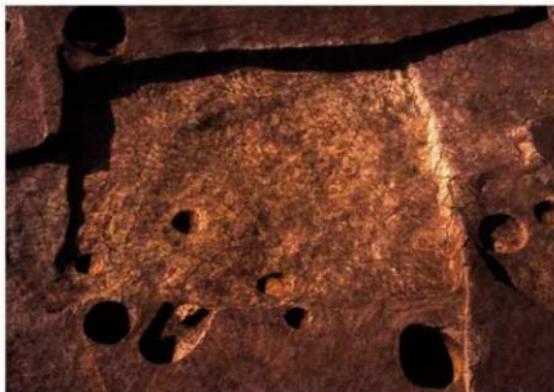


S115 完堀 (東から)



S117 完堀 (東から)

図版 4



S10 完掘（東から）



S11 完掘（東から）



S36 完掘（東から）



S43 完堀（東から）



S68 完堀（東から）



S93 完堀（東から）

図版 6



S98 完堀（東から）



S182 完堀（東から）



S183 完堀（東から）

図版 7



S190 完堀（東から）



S12 完堀（西から）



S40 完堀（東から）

図版 8



S42 完堀（東から）



S47 完堀（東から）



S52 完堀（北から）



S57 完堀（東から）



S70 完堀（東から）



S71 完堀（北から）

図版 10



S72 完堀（東から）



S81 完堀（東から）



S85 完堀（東から）

図版 11



S86 完堀（南から）



S88 完堀（西から）



S97 遺物出土状況（南から）

図版 12



S100 完堀（南から）



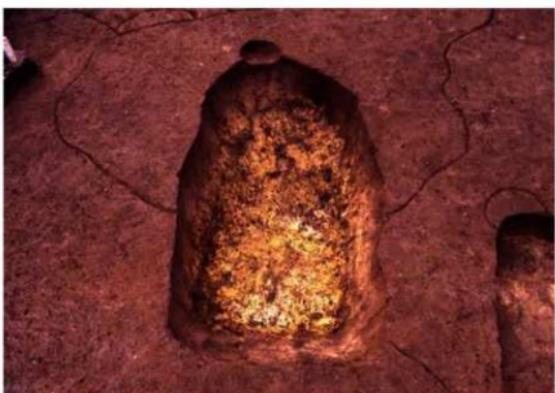
S103 完堀（東から）



S109 完堀（東から）



S113 完堀（東から）



S120 完堀（東から）



S132 完堀（南から）

図版 14



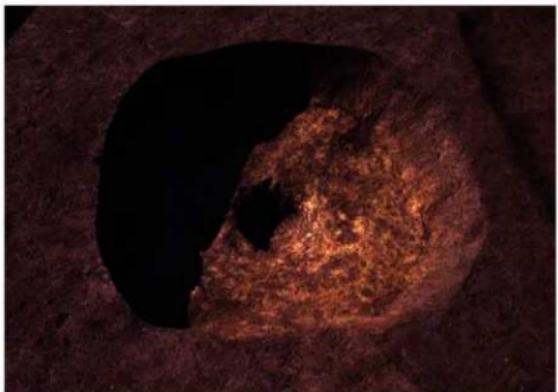
S135 遺物出土状況（東から）



S135 完堀（南から）



S139 完堀（東から）



図版 16



S176 完堀（東から）



S185 遺物出土状況（西から）



S185 完堀（北から）



S192 完堀（東から）



S206 完堀（南から）



S209 完堀（北から）

図版 18



S553 完堀（北から）



S105 完堀（南から）



S110 遺物出土状況（東から）



S110 完堀（北から）

図版 20



5187 遺物出土状況 1 (北から)



5187 遺物出土状況 2 (東から)



S187 遺物出土状況 3 (東から)



S187 完堀 (南から)

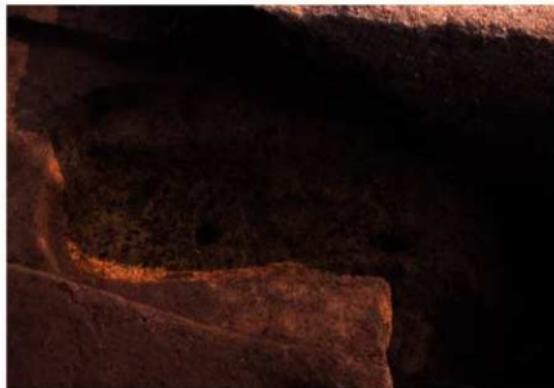
図版 22



S2 完堀（北から）



S177 完堀（東から）



S111 完堀（西から）



図版 24



S211 完堀（東から）



S550 完堀（南から）



S1 完堀（東から）



S5 完堀（西から）



## 報告書抄録

ふりがな	つかはらいせき							
書名	塚原遺跡II							
副書名	市道岱明玉名線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	玉名市文化財調査報告							
シリーズ番号	第40集							
編著者名	田中康雄 古閑敬士 江見恵留							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	〒869-0292 熊本県玉名市岩崎163							
発行年月日	2018年3月22日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	***		***		m <sup>2</sup>
塚原遺跡	玉名市 岱明町 野口	43206	733	32° 55' 28"	130° 31' 57"	平成24年10月1日 ～ 平成25年3月19日	2,300m <sup>2</sup>	市道改良
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
塚原遺跡	包蔵地	縄文		縄文土器				
		弥生(中期)	大型建物・竪穴遺構・土坑	弥生土器・石器・土製品	円形大型建物			
		弥生(後期)	竪穴住居・竪穴遺構・土坑・溝	弥生土器・石器・鐵器・土製品・ガラス玉	竪穴住居			
		その他(時期不明)	土坑・溝					

玉名市文化財調査報告 第40集

## 塙原遺跡II

市道傍明玉名線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成30年3月22日発行

編集発行 玉名市教育委員会  
〒865-8501 熊本県玉名市岩崎163  
TEL 0968-75-1136 FAX 0968-75-1138

印 刷 株式会社 有明印刷  
〒865-0022 熊本県玉名市寺田123-1  
TEL 0968-73-2055 FAX 0968-72-3504



